

昭和拾五年七月

秘

北支那産米増殖計畫

興亞院華北連絡部  
經濟部

研-0651

北支那産米増殖計畫

一、方針

民國三十年（昭和十六年）ヨリ同三十四年（昭和二十年）迄五ケ年間ニ亙リ二百一十萬石ノ増産ヲ圖ルモノトス  
北支那ニ於ケル産米増殖ニ關シテハ將來其ノ需給ノ趨勢ヲ檢討シ之カ自給自足ヲ目途トシテ計畫的ニ改良増殖ヲ圖ル可キモ差當リ第一期事業トシテ前記數量ノ増産ヲ圖ルモノトス

二、要領

（一）北支那ニ於ケル米穀生産事情ニ鑑ミ既設水田ニ於ケル水利ノ改善優良品種ノ普及、耕種法及施肥法ノ改善、病蟲害防除等ニヨル單位面積當收量ノ増加ニ就テハ相當期待スヘキモノアリト認ムルモ第一期計畫ニ於テハ主トシテ開田及地目變換ニヨル作付面積ノ擴張ニ重點ヲ置キ所期ノ増收ヲ圖ルモノトス

（二）民國三十年以降五ケ年間ニ米ノ作付面積擴張ノタメ行フ土地開發事業ノ施行面積ハ開田五八九〇〇町歩、地目變換ニ七八〇〇町歩計八六七〇〇町歩トシ第五年次ニ於テ總三一〇〇〇石ヲ以後三年間ニ耕地ノ熟田化ニヨリ漸増シ第八年次ニ於テ總三二五〇〇〇石ヲ増産スルモノトス

（三）前記開田及地目變換地ノ裏作ニヨル畑作物ノ増産並ニ各開發地區内ニ於テ前記工事施行上同時ニ施行スルヲ有利ト認メラルル地域ノ開畑並ニ畑地灌溉ニヨル増産ハ別途計畫セララル小麥、棉花、雜穀等各畑作物ノ増産計畫ニ於テ考慮スルモノトス

（四）獎勵品種ノ選定育成、耕種法及施肥法ノ改善並ニ病蟲害防除等ニ依ル單位面積當收量ノ増加ニ關シテハ華北農事試驗場及同支場ニ於ケル試驗研究ノ成果ニヨリ逐次一般ニ普及實施スルモノトス

要實施要綱

(一) 土地開發事業

(イ) 産米増殖ノタメ開發スヘキ地域ハ北支ニ於ケル土地開發見込地  
 中ヨリ治安並ニ工事着手ノ難易、治水事業トノ關係等ヲ考慮シ  
 合計開田五八九〇〇町歩、地目變換ニ七八〇〇町歩ヲ選定セル  
 モノニシテ之カ年次別、地區別工事施行面積ハ別表ノ一ノ通り  
 ニシテ其ノ年次別米穀作付面積及米穀増産量ヲ左ノ如ク豫定ス

年次	年度	作付面積			増産量(石)
		開田	地目變換	小計	
一	民國三〇年度	二〇〇町	一、四〇〇町	一、六〇〇町	三六八〇〇
二	三一年度	五〇〇〇	四二〇〇	九二〇〇	二五〇〇〇
三	三二年度	一、七〇〇	八二〇〇	一九九〇〇	七二〇、一〇〇
四	三三年度	一八〇〇〇	六〇〇〇	二四〇〇〇	一三一〇、四〇〇
五	民國三四年度	二四〇〇〇	八〇〇〇	三二〇〇〇	二一〇、二〇〇
六	三五年度				二一九〇、二〇〇
七	三六年度				二二五、四二〇
八	三七年度				二二五、四二〇
計		五八九〇〇	二七八〇〇	八六七〇〇	二、二五四、二〇〇

備考 開田及地目變換事業ニ附隨スル年次別穀増産量、開畑及畑灌漑ノ年次別作付面積ハ別表ノ二及三参照

- (四) 土地開發事業ニ關スル具體的處置ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム
- (三) 優良品種ノ増殖配布並栽培法ノ改善
- (二) 配布品種並ニ配布ノ方法

計畫地域ニ普及スヘキ品種ハ原則トシテ日本種トシ大体過去ノ實績ト各種ノ栽培條件ヲ考慮シ、河北省ハ陸羽一三二號及中生

銀坊主ヲ、山東省ハ銀坊主ヲ暫定的ニ選定スルモノトス、而シテ配布ノ方法ハ原種圃生産種子ヲ採種圃ニ、採種圃生産種子ヲ一般農家ニ配布スルモノトス。但シ原種圃採種圃生産種子ノ間ニ合ハサル民國卅年乃至卅一年ニ於テハ民國廿九年度ニ於テ内地ヨリ輸入シタル陸羽一三二號、銀坊主及地方在來品種中ヨリ優良ト認メラル、モノヲ採種シ農家ニ配布スルモノトス

(ロ) 原種圃ハ華北農事試驗場ニ附設スルモノトシ、採種圃ハ適當ト認ムル者ニ委託スルモノトス

(ハ) 原種圃ハ第三年次迄ニ二ヶ所ニ設置シ其ノ面積ハ合計九三町歩トス

(ニ) 採種圃ハ第四年次迄ニ設置シ其ノ面積ハ合計五五六町歩トス

(ホ) 種子平均増殖率ハ原種圃ハ六十倍、採種圃ハ五十二倍トス

(ヘ) 年次別種子配布面積ハ作付面積ノ三分ノ一トシ三ヶ年ヲ以テ總

面積ノ更新ヲ圖ルモノトス

(ト) 栽培法ノ改善、計畫地域ニ於ケル耕作指導等ハ華北農事試驗場其他關係機關指導ノ下ニ事業主体ニ於テ擔當實施スルモノトス

別表ノ一

年次別、地區別開墾及地目變換工事施行面積(單位町步)

地區名	開墾面積					地目變換面積					合計
	一	二	三	四	五	一	二	三	四	五	
濰河地區	200	1000	1000	1000	100	1000	1000	1000	1000	1000	2000
蒲運河	1000	1000	1000	1000	2000	1000	1000	1000	1000	1000	3000
馬廠河	100	200	100	-	1000	-	-	-	-	-	1000
京平湖	1000	2000	2000	1000	1000	-	-	-	-	-	4000
胡良河	-	-	-	-	-	500	500	100	-	-	1000
拒馬河	-	-	-	-	-	500	500	100	-	-	1000
小地區計	3000	1000	100	-	1000	1000	500	100	-	-	2000
計	3000	1000	100	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	2000



別表ノ二

年次別開墾及地目變換地作付面積並ニ級増産量

年次	各年開墾地目變換面積	同上累計	年次別増産量					同上計
			一	二	三	四	五	
一 民國三〇年度	1,000	1,000	3,600	11,000				15,600
二 三一年度	2,100	3,100	5,700	11,000				26,700
三 三二年度	1,200	4,300	6,900	11,000				37,800
四 三三年度	1,000	5,300	7,900	11,000				48,800
五 三四年度	2,000	7,300	9,900	11,000				60,000
六		7,300	11,900	11,000				71,900
七			13,900	11,000				82,900
八			15,900	11,000				93,900
同上計			36,000	110,000				146,000

備考

反當收量ハ初年次二三石第二年次三四第三年次以降五六石（級）ト

別表ノ三

開墾及地目變換事業ニ伴ヒ施行スル開畑並ニ畑灌漑地域ノ年次別作付面積

年次	年	開畑	畑灌漑	備考
一	民國三〇年度	400	800	
二	三一年度	1,800	1,800	
三	三二年度	1,000	5,000	
四	三三年度	1,400	9,000	
五	三四年度	1,800	12,000	
合計		5,350	28,600	

別表ノ四

年次別種級所要量

年次	年	開墾及地目變換積計	種級所要量	備考
一	民國三〇年度	1,600	800	反當種級所要量ヲ五升トス
二	三一年度	1,000	4,000	
三	三二年度	3,000	1,500	
四	三三年度	5,000	2,500	
五	三四年度	8,600	4,500	

別表ノ五

年次別原種圃及採種圃計書

年次	年度	原種圃面積 種子生産高 石	採種圃面積 種子生産高 石	年次別種子 配布面積	開墾及地目變 換面積累計
一	民國三〇年度	三三	九八四	一	一六〇〇
二	三一年度	三九	一七五四	一〇一七	一〇八〇〇
三	三二年度	三三	二七九九	九一七	三〇七〇〇
四	三三年度	三三	二七九九	一八二五	三〇七〇〇
五	三四年度	三三	二七九九	一八二五	三〇七〇〇
六	三五年度	三三	二七九九	一八二五	三〇七〇〇
七	三六年度	三三	二七九九	一八二五	三〇七〇〇
八	三七年度	三三	二七九九	一八二五	三〇七〇〇

備考

種子生産高ハ原種圃ニ於テ反當三石採種圃ニ於テ反當二石六斗トシ  
 反當播種量ハ各五升ト見續レルヲ以テ増殖率ハ原種圃ニ於テ六十倍、  
 採種圃ニ於テ五十二倍トス  
 年次別種子配布面積ハ開墾及地目變換面積累計ノ三分ノ一トシ三ヶ  
 年ヲ以テ總面積ノ更新ヲ圖ルモノトス

別表ノ六

年次別事業費

(單位 万円)

地區名	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次	第五年次	計
深河地區	270	274	169	169	148	1030
新道河	380	570	330	270	950	6490
馬廠	62	41	26	1	1	130
東平湖	800	720	730	445	351	3046
胡良川	34	25	9	1	1	68
拒馬川	33	25	9	1	1	67
小地區計	185	140	33	1	1	358
計	2764	2796	2996	6884	6449	18189

備考 土地買収費ヲ含マス、開田、及地目變換工事ニ伴フ開田並ニ畑地  
灌漑工事費ヲ含ム

秘

北支那産米増殖計畫要綱案

一、目 標

北支那ニ於ケル米穀需給ノ現況ニ鑑ミ將來之カ自給自足ヲ目途トシテ  
計畫的ニ改良増殖ヲ圖ルコトトシ第一期計畫トシテ昭和十五年度以降  
八ヶ年間ニ粍百八十餘萬石（玄米百餘萬石）增收ヲ目標トシ之カ達成  
ヲ企圖スルモノトス

二、要 領

イ 従前ノ北支ニ於ケル米穀生産事情ニ鑑ミ優良品種ノ普及耕種法及旋  
肥法ノ改善、病虫害防除等ニ依ル單位面積收量ノ増加ニ付テハ相當  
期待スヘキモノアリト認ムルモ第一期計畫ニ於テハ水利施設ノ改良  
竝ニ荒蕪地ノ開墾ニ依ル作付面積ノ擴張ニ重點ヲ置キ所期ノ增收ヲ  
圖ルモノトス

ロ 奨励品種ノ選定育成、耕種法及旋肥法ノ改善竝ニ病虫害防除等ニ關  
シテハ中央農事試験場及同支場ニ於ケル試験研究ノ成果ニヨリ逐次

一級ニ普及實施スルモノトス

三、實施計畫

イ 土地改良

(一) 治水計畫 及 土地改良基本計畫ニ矛盾セス且比較的簡易ニ施工シ得ル地域ヲ選ビ、水量ノ點ニ於テモ現在河川流量ノ合理的利用及小規模ノ平地ニ於ケル貯水池等ノ築造ニ依リ一應補ヒ得ル限度ヲ考慮シ、既耕地(水田)ノ土地改良ニ依リニセ〇〇町歩、荒蕪地ノ開墾ニ依リ四八〇〇町歩、合計七五〇〇町歩ノ水田開發ヲ爲ス

土地改良工事ハ昭和十五年度ヨリ五個年間ニ完了スルモノトス

地域	既耕地改良面積	開墾面積
河北省	二四〇〇〇町	四二〇〇〇町
山東省	一八〇〇	三六〇〇
山西省	一、二〇〇	一三〇〇
河南省		三〇〇
江蘇省		六〇〇
計	二七〇〇〇	四八〇〇〇

(一) 既耕地ノ土地改良ハ水田地帯ヲナス寧河縣、天津縣地方ヲ主トシ實施スルモノニシテ用水路ノ改廢、新設、排水路ノ改廢新設、溝渠、溜池ノ改廢新設並ニ道路、橋梁、暗渠、制水門等ノ附帶工專ヲ施行スルモノトス

(二) 開墾地ハ可耕未墾ノ荒蕪地中實施可能ナリト認メラルル灤河水系各縣ニ於テ約一萬二千町步、豐潤縣ニ於テ約六千町步、寧河縣ニ於テ約一萬二千町步天津縣ニ於テ約四、二百町步、靜海縣、濟南附近

等ニ於テ約七千八百町步ヲ豫定スルモノニシテ前記既耕地ノ土地改良工專ト殆ント等シキ各種工專ヲ施行スル外特ニアルカリ土地地帯ニアリテハアルカリノ處理ニ付キ各地域ノ實狀ニ應シ施設スル外開墾工專ヲ實施スルモノトス

(四) 各地域毎ニ土地改良基本計畫ヲ設定シ之ニ基キ該事業ハ自由企業ノ建前ヲ以テ行ハシメ必要ニ應シ專業ノ指導誘掖ヲ圖ルモノトス

(五) 土地改良事業施行ニ要スル資金ノ融通、土地ノ取得、農具肥料其他開發資材ノ調達其ノ他事業遂行ニ關シテハ日支兩當局ニ於テ可及的援助斡旋ヲ爲シ之ヲ達成ヲ期スルモノトス

優良品種増殖配布及栽培法ノ改善

(一) 計畫地域ニ普及スヘキ種粳ノ品種ハ今後北支ニ於ケル食糧對策ノ見地ト品質、收量共ニ北支在來種ヨリ優良ナリト認メラルル點トニ鑑ミ原則トシテ日本米種ヲ以テ普及スルコトトシ、地域別普及品種ハ大體過去ノ實績ト各種ノ栽培條件ヲ考慮シ比較的優良ト認

ムルモノヲ暫定的ニ選定ス

(一) 原種圃

河北、山西地方ニ普及スヘキ優良品種ノ原種ニツキテハ既ニ農事試験場ニ於テ當該地域ニ適應スルト認メラレタル陸羽一三二號、銀坊主、愛國等ヲ取敢ヘス栽植スルモノトシ山西、河南、江蘇地方ニ適應スヘキ品種ニツキテハ、各地方試験場ニ於テ本年度ヨリ品種試験ヲ開始シ、三年間試験ノ後昭和十八年度ヨリ之ヲ原種圃計登ニ編入スルモノトス

(二) 採種圃

河北、山西方面ニ於テハ昭和十六年度ヨリ前年度原種圃ニ生産シタル種子ヲ用ヒ山東、河南、江蘇地方ニアツテハ昭和十六年度乃至昭和十八年度迄ハソノ地方在來ノ品種中ヨリ優良ト認メラルモノノ採種ヲ採種圃經營ニ代エ昭和十九年度以降各地地方原種圃ニ生産シタル種子ヲ以テ採種圃用種子ニ宛ツルモノトス

但シ昭和十六年度採種圃ハ取敢ヘス全地域ヲ通シテ、地場品種ヲ用ヒルモノトシ、河北山西ニアリテハ日本内地ヨリ輸入シタル品種ヲ栽植セル圃場ヲ採種圃トナスモノトス

ハ増 收 量

地ノ場合ハ開墾

(一) 反當收量ハ開墾第一年度粃二石三斗、第二年度二石八斗、第三年度三石トシ、既耕地ノ土地改良ノ場合ハ従前ノ反當平均收量ヲ粃一石三斗ト看做シ工事施行後ハ第一年度二石三斗、第二年度二石八斗、第三年度三石ニ達スルモノトシ昭和二十二年度ニ於テ粃一八九九〇〇石(玄米百餘萬石)ヲ得ルモノトス

(二) 計敷地域ニ於ケル耕作指導ハ中央農事試験場其ノ他關係機關ノ指導ノ下ニ事業主體ニ於テ之ヲ擔當實施ス



別一ノ一 既耕地ノ土地改良並開墾ニ依ル増産(概)

年次工率施行 年 度	既耕地ノ土地改良		開墾		總計	
	面積累計	各年増産量	面積累計	各年増産量	面積累計	各年増産量
一昭和十五年	三〇〇〇町		六〇〇〇町		九〇〇〇町	
二昭和十六年	六八〇〇		一三八〇〇		一〇六八〇〇	
三昭和十七年	一三八〇〇		二二八〇〇		一三〇八〇〇	
四昭和十八年	一九八〇〇		三四八〇〇		一三二六八〇〇	
五昭和十九年	二七〇〇〇		四八〇〇〇		一三二六八〇〇	
六昭和二十年	二七〇〇〇		四八〇〇〇		一三二六八〇〇	
七昭和二十一年	二七〇〇〇		四八〇〇〇		一三二六八〇〇	
八昭和二十二年	二七〇〇〇		四八〇〇〇		一三二六八〇〇	
					一四四〇〇〇〇	一八八九〇〇〇

別一ノ二 年次別既耕地ノ土地改良ニ依ル増産量(概)

年次 年 度	各年改良工率累計		年次別工率施行ニ依ル増産					計
	面積	面積	第一年	第二年	第三年	第四年	第五年	
一昭和十五年	三〇〇〇町	三〇〇〇町						三〇〇〇〇
二昭和十六年	四八〇〇	七六〇〇						四八〇〇〇
三昭和十七年	六〇〇〇	一三六〇〇						六〇〇〇〇
四昭和十八年	六〇〇〇	一九六〇〇						六〇〇〇〇
五昭和十九年	七〇〇〇	二六六〇〇						七〇〇〇〇
六昭和二十年	七〇〇〇	三三六〇〇						七〇〇〇〇
七昭和二十一年	七〇〇〇	四〇六〇〇						七〇〇〇〇
八昭和二十二年	七〇〇〇	四七六〇〇						七〇〇〇〇
			五〇〇〇	八〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	四七六〇〇

別一ノ三

年次別開墾ニ依ル増産（概）

年次	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年	昭和廿一年	昭和廿二年
各年開墾面積	六〇〇〇町	六〇〇〇町	九〇〇〇町	一三〇〇〇町	一三〇〇〇町	一三〇〇〇町		
同上累計	六〇〇〇町	一二〇〇〇町	二一〇〇〇町	三四〇〇〇町	四七〇〇〇町	六〇〇〇〇町		
年次別工事施行ニヨル増産								
第一年	石							
第二年		石						
第三年			石					
第四年				石				
第五年					石			
計								一石

別一ノ四

年次別既耕地ノ土地改良面積（省別）

省別	改良面積	改良面積				
		第一年	第二年	第三年	第四年	第五年
河北省	二四〇〇〇町	三〇〇〇町	四〇〇〇町	五二八〇町	五二八〇町	六三六〇町
山東省	一八〇〇〇町		四二〇	四二〇	四二〇	五四〇
山西省	一一〇〇〇町		三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
計	二七〇〇〇町	三〇〇〇町	四八〇〇町	六〇〇〇町	六〇〇〇町	七二二〇町

別一ノ五 年次別開墾面積（省別）

省別	開墾面積	開墾面積				
		第一年度	第二年度	第三年度	第四年度	第五年度
河北省	四二〇〇〇町	五四〇〇町	六七二〇町	七八〇〇町	一〇五三〇町	一二五五〇町
山東省	三六〇〇	六〇〇	七二〇	七二〇	七八〇	七八〇
山西省	一五〇〇	一八〇	一八〇	三〇〇	四二〇	六〇〇
河南省	三〇〇	六〇	六〇	六〇	九〇	九〇
江蘇省	六〇〇	一	一一〇	一一〇	一八〇	一八〇
計	四八〇〇〇	六〇〇〇	七八〇〇	九〇〇〇	一二〇〇〇	一三二〇〇〇

別二 年次別種粳所要量並所要採種圃面積

年次年度	既耕地改良面積	開墾地面積	計	種粳所要量	採種圃面積
一昭和十五年					
二昭和十六年	三〇〇〇	六〇〇〇	九〇〇〇	四五〇〇	二七〇
三昭和十七年	七八〇〇	一三八〇〇	二一六〇〇	一〇八〇〇	四五八
四昭和十八年	一三八〇〇	二二八〇〇	三六六〇〇	一八三〇〇	六八三
五昭和十九年	一九八〇〇	三四八〇〇	五四六〇〇	二七三〇〇	九三八
六昭和二十年	二七〇〇〇	四八〇〇〇	七五〇〇〇	三七五〇〇	九三八
七昭和二十一年	二七〇〇〇	四八〇〇〇	七五〇〇〇	三七五〇〇	九三八
八昭和二十二年	二七〇〇〇	四八〇〇〇	七五〇〇〇	三七五〇〇	九三八

附記 反當種粳所要量ヲ五升トス  
採種圃ヨリ種粳産量ハ反當開石トス

別二、二

海北山産省苑原種圃採種圃計畫

年度	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年	昭和二十一年	昭和二十二年
原種圃面積	一四三	一七五	二一六	二六七	三二七	三六七	三六七	三六七
採種圃面積		一四一町	一七一	三二二	三六三	三六三	三六三	三六三
改良面積	八四〇町	一二二八〇	一三六八〇	一六五三〇	一八八一〇			
計付面積累	八四〇町	八四〇町	一九六八〇	三三三六〇	四九八九〇	六八七〇〇	六八七〇〇	六八七〇〇
採種圃生産種子			一一二八〇町分	一三六八〇	二四九三〇	三〇〇九〇	三〇〇九〇	三〇〇九〇
全上累計			一一二八〇	二四九六〇	四九八九〇	六八七〇〇	八五一一〇	九〇二七〇

備考

原種圃ノ種子生産ハ百倍採種圃ノ種子生産ハ八十倍トシ各作付

園場ノ種子ハ三年更新トス餘剩ノ種子ハ別途適宜一般農家ニ配布スルモノトス

別二、三

山東、河南、江蘇省宛原種圃採種圃計畫

年次年度	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年	昭和二十一年	昭和二十二年
原種圃面積				〇二七町	〇二七町	〇二七町	〇二七町	〇二七町
採種圃面積					二七町	二七町	二七町	二七町
改良面積	六〇町	一三二〇町	一三二〇町	一四七〇町	一五九〇町	四七一〇町		
作付面積	六〇町	六〇町	一九一〇町	三二四〇町	四七一〇町	六三〇〇町	六三〇〇町	六三〇〇町
計採種圃生産種子							二一六〇町分	二一六〇町分
							六四八〇町分	六四八〇町分

備考

原種圃、種子生産ハ百倍採種圃、種子生産ハ八十倍トシ各作付面

積ノ三分ノ一ツツヲ更新シ三年ヲモツテ全面積ノ更新ヲ終ルモ  
ノトス

別三 年次別土地改良事業資金所要額

年次年度	既耕地改良事業 面積 金額	開墾事業 面積 金額	計 金額	備考
一 昭和十五年	3,000	6,000	9,000	開墾事業費ハ反當100圓
二 昭和十六年	8,000	7,000	15,000	
三 昭和十七年	6,000	6,000	12,000	既耕地ノ土地改良費ハ反當リ
四 昭和十八年	6,000	7,000	13,000	大ニ圓トス
五 昭和十九年	5,000	7,000	12,000	
計	28,000	33,000	61,000	

別四 年次別主要資材及勞力所要調

年次年度	セメント 袋	煉瓦 個	木材 石	鋼材 噸	銑鐵 噸	苦力 人	備考
一 昭和十五年	4,800	11,700,000	5,000	6,000	1,200	3,900	石材等ハ煉瓦ニ換算ス
二 昭和十六年	5,000	11,900,000	5,000	6,000	1,200	3,900	
三 昭和十七年	7,000	13,900,000	1,700	7,000	1,100	3,600	
四 昭和十八年	9,500	14,000,000	1,300	7,000	1,200	3,900	
五 昭和十九年	11,600	14,000,000	1,500	7,000	1,200	3,900	
計	38,900	53,500,000	16,200	33,000	5,800	17,200	

別五 年次別主要肥料所要調

年次	昭和十五年	一六年	一七年	一八年	一九年	二〇年	二一年	二二年	計
作付面積 町		九〇〇〇	二一〇〇〇	三六六〇〇	五四六〇〇	七五〇〇〇	七五〇〇〇	七五〇〇〇	
硫酸アソモニア 貫		四五〇〇〇〇	一〇五〇〇〇〇	一八三〇〇〇〇	二七三〇〇〇〇	三三五〇〇〇〇	三三五〇〇〇〇	三三五〇〇〇〇	一七三一〇〇〇〇
過硫酸石灰 貫		一八〇〇〇〇	四二〇〇〇〇	七三二〇〇〇	一〇九二〇〇〇	一五〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇	六九二四〇〇〇
硫酸加里 貫		九〇〇〇〇	二一〇〇〇〇	三六六〇〇〇	五四六〇〇〇	七五〇〇〇〇	七五〇〇〇〇	七五〇〇〇〇	三四六二〇〇〇

附記 反當施肥料硫酸アソモニア五貫、過硫酸石灰二貫、硫酸加里一貫ノ割合トス

別六 北支那産米穀増殖八ヶ年計畫ニヨル水稻作付面積並收穫量

年次	昭和十五年	一六年	一七年	一八年	一九年	二〇年	二一年	二二年	計
水稻作付面積	二六〇七七三	二六六七七三	二七四五七三	二八三五七三	二九五五七三	三〇八七七三	三〇八七七三	三〇八七七三	
收穫糧量 石	五三七九七一〇	五五四七七一〇	五七一九五一一〇	六一六八一一一〇	六六〇九三一一〇	七〇九九九一一〇	七二三七九一一〇	七二七八七一〇	
備考	<p>附記                      1. 河北省、山東省、山西省ノ全部                      及河南省、江蘇省ノ内新郷、開封                      徐州、海州、特務機關管内                      2. 昭和十五年ハ平年作付面積ニ依ル</p>								

参考表一

工事施行前後ニ於ケル利益對稱表（開墾地）

種別	工事施行前		工事施行後		増収額
	面積	反當收入反當支出差引高計	面積	反當收入反當支出差引高計	
荒蕪地	4,500町	100圓	20,000町	1,200圓	1,100圓
水田			2,000町	1,500圓	1,500圓

工事施行ニ依ル年々ノ利益ハ四萬八千町歩ノ開墾事業ニ依リ五百八拾五萬六千圓ニシテ事業費四千八百萬圓ニ對シ一割二分二厘ノ利益ヲ得ナル

工事施行前後ニ於ケル利益對稱表

種別	工事施行前		工事施行後		増収額
	面積	反當收入反當支出差引高計	面積	反當收入反當支出差引高計	
上平均田	町	圓	町	圓	圓
下田	8,000町	10,000圓	1,000町	1,000圓	9,000圓

工事施行ニ依ル年々ノ利益ハ四萬町歩ノ既耕地ノ土地改良事業ニ依リ貳百貳拾四圓ニシテ之カ事業費千七百五拾五萬ニ對シ一割二分七厘餘トナル

附記

右ノ利益計算ハ小作料ヨリ算定セルモノトス 粳石二〇圓、小作料收穫物ノ四割荒蕪地ノ收入ハ葎等トス



参考表二

年次別借入金、償還金及總收入總支出並差引高表

年次	年度	借入金	償還金	總收入	總支出	差引高
一	昭和十五年	七九七〇〇〇〇				
二	十六年	一〇六八〇〇〇〇	海 置	一三三三〇〇〇〇	六七二〇〇〇	六七二〇〇〇・〇〇
三	十七年	一三九〇〇〇〇〇		一三九〇〇〇〇〇	一三九〇〇〇〇〇	〇
四	十八年	一五九〇〇〇〇〇		一五九〇〇〇〇〇	一五九〇〇〇〇〇	〇
五	十九年	一七八〇〇〇〇〇		一七八〇〇〇〇〇	一七八〇〇〇〇〇	〇
六	二十年			一三三三〇〇〇〇	一三三三〇〇〇〇	〇
七	二十一年			一三三三〇〇〇〇	一三三三〇〇〇〇	〇
八	二十二年			一三三三〇〇〇〇	一三三三〇〇〇〇	〇
九	二十三年			一三三三〇〇〇〇	一三三三〇〇〇〇	〇
一〇	二十四年			一三三三〇〇〇〇	一三三三〇〇〇〇	〇

一一	二十五年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
一二	二十六年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
一三	二十七年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
一四	二十八年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
一五	二十九年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
一六	三十年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
一七	三十一年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
一八	三十二年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
一九	三十三年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
二〇	三十四年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
二一	三十五年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇
二二	三十六年	六九七〇〇〇〇		六九七〇〇〇〇	六九七〇〇〇〇	〇

附記

借入金ハ三ヶ年繰置十五ヶ年間年賦償還ノ方法ニ依ル米價級一石  
 二〇圓トシ該係各種工作物償却費等一切ヲ見込ミ反當一〇圓トス  
 尙小作料ハ四割ノ物納小作トシテ計算ス



昭和十五年七月

北支那棉花改良増産計畫

興亞院華北連絡部  
經濟第二局

研-0651

北支那棉花改良増産計畫

一、方針

民國廿八年（昭和十四年）ヨリ同廿九年（昭和廿五年）ニ至ル十二年間ヲ以テ北支那ニ於ケル棉花總作付面積ヲ三千萬畝ニ擴張シ總繰綿年産量ヲ一千萬担ニ達セシメントス但シ右第十二年次作付面積中ニ五割即七五〇萬畝ハ特種用途ヲ有スル亞細亞棉ヲ維持スルモノトシテソノ年産量ハ二〇〇萬担トス

而シテ陸地棉及亞細亞棉中夫々ノ獎勵品種ハ陸地棉ニアリテハソノ作付面積三二五〇萬畝ノ七割タル一、五七五萬畝、繰綿年産量約六二〇萬担ニ達セシメ亞細亞棉ニアリテハソノ作付ノ五割タル三二五萬畝ヲ目標トスルモ第十二年次ニ於テハ面積二三二萬畝、繰綿年産量七四萬担ニシテ之カ成果ハ爾後ニ現レルモノトス

二、要領

(一) 民國廿九年度ノ作付面積ヲ前年ノ二割減即四三八萬畝ト推定シ次第二年次別作付面積ノ増加ヲ圖ルヘキモ初期ニ於テハ種々ノ條件ヨリ小面積宛ノ擴張ヲナシ漸次之ヲ増加シ終期ニ於テハ之ヲ遞減スルカ如クシテ目標ノ三〇〇〇萬畝ニ達セシムルモノトス

而シテ作付面積ノ擴張ハ專養ニヨリテ作付ヲ中止セル棉田ノ復活並食糧作物ノ單位面積當收量ノ増加ヲ圖リ之ニ依リ生スヘキ餘剩面積ノ棉作ヘノ轉換及土地改良計畫ニヨル開畑ニ依ルモノトス

(二) 單位面積當ノ繰綿收量ハ優良品種ノ普及、栽培法ノ改善、水利施設ノ整備、病蟲害ノ防除等ニヨリ次ノ如ク増加セシムルモノトス

棉園別畝當收量表

原種別	原々種別	陸地棉		亞細亞棉	
		收量	在來品種ニ對スル増收率	收量	在來品種ニ對スル増收率
五七〇	五七〇	二一七一	二一七一%	五三〇	二一七%
五七〇	五七〇	二一七一	二一七一%	五三〇	二一七%

在來品種	最終年次ニ於ケル獎勵品種普及棉圃	第二次採種圃	第一次採種圃
二七〇	三九〇	四四〇	五〇〇
一〇〇〇	一四四四	一六三〇	一八五二
一四四	三三四	三八〇	四三〇
一〇〇〇	一二八七	一五五七	一八四四

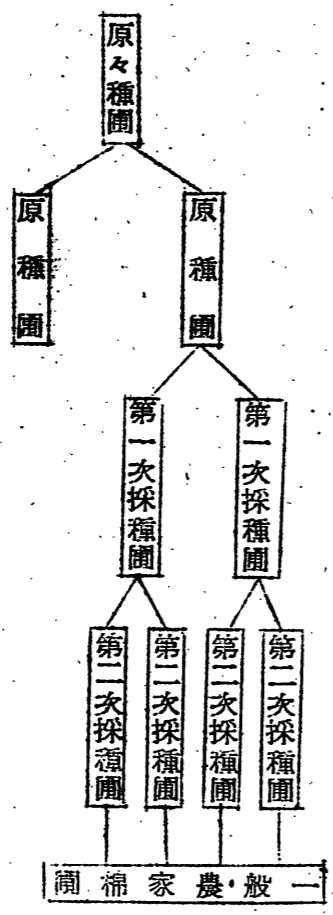
但シ晉河北棉產改進會採種圃生產種子ノ普及ニ依ル採種圃ノ收量ハ第一次採種圃四七斤、第二次採種圃四一斤トセリ

(1) 在來品種平均收量ハ陸地棉及亞細亞棉別ニ河北、山東、山西ノ三省及河南省豫北地區ニ於ケル民國廿年ヨリ同廿五年ノ六ヶ年平均ニ據レリ但シ亞細亞棉ニ於テハ河北省ノ民國廿三年及同廿四年ノ二ヶ年ヲ除外セリ之同兩年ノ數字ハ驚異的ニ大

ナルニヨル

(2) 右ハ中國棉產統計ニ據レリ

優良品種ハ左圖ニ示ス体系ニ依リテ之ヲ整一的ニ増殖普及スルモノトシ陸地棉ニアリテハ第三年次ヨリ一般棉圃ニ對シテ普及スルモ獎勵品種ハ第五次三〇二萬畝、第六年次以降ハ年々三〇五萬畝宛亞細亞棉ニアリテハ第十年次ヨリ年々七一萬六千畝宛普及スルモノトス



三處置要綱

(一) 棉作普及並擴張

(イ) 現在四圍ノ狀況ヨリ推シテ急激ナル棉作ノ擴張ハ不可能ナルヘキヲ以テ第八年次ニ於テ大体奉養前ノ面積ニ回復ヲ圖ルモソノ間陸地棉ニ於テハ獎勵品種ノ作付面積増加ニヨリ在來品種ノ作付ハ漸次遞減スルモ爾後一般棉圃ノ増加ト共ニ在來品種ノ作付モ亦漸増スルモノトス

亞細亞棉ニ於テハ獎勵品種及在來品種共ニ遞増ヲ進ルモノトス

(ロ) 棉花作付面積ノ擴張ヲ目的トスル一級棉作ノ普及ハ在來優良種子ノ買上配給、獎勵品種回收種子ノ配給、棉作資金ノ融通、棉作ノ普及宣傳、模範棉圃ノ展示、水利施設ノ整備等ニ依ルモノトス

(二) 獎勵品種ノ選定育成

(イ) 陸地棉ニアリテハストンビル四B、トライス二一ニ三號、關農一號ヲ獎勵品種ニ定メ適地ニ應シテ之カ増殖普及ヲ圖ルモノトス

亞細亞棉ニアリテハ第五年次迄ニ品種並其ノ特性ヲ調査シテノ結果ニヨリ各地ノ風土ニ應シ獎勵品種ヲ選定スルモノトス

(ロ) 優良品種ノ選定育成ハ農事試驗場ニ於テ之ヲ行フ而シテ華北農事試驗場及同支場ニ於テハ之ニ關スル基礎的試驗研究ヲ行ヒ地方農事試驗場及委託試驗圃ニ於テハ華北農事試驗場及同支場ヨリ配布ヲ受ケタル優良品種及系統ニ就キ比較試驗ヲ行ヒ其ノ適否ヲ檢定ス

(三) 獎勵品種並其ノ配付地域ヲ決定スル爲獎勵品種査定會ヲ設ケ委員ハ華北農事試驗場長ヨリ之ヲ委嘱ス

各試驗機關ニ於ケル試驗成績ハ華北農事試驗場ニ於テ取纏メノ  
上資料トシテ獎勵品種査定會ニ提出スルモノトス

- (イ) 獎勵品種種子ノ増殖
- (イ) 原々種圃及原種圃ハ華北農事試驗場ニ附設スルモノトシ第一次  
及第二次採種圃ハ原則トシテ鄉村合作社ニ委嘱シ之カ指導監督  
ハ華北棉產改進會ニ於テ行フモノトス
- (ロ) 原々種圃生産種子ハ原種圃ニ、原種圃生産種子ハ第一次採種圃  
ニ、第一次生産種子ハ第二次採種圃ニ原則トシテ夫々翌年之ヲ  
配布播種スルモノトシ、第一次及第二次採種圃生産種子ハ所定  
價格ヲ以テ華北棉產改進會之ヲ買上クルモノトス
- (ハ) 原々種圃ハ四箇所ニ設置シ其ノ面積ハ陸地棉ニアリテハ第二  
次迄ニ七六〇畝、亞細亞棉ニアリテハ第六年次ニ五七〇畝ヲ夫  
々完成シ兩品種合計ノ一箇所平均經營面積ハ三二〇畝トス

々

(ニ) 原種圃中陸地棉ニアリテハ當分一三箇所ニ設置シ第四年次迄ニ

- 六〇五〇畝ヲ完成シ一箇所平均經營面積ハ四七〇畝トス
- 亞細亞棉ニアリテハ第七年次ニ十二箇所ヲ新設シ三、四一〇畝ヲ  
完成スルモノトシ一箇所平均經營面積ヲ二八五畝トス而シテ陸  
地棉及亞細亞棉共ニ一般棉圃ニ普及セル種子ハ五ヶ年更新ヲ行  
フモノトス
- (ホ) 採種圃ハ陸地棉ニアリテハ第三年次迄ニ四九〇〇〇畝ヲ完成  
スルモ斯カル急速ナル整備ヲ可能ナラシムル爲原々種圃ト同時  
ニ第一年次ヨリ採種圃ヲ經營シ之カ播種用種子ハ原々種圃生産  
種子カ間ニ合ハサル間ハ舊河北省棉產改進會採種圃生産種子ノ  
中比較的純度高ク優良ナル種子及前年度採種圃生産種子ヲ以テ  
充當スルモノトス

亞細亞棉ニアリテハ第九年次迄ニ一六七〇〇畝ヲ完成スルモノトス

(イ) 種子増殖率ハ陸地棉ニアリテハ原々種圃及原種圃各九倍、第一次採種圃八倍、第二次採種圃七倍、亞細亞棉ニアリテハ原々種圃及原種圃各七倍、第一次採種圃六倍、第二次採種圃五倍トス但シ舊河北省棉産改進會採種圃生産種子ノ採種圃ニ於ケル増殖率ハ第一次採種圃七五倍、第二次採種圃六五倍トス

「備考」

播種量ハ陸地棉及亞細亞棉共ニ八斤播トス

#### 四 獎勵品種種子ノ普及

(イ) 一般農家ニ對スル獎勵品種種子ノ普及ハ第二次採種圃生産種子ノ配布ニ依ルモノトス而シテ同品種ノ配布ハ夫々ノ適地ニ應シテ之ヲ爲スモノトス

(ロ) 一旦配布セル農家手持ノ獎勵品種種子ノ散逸及他品種種子ノ

混合ヲ防ク爲農家ヲシテ合作社ニ依ル生産棉花ノ共同繰棉ヲナサシムル等適當ナル指導ヲ行フモノトス

(ハ) 採種圃以降ノ獎勵品種ノ普及事業ハ華北棉産改進會ニ於テ行フモノトス

#### 四 技術者ノ養成並配置

(イ) 原々種圃、原種圃及採種圃ノ經營指導ニ當ルヘキ技術者ハ華北農事試験場及同支場ニ於テ日人ハ一ケ年中國人ハ二ケ年間養成シ第八年次迄ニ合計日人一八〇名中國人四五五名ノ養成ヲ完了スルモノトス而シテ之カ配置ハ原々種圃ニ於テハ一箇所平均日人三名中國人三名、原種圃ニ於テハ一箇所平均日人二名中國人二名、採種圃ニ於テハ五千畝ニ付日人一名中國人三名トス

(ロ) 一般棉圃ノ指導ニアタルヘキ技術者ノ養成並其ノ配置ハ別途計畫スルモノトス

(内) 水利施設整備

水利施設ノ新設ハ總作付面積ノ二割即六〇〇萬畝ニ對シ之ヲ行フモノトス但シ同新設面積中ニハ原採種圃面積六六萬畝及土地改良計畫ニヨル開畑面積九四四二八畝既墾地河川灌溉三三〇九〇畝計一二七五一八畝合計七八萬七千畝ヲ含ムモノトス

(外) 耕種法並施肥ノ改善

適期播、栽植密度及摘心ノ改善。管理ノ集約化等ニ依リ増收ヲ圖ルト共ニ摘採、繰播ヲ適切ナラシメ品質ヲ向上セシムルモノトス單位面積當收量ノ増加ニ伴ヒ施肥量ノ増加ヲ要スヘキモ慣行肥料ハ急激ニ増産困難ナルヘキヲ以テ其ノ不足額ハ化學肥料ニ依リ補充スルノ要アルヘシ化學肥料ノ所要數量ハ別途計畫スルモノトス

(内) 病蟲害ノ防除

病害中炭疽病、角點病、立結病ニ對シテハ熱湯處理ノ如キ簡易ナル方法ニヨル種子消毒ヲ勵行セシメソノ面積ハ原採種圃ヲ含ミ總作付面積ノ二割六〇〇萬畝トシコレニヨリ〇、五割ノ増收ヲ期待スルモノトス

害蟲ニシテツノ被害大ナル蚜蟲、赤ダニ、赤實蟲ニ對シテハ驅除ヲ勵行シ特ニ陸地棉ニ於ケル蚜蟲ニ對シテハ藥劑ノ撒布ヲ爲シソノ面積ハ陸地棉獎勵品種普及面積一五二五萬畝ノ三割即四五〇萬畝ニ對シ第五年次ヨリ實行スルモノトシツノ増收率ヲ一割ト見做セリ

(外) 棉花處理運銷ノ改善

生産棉花ノ處理運銷ノ改善ハ別途計畫ニ於テ立案スルモノトス



第一表 北支四省年次別棉花増殖計畫表（千畝）

年次	總作付年次別面積	陸地		棉		亞細亞		細棉	
		獎勵品種計	在來品種計	獎勵品種計	在來品種計	獎勵品種計	在來品種計		
一	1,000	100	100	100	100	100	100	100	100
二	1,500	150	150	150	150	150	150	150	150
三	2,000	200	200	200	200	200	200	200	200
四	2,500	250	250	250	250	250	250	250	250
五	3,000	300	300	300	300	300	300	300	300
六	3,500	350	350	350	350	350	350	350	350
七	4,000	400	400	400	400	400	400	400	400
八	4,500	450	450	450	450	450	450	450	450
九	5,000	500	500	500	500	500	500	500	500
十	5,500	550	550	550	550	550	550	550	550
十一	6,000	600	600	600	600	600	600	600	600
十二	6,500	650	650	650	650	650	650	650	650
十三	7,000	700	700	700	700	700	700	700	700
十四	7,500	750	750	750	750	750	750	750	750
十五	8,000	800	800	800	800	800	800	800	800
十六	8,500	850	850	850	850	850	850	850	850
十七	9,000	900	900	900	900	900	900	900	900
十八	9,500	950	950	950	950	950	950	950	950
十九	10,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
二十	10,500	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050

備考

(一) 棉作擴張面積中九万四千畝ハ土地改良計畫ニ依ル開畑ヲ利用シ得ルモノトス

(二) 民國二十五年産棉作面積二千九十二万三千畝歩ニ前記開畑利用面積九万四千畝ヲ加ヘタル二千一百一十七千畝ヲ超過スヘキ棉作擴張面積八百九十八万三千畝ハ小麥、粟、高粱、玉蜀黍等ノ單位面積當收量ノ増加ニ依リ之等ノ作付面積ヨリ棉作地ニ轉換セシムルモノトス

第二表 北支四省年次別獎勵陸地棉増殖計畫表（千畝）

年次	原々面積		採種園		普及面積		總面積
	種類	計	第一次	第二次	第二次採種園ヨリ	農家手持種子ヨリ	
一	10,000	10,000	1,000	1,000	1,000	1,000	13,000
二	10,000	10,000	1,000	1,000	1,000	1,000	13,000

年次	原々種 種園	採種園	普及面積	總面積
三	〇・八六・一六・九	(一三・一) 四一・四	(四八・九) 四一・四	(六一・五)
四	〇・八六・一六・九	(〇・五) 五〇・〇	(七〇・七) 三三・一	(六一・五)
五	〇・八六・一六・九	(三・八) 四三・〇	(六七・九) 三三・一	(六一・五)
六	〇・八六・一六・九	五四・五	(一四・七) 四〇・〇	(六一・五)
七	〇・八六・一六・九	五四・五	(一四・七) 四〇・〇	(六一・五)
八	〇・八六・一六・九	五四・五	(一四・七) 四〇・〇	(六一・五)
九	〇・八六・一六・九	五四・五	(一四・七) 四〇・〇	(六一・五)

年次	原々種 種園	採種園	普及面積	總面積
一〇	〇・八六・一六・九	五四・五	(一四・七) 四〇・〇	(六一・五)
一一	〇・八六・一六・九	五四・五	(一四・七) 四〇・〇	(六一・五)
一二	〇・八六・一六・九	五四・五	(一四・七) 四〇・〇	(六一・五)

備考

一、括弧内ハ從來河北省棉産改進會ニ於テ増殖セラレタル奨励品種ヲ華北棉産改進會ニ於テ新奨励品種ノ増殖セラル、迄暫定的ニ栽培普及セシムルモノトス

二、印ヲ附セルモノハ前記品種ト奨励品種トノ合計面積ナリ

第三表 北支四省年次別獎勵亞細亞棉增植計畫表（千畝）

年次	原種園		採種園		普及面		總面積
	種園	面積	計	第一次 第二次	第二次採種園ヨリ	農家手持種子ニヨル	
一							
二	0.6	3.4	4.0	3.9	143.1	715.7	1318.0
三	0.6	3.4	4.0	3.9	143.1	715.7	1318.0
四	0.6	3.4	4.0	3.9	143.1	715.7	1318.0
五	0.6	3.4	4.0	3.9	143.1	715.7	1318.0
六	0.6	3.4	4.0	3.9	143.1	715.7	1318.0
七	0.6	3.4	4.0	3.9	143.1	715.7	1318.0
八	0.6	3.4	4.0	3.9	143.1	715.7	1318.0
九	0.6	3.4	4.0	3.9	143.1	715.7	1318.0
一〇	0.6	3.4	4.0	3.9	143.1	715.7	1318.0
計	6.0	34.0	40.0	39.0	1431.0	7157.0	13180.0

第四表 北支四省棉花年次別增產計畫表（千擔）

年次	總收量	陸地		棉		亞細亞		計
		原採種園	獎勵品種配布地域	原採種園	獎勵品種配布地域	原採種園	獎勵品種配布地域	
一	11311	9	191	934	1	488	488	11311
二	11744	90	191	934	1	488	488	11744
三	12292	130	191	934	1	488	488	12292
四	12841	170	191	934	1	488	488	12841
五	13390	210	191	934	1	488	488	13390
六	13939	250	191	934	1	488	488	13939
七	14488	290	191	934	1	488	488	14488
八	15037	330	191	934	1	488	488	15037
九	15586	370	191	934	1	488	488	15586
一〇	16135	410	191	934	1	488	488	16135
計	10018	270	191	934	1	488	488	10018

第五表 獎勵陸地棉原採種園並同配布地域ニ於ケル棉花年次別増産計畫表(千擔)

年次	原採種園 生産高	従來ノ平均 生産高	獎勵品種 並栽培法 増善ニヨル 生産高	水利施設 ニヨル 増産高	病虫害 除害劑 及ニヨル 増産高	種子消毒 及ニヨル 増産高	小計	計
一	△ 〇・八・七			△ 六・一			六・一	〇・八・七
二	△ 六・六・七							六・六・七
三	△ 一八四・八		△ 二六五・四				一八四・八	三六九・二
四	△ 四三・一		△ 一七三・〇				四三・一	二一六・一
五	△ 一・六		△ 一〇三・三				一・六	一〇四・九
六	△ 三三・九		△ 三三・七				三三・九	六七・六
七	△ 三三・九		△ 三三・七				三三・九	六七・六

八	△ 三三・九		△ 三三・七				三三・九	六七・六
九	△ 三三・九		△ 三三・七				三三・九	六七・六
一〇	△ 三三・九		△ 三三・七				三三・九	六七・六
一一	△ 三三・九		△ 三三・七				三三・九	六七・六
一二	△ 三三・九		△ 三三・七				三三・九	六七・六

備考

一、△印ハ從來河北省棉産改進會ニ於テ増殖セラレタル獎勵品種種子ノ普及ニヨル生産高  
 二、獎勵品種ノ普及並栽培法改善ニヨル増収率ハ從來ノ平均收量ニ對シ二五%増トス  
 但シ改進會ノ前記種子ハ一五%増トス

第六表 獎勵亞細亞棉原採種園並同配布地域ニ於ケル棉花年次別増産計畫表(千擔)

年次	原採種園 生産高	従來ノ平均 生産高	獎勵品種ノ普及 増産高	水利施設 増産高	種子消毒 増産高	小計	計			
								一	二	三
一一	六六	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
一〇	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
九	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
八	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
七	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
六	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
五	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
四	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
三	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
二	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
一	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			
計	六七	二二	五三	六六	七	一〇	二〇			

備考

獎勵品種ノ普及並栽培法改善ニヨル増収率ハ從來ノ平均収量ニ比シ一五%増トス

第七表 獎勵品種配布地域ニ於ケル水利施設新設ニヨル棉花年次別増産計畫表

年次	面積		利用面積		増産	
	陸地棉	亞細亞棉	陸地棉	亞細亞棉	陸地棉	亞細亞棉
七	八八〇	一一〇	八八〇	一一〇	三〇	三〇
六	八〇〇	一〇〇	八〇〇	一〇〇	二七	二七
五	七〇〇	九〇	七〇〇	九〇	二五	二五
四	六〇〇	八〇	六〇〇	八〇	二三	二三
三	五〇〇	七〇	五〇〇	七〇	二一	二一
二	四〇〇	六〇	四〇〇	六〇	一九	一九
一	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	一七	一七
計	八八〇	一一〇	八八〇	一一〇	一七〇	一七〇

八	700	110	200	2000	1115	435	2550	410.5	413.5
九	700	100	200	2000	1060	540	2500	511.1	517.7
一〇	350	50	500	2000	435	5000	592.0	601.0	652.8
一一	110	10	100	2000	415	515	613.0	630.0	686.0
一二				2000	670	510	630.5	696.0	

備考

一、水利施設ノ新設ハ原採種圃ヲ含メ六〇〇万畝トシ内獎勵品種  
布地域ハ五三三万畝ニシテ獎勵品種ノ陸地棉並亞細亞棉別普及  
面積ノ割合ニ應シ實施スルモノトス  
二、水利施設ノ新設ニヨル棉花増収率ハ從來ノ平均收量ニ對シ陸地  
棉五〇%増、亞細亞棉四〇%増トス  
三、前記五三三万畝中トハ土地改良計畫ニヨル開畑面積九万四千畝  
及既耕地河川灌漑三万三千畝計一二万八千畝ヲ含ムモノトス

第八表 獎勵品種配布地域ニ於ケル種子消毒ニ依ル棉花年次別増産計畫表

年次	施行面積			増産			備考
	陸地棉 千畝	亞細亞棉 千畝	計 千畝	陸地棉 千担	亞細亞棉 千担	計 千担	
一一	175	25	200	2.4	0.3	2.7	種子消毒ニ依ル増産率ハ陸地棉平均五%増 細亞棉共平均五%増トス
一〇	290	60	350	3.5	0.7	4.2	
九	390	100	490	4.8	1.1	5.9	
八	480	110	590	6.1	1.3	7.4	
七	580	110	690	7.4	1.6	9.0	
六	680	110	790	8.7	1.9	10.6	
五	780	110	890	10.0	2.2	12.2	
四	880	110	990	11.3	2.5	13.8	
三	980	110	1090	12.6	2.8	15.4	
二	1080	110	1190	13.9	3.1	17.0	
一	1180	110	1290	15.2	3.4	18.6	
計	1180	110	1290	15.2	3.4	18.6	

第九表 奨励品種配布地域ニ於ケル病蟲害隠除ニ依ル棉花増産計畫表

年次	施行面積		増産高	備考
	年次別	累計		
一				陸地棉奨励品種普及面積一、五二五万畝ノ約三〇%ニ對シ第五年度ヨリ主トシテ蚜蟲ヲ對照トシ藥劑撒布ヲ施行スルモノトス而シテ其レニ依ル増収率ハ從來ノ平均收量ノ一割増トス 亞細亞棉奨励品種配布地域ニ對シテハ特ニ計畫的ニハ藥劑撒布ノ奨励ヲ行ハサルモノトス
二	三〇〇〇	四〇〇〇	一一・五	
三	六〇〇〇	一〇〇〇〇	一三・四	
四	八〇〇〇	一八〇〇〇	一七・二	
五	九〇〇〇	二六〇〇〇	二一・六	
六	九〇〇〇	三六〇〇〇	二五・三	
七	六〇〇〇	四二〇〇〇	二七・〇	
八	九〇〇〇	五一〇〇〇	二八・三	
九	九〇〇〇	六〇〇〇〇	二九・六	
一〇	八〇〇〇	六八〇〇〇	三〇・二	
一一	六〇〇〇	七四〇〇〇	三一・四	
一二	三〇〇〇	八〇〇〇〇	三二・五	

第十表 噴霧器並藥劑年次別所要數量表

年次	原探種圃		奨励品種配布地域		計
	面積	噴霧器	面積	噴霧器	
一	二〇〇	一・二	二〇〇	一・二	四〇〇
二	一五〇	九・七	一八〇	九・八	三三〇
三	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇
四	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇
五	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇
六	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇
七	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇
八	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇
九	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇
一〇	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇
一一	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇
一二	五〇〇	一〇・〇	六〇〇	一〇・〇	一、一〇〇

九	八	七	六	五	四	三	二	一
500	500	500	500	500	500	500	500	500
△0	△0	△0	△0	△0	△0	△0	△0	△0
110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00
600	600	600	600	600	600	600	600	600
600	600	600	600	600	600	600	600	600
400	400	400	400	400	400	400	400	400
110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00
△0	△0	△0	△0	△0	△0	△0	△0	△0
110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00
600	600	600	600	600	600	600	600	600
600	600	600	600	600	600	600	600	600
400	400	400	400	400	400	400	400	400
110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00

備考

○印ハ新規購入臺數

△印ハ累計臺數

(一)噴霧器割當

原採種圃一六七畝一臺

普及棉圃二五畝一臺

(二)噴霧器償却年限

原採種圃 三年

普及棉圃 四年

(三)藥劑割當

(デリス、アデカ共同シ)

原採種圃一畝一、ニヶ(四回分)

普及棉圃一畝〇、六ヶ(二回分)

技術員養成表

年次	日人	中國人	計	備考
一	10	65	75	第一、第二年度所要人員ハ前年度ニ於テ養成人員ラレタルモノ又ハ他ヨリ技術ニ経験アルモノヲ採用スルモノトス
二	25	65	90	二、養成年限ハ日人滿一ケ年、中國人、滿二ケ年トス
三	25	65	90	
四	25	65	90	
五	30	65	95	
計	130	315	445	





華北ニ於ケル畑地灌漑ノ效果ニ就イテ

華北産業科學研究所

研-0651

華北ニ於ケル畑地灌溉ノ效果ニ就イテ

華北ニ於ケル年降水量ハ僅ニ四〇〇一六〇〇程度ニシテ日本内地ノ三分ノ一乃至四分ノ一ニ過ギズ而モ其ノ大半ハ七、八兩月ノ所謂雨期ニ降下シ其他ノ時期ハ降水量ヨリモ蒸發量ガ多イ關係カラ土壤水分ノ不足ヲ來シ爲ニ作付ノ適期ヲ失シ或ハ作物ノ生育結實ヲ阻害スルヲ常トシ且降水ノ變異多ク屢々大旱魃ニ依ル凶歉ヲ招來スル状態テアル

固ヨリ華北ノ農法ハ長年月ニ亘ル自然ノ試練ニ依リ旱地農法ヲ採リ又古クカカラ灌溉ノ必要ヲ力説セラレテ居ルノテアルガ米ダ科學的研究ヲ缺ギ改善ノ余地モ尠クナイ、他方畑地灌溉ノ如キモ僅カニ總面積ノ約五%ニ行ハル、ニ過ギナイ現状デアル、併シ乍ラ今後華北ニ於ケル農産物ノ増産ヲ圖ルニハ先ヅ第一ニ畑地灌溉施設ノ擴充ヲ行フコトガ肝要テアル

當所ハ設立以來日尙淺ク目下畑地灌溉ニ關シ試驗繼續中ナルモ小麥、棉及麻類ニツキ今日迄ノ試驗成績ニ依レバ何レモ灌溉ノ頗ル有効ナルコトヲ示シ其ノ效果ハ旱魃程度輕微ナル場合ハ比較的小ナルモ旱魃ノ激甚ナル年又ハ激甚地ニ於テ著シク大ナルコトガ認めラレル、之ハ次ノ試驗成績ニ依ツテ明カテ

アル  
一、小麥

(4) 北京本場 (灌溉時期試驗ヨリ)

凍結前	解氷直後	解氷後二十日	時			子實重量			備考
			蘗孕前	蘗孕期	開花期	陌莖重	畝當斤	百分比	
+	+	+	+	+	+	一七九三	一八二	一〇〇	無灌溉
+	+	+	+	+	+	二〇一六	二〇五	一一二	灌溉三回
+	+	+	+	+	+	二一四七	二一八	一一〇	灌溉三回
+	+	+	+	+	+	二一七六	二二一	一一一	灌溉三回
+	+	+	+	+	+	二二五三	二三九	一一三	灌溉三回
+	+	+	+	+	+	二三五五	二五九	一四二	灌溉三回

備考

(一) 昭和十四、十五兩年度ニ於テ同一ノ傾向ヲ示セルヲ以テニケ年平均成績ヲ示シタ

(一) 本年十月ハ灌溉シタルモノニシテ一回ノ灌溉量ハ三〇耗デアル  
 北京附近ハ旱魃ノ程度比較的輕ク無灌溉區ニ於テモ畝當一八二斤ニシテ  
 華北ニ於ケル平年收量ニ倍シ之ニ灌溉セルモノハ何レモ增收シ七回灌溉  
 區ニ於テ增收率四二%畝當七七斤ノ增收ヲ示シタ

(四) 濟南支場及石門支場 (土壤乾濕ニ依ル生産力檢定試驗ヨリ)

試驗場所	年度	試驗區別	子實重量		備考
			畝當斤	百分比	
濟南支場	同一年	無灌溉	九三五	九五	1
		半量灌溉	一、一七〇	一二五	
	同一年	全量灌溉	一、四九五	一五二	1
		無灌溉	四五二	四六	
石門支場	同一年	無灌溉	八八九	九〇	1
		半量灌溉	一、二〇五	二六七	
	同一年	全量灌溉	一、二〇五	二六七	1
		無灌溉	三〇五	一〇〇	
濟南支場	同一年	無灌溉	一、八四五	一八七	1
		標準灌溉	二、〇三五	二〇六	
	同一年	多量灌溉	二、〇三五	二〇六	1
		無灌溉	一、八四五	一八七	

濟南支場ニ於テ昭和十四年度ハ比較的旱魃程度雖ク全量灌溉區ニ於テ  
 增收率六〇%畝當五七斤増、昭和十五年度ハ旱害甚ナリシ爲全量灌溉區  
 ニ於テ增收率一六七%畝當七六斤増ヲ示シ、石門支場ニ於テハ旱害甚ク  
 爲無灌溉區ノ收量畝當三一斤ニ對シ多量灌溉區ハ二〇六斤増七倍ノ增收ノ  
 ヲ示シタ

(四) 北京本場 (陸地棉灌溉試驗ヨリ)

試驗區別	熟成期	一蒞		備考
		實量	畝當斤	
無灌溉區	八月九日	五六	四四〇	1
播種當時灌溉區	八月三〇	三二	四六三	1
第一葉展開迄灌溉區	八月三〇	三四	五〇二	1
着蕾始迄灌溉區	八月三〇	三八	五七一	1
開花始迄灌溉區	八月三〇	三五	六八一	1
全期灌溉區	八月九日	四六	六六二	1

備考

全期間中ノ降水量ハ三五〇耗ニシテ灌漑量ハ當時ニ於ケル土壤水分量ニ依リ加減シ播種當時ハ五耗第一葉展開期ハ一一耗着實始以後ハ三〇耗宛トシタ

北京附近ハ旱魃ノ程度比較的輕ク無灌漑區ニ於テ畝當五斤、棉花始迄四回灌漑區ニ於テ増收率五五%畝當二五斤ノ増收ヲ示シタ

(四)石門支場(陸地棉品種選拔豫備試験ヨリ)

試験年度	試験區別	線		備考
		畝當斤	百分比	
昭和一四年度	一回灌漑區	八・三〇	四八六	一回灌漑量五〇耗内外
	三回灌漑區	八・三〇	五六〇	
	一回灌漑區	九・二二	一六一	
同 一五年度	三回灌漑區	八・二九	四九五	
	一回灌漑區	五・一	三〇七	

石門支場ハ旱魃ノ程度激甚ノ爲メ無灌漑ノ場合ハ殆ンド生育不能ナル状態ニシテ新ル地方ニ於ケル灌漑ノ效果ハ特ニ顯著ニ表ハレ昭和十五年

度ノ如キ三回灌漑區ハ一回灌漑區ニ比シ三倍強ノ收量ヲ示シタ  
三麻類(麻類灌漑試験ヨリ)

北京本場 昭和十六年度成績

作物名	試験區別	生 莖 重		乾 織 維 重		備 考
		畝當斤	百分比	畝當斤	反當貫	
大麻	無灌漑	一、八五〇	一〇〇	九五	二・五	一回灌漑量三五―四〇程度 以下同様
	灌漑一四日置	一七、二五〇	九三三	七七八	二〇・六	
青麻	無灌漑	四、四三八	一〇〇	三六四	九六	一回灌漑量三五―四〇程度 以下同様
	灌漑一四日置	六、二五〇	一四一	五四五	一四四	
洋麻	無灌漑	一六、一八八	一〇〇	六四八	一七・一	一回灌漑量三五―四〇程度 以下同様
	灌漑一四日置	一九、一二五	一一八	八二三	二一・八	
洋麻	無灌漑	一九、〇〇〇	一〇〇	八三六	二二・一	一回灌漑量三五―四〇程度 以下同様
	灌漑一四日置	一九、〇〇〇	一一七	八三六	二二・一	

北京本場ハ比較的旱魃ノ程度輕キ場所ナルモ麻類ハ乾シテ水分ヲ多量ニ

要スル作物ナル爲メ何レモ灌溉ノ效果顯著ニ表ハレ大跡ノ如キハ無灌溉區  
ノ收量殆盡九五疋ニ對シ七日量灌溉區ハ陌當一〇三三疋約九倍ノ收量ヲ示  
シタ

研-0651

華北ニ於ケル重要農作物改良ノ效果ニ就テ

華北産業科學研究所

研-0651

0158

華北ニ於ケル重要農作物ハ典型的大陸性風土ノ下ニ長年月ニ亘リ淘汰ヲ加ヘラレタル結果尠存セルモノニシテ概不此地ニ適應セリト雖育種學其他軌近進歩セル技術ノ應用ヲ缺ギ一方品種ニ對スル觀念薄キタメ品種ノ退化混濁ヲ來セルモノ多ク之ガ改良ノ餘地ハ渺クナイ

當所ニ於テハ設立當初ヨリ重要農作物ノ改良ニ重點ヲ置キ昭和十三年以降棉、小麥、水稻、雜穀等ノ試験ニ着手シ何レモ日尙淺キニ拘ラス棉、小麥、水稻及粟ニ於テ在來品種ニ比ベテ相當優良ナ品種ノ選拔又ハ育成ヲ成就シタ今夫等優良品種ノ成績ヲ列擧スレバ次ノ如クテアル

(イ) 本場 (北京) 昭和十四年度成績

品種名	開繁期	陌當産	試當斤	百分比	纖維長	備考
トライス二二三	八月廿七	五五三	五六	一一七	二五四	優良品種
南苑トライス	八月九	四六八	四八	一〇〇	二四五	在來品種

(ロ) 石門支場昭和十四年度成績

品種名	開繁期	陌當産	試當斤	百分比	纖維長	備考
ストンビル四B	九月四	六九六	七二	一五四	二三二	優良品種
磁縣陸地棉	九・一	四五一	四六	一〇〇	二一三	在來品種

(ハ) 濟南支場

品種名	開繁期	陌當産	試當斤	百分比	纖維長	備考
ストンビル四B	八月二〇	八〇五	八二	一一八	二九七	優良品種
トライス五三	八月二四	六三〇	六四	一〇〇	二五五	齊東棉業試驗場育成種

備考 昭和十四年度同十五年度二ヶ年平均成績

以上ノ成績ニ依レバ優良品種ハ在來品種ニ比シ何レモ二割乃至五割ノ增收ヲ示シ品種モ亦優秀ナルヲ以テ目下獎勵品種トシテ原々種圃、原種圃及採種圃ニ於テ増殖普及ヲ圖リツ、アル次第テアル

二小麥

(イ) 本場 (北京)



(四) 石門支場

灌溉	品種名	成熟期	子實重		品質	備考
			畝當斤	百分比		
中系一號	六月九日	二二六二	二三二	一一三	上	自昭和十三年度至向十五年 原平均
北京西郊 在來五	六月九日	一八四一	一八八	一一〇	中	
中系一號	六月二日	二八一五	二八八	一一九	上	自昭和十四年度至向十五年 原平均
北京西郊 在來五	六月二日	二四三二	二四三	一〇〇	中	

(三) 濟南支場

品種名	成熟期	子實重		品質	備考	
		畝當斤	百分比			
石系一號	五月三十一日	二一三四	二二一	一〇〇	上上	自昭和十四年度至向十五年 原平均
紅皮無芒	五月三十一日	二一五二	二二一	一〇〇	上	
石系一號	六月四日	二三八四	二四四	一一九	上上	自昭和十五年年度
紅皮無芒	六月四日	二〇〇八	二〇六	一〇〇	上	

(二) 青島支場

品種名	成熟期	子實重		品質	備考	
		畝當斤	百分比			
濟系一號	五月二十九日	一三二二	一三六	一〇九	上下	自昭和十四年度至向十五年 原平均
無芒大白	五月二十九日	二二一八	一二三	一〇〇	中上	
濟系一號	五月三〇日	二〇八五	二一四	一一〇	上	自昭和十四年度至向十五年 原平均
無芒大白	五月三〇日	一八九八	一九五	一〇〇	上下	

(一) 右ノ成績ニ依レバ中系一號(本場育成種)石系一號(石門支場育成種)濟系一號(濟南支場育成種)青系二號(青島支場育成種)ハ夫々地方ノ

品種名	成熟期	子實重		品質	備考	
		畝當斤	百分比			
青系二號	六月六日	三三〇八	三三九	一一八	中上	自昭和十三年度至向十五年 原平均
無芒紅縞	六月六日	二七三〇	三七九	一〇〇	中	
青系一號	六月八日	三二九五	三三八	一一七	中	自昭和十四年度至向十五年 原平均
無芒紅縞	六月八日	二六〇〇	二六六	一〇〇	甲	

三水

三浦城支場昭和十五年成績

在來品種ニ比シ一畝乃至三畝ノ増收ヲ示シ品質ニ於テモ粘カニ優秀ナルヲ以テ目下獎勵品種トシテ原々種圃及原種圃ニ於テ増殖ヲ圖リツ、アル次第テアル

品種名	成熟期	精穀重		玄米重		品質	備考
		割合	百分比	反當	百分比		
陸三三號	九月五日	三三・一七	一二・五	四八	一	上	種子取寄先奥羽試験地 富山長試
銀坊中生	九・二七	四七・七六	一七・〇	六四	一	上	
榮國	九・二〇	三九・八四	一五・二	三四	一	中	朝條
胡蘆稻	九・一六	二八・一〇	一〇・〇	一	一	中	
金剛稻	九・一五	二七・〇二	九・六	一	一	中下	茶淀
大白芒	九・一	二七・二二	九・七	一	一	中下	

右ノ成績ニ依レバ新々ニ取寄セタル日本ノ優良品種中陸羽一三二號、銀坊中生及愛國ハ例レモ在來品種ニ比シ優秀ナルコトヲ示シ之ヲ從來天澤

四粟

本場（北京）

品種名	成熟期	子實重			品質	備考
		割合	畝管斤	百分比		
北京太白	九月一日	二一・七一	二二・三	一一・三	中	百廿九年至十五年
冀大穗	九・一	一七・三五	一七・八	一〇・〇	中	

地方ニ於テ好許ヲ博シタル胡蘆稻ニ比較スレバ五畝乃至七畝ノ増收ヲ示シ米質モ亦優秀ナルヲ以テ目下優獎勵品種トシテ原種圃ニ於テ此等三品種ノ増殖ヲ圖ツテ居ル

右ノ成績ニ依レバ北京太白ハ冀大穗ニ比シ二畝五分ノ増收ヲ示シ相當優良ナルモノト認メラル、ヲ以テ之ニ桑園澗汰ヲ加ヘ優獎勵品種トシテ原種圃ニ於テ増殖ニ着手シタ

華北ニ於ケル農作物病虫害防除ノ效果ニ就イテ

華北産業科學研究所

目次

- 一、種子消毒ノ必要ト其ノ効果
- 二、害虫防除ノ効果

一、種子消毒ノ必要ト其ノ效果

華北ニ於ケル重要農作物タル棉、小麥、粟等ニハ種々ノ病害ガ發生シ年々多大ノ損害ヲ蒙ツテ居ルコトハ周知ノ事實デアアル。コレ等病害ノ傳染経路ハ種々アツテ防除對策ハ勿論一樣デハナイガ今日迄ニ華北全般ニ分布シ最モ警戒ヲ要スルモノトセラレテ居ル病害ハ殆ソド種子傳染ヲ行フ病害デアアル。例ヘバ棉炭疽病、小麥黑穗病、粟白髮病、粟黑穗病等ノ如キモノニシテ何レモ莢又ハ種子ニ發生シテ收量並ニ品質ニ直接實害ヲ及ボシテ居ル。華北ニ於テハ從來コレ等ノ病害ニ對シテ何等ノ對策ヲ講ズルコト無ク農民ハ一種ノ災害ト諦メテ放任シテ居ル現狀デアアルガ種子消毒ヲ勵行スルコトニ依リテ充分防除ノ目的ヲ達シ得ルモノト考ヘラレルノデアアル。本法ハ操作ガ極メテ簡易ニシテ農藥以外ニハ特殊ノ資材ヲ必要トシナイモノデアアル從ツテ農藥ノ供給サヘアレバ現在ノ華北ノ如キ民度ノ低い地方ニ於テモ充分實施シ得ラルルモノト見ラレテ居ル。一例ヲ示セバ棉種子ノ消毒ニ「セレサン」ヲ用フレバ一鎰（一畝入價格約七圓）ニテ約五〇畝ノ播種種子ヲ

消毒シ得ベク、粟ノ如キ畝當播種量ノ少クテ済ムモノニアリテハ「ウスブルン」一鎰（〇五畝入價格約七圓五拾錢）ニテ約二千畝ノ播種種子ノ消毒ガ可能デアアル。

斯ノ如ク種子消毒ハ操作ノ簡易ト經濟的ニ實行シ得ル點ヨリ華北ノ現狀ニ即シテ最モ實施シ易キ防除對策ト云ハネバナラナイ。

華北産業科學研究所ニ於テハ從來重要農作物ニ就キテ夫々種子消毒ニ關スル試驗ヲ行ツテ居ルガコレ等ノ成績中ヨリ棉、小麥、粟等ノ種子消毒效果ニ關スル試驗成績ヲ摘記スレバ次ノ如クデアアル。

(一) 棉

棉ノ病害トシテ最モ廣ク分布シ且被害ノ著シイモノハ炭疽病ニシテ主トシテ莢又ハ棉絮ニ發生スルガ幼苗ヲモ侵害シテ所謂立枯病ヲ起スモノデアアル。本病菌ハ種子ニ伴ヒテ傳染スル場合ガ多イノデ種子消毒ヲ行ヘバ本病菌ノ侵害ニヨリ立枯苗ノ發生ヲ減少セシメ得ルコトガ出來ル。其ノ試驗成績ハ第一表ニ示スガ如ク缺株率ハ標準ノ三三・六%ニ對シテ一、八一・九四%

ニ減少シテ居ル。コノコトハ收量増加ニ影響スルコトハ明カニシテ第二表ニ示ス如ク完全ニ種子消毒ヲ實行シ其ノ後ノ病害防除ノ爲成育期ニ藥劑撒布ヲ行ヒタル場合ニハ標準區ノ缺株率ニ五%ニ對シテ四%ニ減少セシメ得ベク幹長並ニ結果枝數等キ差異ヲ示シ結局標準ニ對シ三五%ノ增收トナツテ居ル。

第一表種子消毒ニヨル棉立枯病防除試驗成績

試驗區別	調査株數	缺株數	缺株率	千畝當所要藥量kg
ウスブルン千倍液浸漬	三三〇	三三	一〇.〇	八.〇
セレサン〇.五%被覆	三三〇	三一	九.四	二〇.〇
漂白粉〇.〇%被覆	三三〇	三二	九.七	四〇.〇
冷水温湯浸漬標準	三三〇	三九	一一.八	
	一一一		三三.六	

備考 一畝當播種量ヲ八斤トシテ計算セリ

第二表炭疽病防除效果ニ關スル試驗成績

試驗區別	缺株率%	大暑作況		收量kg	全上比率
		幹長cm	結果枝本		
防除區	四〇	四三.一	一〇.七	一六五.七	一三五
無防除區	二五.〇	三五.四	九.〇	一二五.三	一〇〇

(一) 小麥  
華北ノ小麥ガソノ栽培期間中雨季ヲ經過シナイコトハ病理學的ニモ注目セララル所ニシテコレガ爲ニ病害ノ發生狀態モ日本内地トハ大イニ異ルモノガアル。日本内地ニ於テハ登熟期ニ屢々降雨ニ見舞ハレル爲ニ藥劑撒布ニヨリテ銹病、赤黴病等ノ發生ノ防止ニ病害防除ノ重點ヲ置イテ居ル様デアル。然ルニ華北ニ於テハ四月頃ハ降雨殆ンド無ク旱魃狀態ヲ呈スル年多クコレラノ病害ニヨル被害ハ一般ニ少イ。反之、種子傳染ヲ行フ稈黑穗

病、暹黒穂病等ハソノ傳染上春手ノ阜越ニ影響セララルコト無キヲ以ツテ、  
 廣ク分布シ地域的ニハ著シキ發生ナミ時ニハ被害三〇%以上ニ及ブコトガ  
 アル。從ツテ華北ニ於テハ小麥ノ病害防除ノ爲ニハ撒布劑タル石灰硫黃合  
 劑ヨリチ種子消毒劑タル錯酸銅其ノ他銅劑又ハ「セレサン」ノ如キ水銀劑  
 ナ必要トスルモノデアル。昭和十五年度ヨリ着手セル種子消毒試驗成績ニ  
 ヨレバコレラノ藥劑ハ何レモ有效ニシテ、暹黒穂病ニアリテハ二〇%五%、  
 暹黒穂病ニアリテハ五五%四%ノ發病率ニ對シテ種子消毒ヲ行ヘルモノハ殆  
 ンド發病ヲ見ナイト云フ結果ヲ得テ居ル。

粟

粟ノ病害中最チ恐ル可キモノハ白髮病ト黒穂病トニシテ、華北ノ各地ニ  
 分布シ兩病害トチソノ被害三〇%四〇%ニ上ルコトハ決シテ珍シクナイ。  
 白髮病ノ如キハ時ニ七〇%ノ發生ヲ見ルコトサヘアル。而シテコレ等ノ病  
 害ハ何レチ穂ニ現ハルルチ以ツテソノ被害率ハ略々減收率ト看做サレルノ

デアル。白髮病ハ一部土壤傳染ヲ行フヲ以ツテ種子消毒ニヨリテ完全ニ防  
 除スルコトハ難シイガ、黒穂病ニ對シテハ種子消毒ノ效果が大イニ期待セ  
 ラレルノデアル。昭和十六年度ニ施行セル種子消毒試驗成績ニヨレバ第三  
 表ニ示スガ如ク標準區ノ發病率六〇%五九%ニ對シテ王銅「セレサン」ノ如  
 キ粉劑使用區ハ夫々三九五%及ビ三三三%ニ減少シテ居ル。又「ウスブル  
 ン」「フオルマリン」ノ如キ液劑ニ浸漬セルモノハ全然發病ヲ示サズ頗ル  
 好結果ヲ得テ居ル。

第三表種子消毒ニヨル粟黒穂病防除試驗成績

試驗區別	調査稈數	被害稈數	被害率%	千畝當所 要藥劑量kg
セレサン 〇四%被覆	一五〇	五	三三三	三〇
錯酸銅	一一八	七	五九三	三〇
王銅	一六九	五	三九五	三〇
クボイド	一二六	一二	九五二	三〇

ウスブルン 千倍液浸漬	一七六	〇	〇	〇・二五
フオルマリシ 二百倍液浸漬	一九五	〇	〇	五五(封度)
標準	一三七	八三	六〇・五八	

備考 一畝當播種量ナ一五斤トシテ計算セリ

ニ害虫防除ノ效果

華北ニ於ケル害虫ノ發生ハ日本ノ夫ト甚シク状態ヲ異ニシ、屢々大發生ヲ爲シ農作物ニ慘害ヲ與ヘル。其ノ極端ノ例トシテ善ク人ニ知ラレル飛蝗ハ二、三年ニ一度ハ大發生ヲシ其ノ大群ノ移動、通過シタ跡ハ全ク一物ヲモ殘サズ迄食盡サレル。飛蝗ノ他ニモ粟ノ夜盜虫、棉ノ蚜虫、赤壁蝨ノ如ク年々農作物ニ大害ヲ與ヘル害虫モ少クハナイ。然シテ之等ノ害虫ノ防除ハ從來全ク行ナレテ居ナイ状態デ若シ其ノ防除ヲ行ナヘバ夫ニ依リ農作物ノ増産サレル額モ少クハナイト考ヘラレル。

華北産業科學研究所ニ於テ八日下棉、小麥等ノ重要害虫ニ就テ防除試驗ヲ施行シテ居ルガ夫等ノ成績中ヨリ棉蚜虫、棉赤壁蝨、小麥螟等ニ關スル防除試驗ノ成績ヲ摘記スレバ次ノ如クテアル。

(一) 棉蚜虫  
華北ニ於テハ俗ニ「十年九蚜」ト云ハレル如ク殆ンド例外ナシニ毎年蚜虫ノ被害ヲ受ケル。之ヲ藥劑撒布ニ依リ驅除スレバ其ノ增收ハ次表ニ示ヌ如クテアル。

第四表 棉蚜虫驅除試驗收量調査成績

試驗區名	一〇亞當收量(担)	全上對標準比
硫酸ニコチン八〇〇倍	九八・四二	一一・七四
除虫菊石鹼二四〇倍	九四・二二	一一・二四
液体トミノ一三〇〇倍	九〇・一三	一〇・七五
デリス石鹼六〇〇倍	九八・〇五	一一・六九
液狀デリゲン六〇〇倍	九八・四六	一一・七四

標準

八三八五 一〇〇〇

硫酸ニコチン、液体デリゲン最良デ一七四%ノ增收デ、デリス石鹼之ニツギ一六九%ノ增收トナル。除虫菊石鹼ハ一三四%液体トミノ一八七五%ノ增收トナル。即チ蚜虫驅除ニ依リ一〇%以上ノ增收ヲ期待シ得ルモノデア

本試験ニ並行シテ行ツタ殺虫試験ノ成績カラ見テモ硫酸ニコチンハ最モ有効デアアルガ價格低廉デナク輸入困難デ現在ノ華北デハ使用ハ望メナイ。デリス石鹼、液狀デリゲン等ノデリス類ハニコチン劑ニ劣ラヌ殺虫率ヲ示シ價格モ低廉デアアルガ、原料ノデリス根ヲ主トシテ南洋方面ニ依存スル爲現在デハ之ヲ又使用出來ヌデアアラウ。從ツテ之ニ代ルベキモノトシテハ除虫菊製劑ガ考ヘラレルガ、油狀トミノ一八〇〇倍デキング乳劑ハ八〇〇倍デ何レモ九七%ノ殺虫率ヲ示シ之等ハ充分代用シ得ルモノト認メラレル

四回デアアル。

目棉赤壁蝨

棉赤壁蝨ハ年ニ依リ發生狀態ヲ異ニスル害虫デ、高温乾燥ノ年ニ特ニ害ハ甚シイ。被害植物ノ葉、結果枝ハ落チ、屢々無收穫トナル。民國二十八年山東省高密附近ニ發生シタ際ニハ附近一帯ノ棉田ノ全滅シタ例モアル。

防除ニ用フル各種ノ硫黃製劑ノ殺虫試験ノ成績ニ依ルト石灰硫黃合劑ハポ一ノ〇、三度液デ其ノ殺虫率九四%ヲバサイドハ二〇〇倍デ八四%ノ殺虫率ヲ示シ、何レモ効果アルモノト認メラレタ。

赤壁蝨驅除ニ要スル藥劑ノ撒布液量ハ畝當一三五立デ撒布回数ハ一―二回デアアル。

目小麥蠶蝨

蠶蝨ハ小麥以外ニ棉、雜穀、麻類ノ幼苗期ニ加害シ缺株ヲ生ズル原因トナル。



之ノ毒餌誘殺ニ依ル防除試験ノ成績ハ次表ニ示ス如クデ缺株ヲ著シク減ジ  
 頗ル有効ノモノト認メラレル。

第五表 螻蛄誘殺試験缺株調査

試験區名	調査株長	缺株長	缺株率
信石	〇米	〇四八米	〇六〇%
亞砒	〇六ノ	〇八五	
標準	一八	一三九七	

備考 (一) 毒餌成ト、粟一〇〇瓦、毒劑五瓦、黑砂糖五瓦  
 (二) 〇亞當毒餌撒布器ハ五疋ヲ播種溝ニ撒布ス  
 (三) 信石ハ中國土産毒藥デ砒素化合物デアル。

秘

18

昭和十六年度北支經濟關係事業計畫  
「農林關係事項拔萃」

岡村文雄

技術部第三室資料

目次

- 一 農 産 關 係
- 二 畜 産 關 係
- 三 物 動 關 係
- 四 資 金 關 係
- 五 貿 易 關 係

研-0651

昭和十六年度北支農産計畫  
第一方 針

北支ニ於ケル食糧品ノ増産確保配給ニ萬全ヲ期シ以テ民心ノ安定及治安工作ニ寄與スルト共ニ北支那自給經濟ノ基礎ヲ涵養セントス

一、食糧農産物ノ改良増産

(1) 小麦

(A) 昭和十六年度増産目標 三九四千擔

(B) 將來小麦ノ自給自足ヲ圖ルヲ目途トシテ獎勵品種ノ増産普及、

耕種法及施肥法ノ改善、病蟲害ノ防除、水利施設ノ普及等ノ改善ヲ爲サントス而シテ病蟲害ノ防除、水利施設ノ普及ニ付テハ後述スルモ獎勵品種ノ増産普及トシテハ差當リハ華北農事試験

(2) 雜穀

(A) 昭和十六年度増産目標

粟	一五一千擔
高粱	七五千擔
玉蜀黍	一二千擔

場及同支場ニ於テ既ニ在來種ヨリ集團淘汰ニ依リ純良種子ヲ選出セルモノヲ四箇所(北京、濟南、青島、石家莊)ノ原々種圃ニ於テ増殖セルヲ以テ之ヲ左ノ六箇所ノ原種圃(一ヶ所平均四〇〇畝、計二、四〇〇畝)ニ於テ増殖ノ上普及ヲ圖ラントス

軍糧城、保定、德縣、泰安、張店、城陽

右ノ外六十箇所ニ小麦委託試驗地ヲ設置シ右種子ノ地方的適否ヲ檢定スルノ外模範作地ノ指導ヲモ兼ネシメントス

仍農藝技術員ノ養成ヲ北京、濟南、青島ニ於テ爲サントス

(参考) 昭和二十五年産増産目標 粟四五〇〇千擔高粱三五〇〇千擔 玉蜀黍三五〇〇千擔

(B) 右増産ヲ目途トシテ優良品種ノ増殖普及、栽培法ノ改善、病蟲害ノ防除及水利施設ノ整備ヲ爲サントスルモ本年度ニ於テハ主トシテ後述スル病蟲害ノ防除、水利施設ノ整備ヲ圖ルノ外各種試験ヲ施行シ専ラ優良品種ノ選擇育成ニ努ムルモ差當リ優良種子ノ増殖普及施設トシテ左ノ原種圃ノ經營ヲ爲サントス

北 京 粟 五一畝 玉蜀黍 二畝  
濟 南 粟 五一畝

(g) 水 稻

(A) 昭和十六年度増産目標 三六、八〇〇石(粳)

(参考) 昭和二十年度増産目標二一萬石  
右ノ外既成水田ニ對シ種子ノ改良普及ニヨル増産ヲ圖ルモノトス

(B) 右増産ヲ目途トシテ農業水利施設ノ計畫的實施開田及地目變換ニ依ル作付面積ノ擴張、優良品種ノ普及、耕種法施肥法ノ改善、病蟲害ノ防除等ヲ爲サントス、右ノ内優良品種ノ増殖普及施設トシテ本年度ニ於テ華北農事試驗場軍糧城支場ニ於テ三〇〇畝ノ原種圃ノ經營ヲ爲シ陸羽一三二號、中生銀坊主種ノ増殖ヲ圖ラントス

尙産米増殖ヲ急速ニ達成スル爲三一、九四五石ノ種粳ヲ購入シ之カ配布機關トシテ地方官公署、華北交通會社等ヲ豫定シ出來秋ニ於テ右産米ノ收買ヲ統制セントス

二 棉花ノ改良増産

(A) 昭和十六年度生産目標 一、六二九千擔

(参考) 昭和二十五年産生産目標一、〇〇〇萬擔

(田) 石生産ヲ日送トシテ優良品種ノ増殖普及、栽培法ノ改善、水利施設ノ整備、病蟲害ノ防除等ニヨリ所期ノ改良増産ヲ期スルモノトス

而シテ事業擔當分野ヲ華北農事試驗場ハ試驗研究部門ヲ華北棉産改進會ハ指導獎勵部門ヲ擔當セシムル如ク分ツ

(イ) 華北農事試驗場實施事業

棉花ニ付テノ本年度實施事業ノ重點ハ獎勵品種ノ選定育成ニ關スル基礎的試驗研究ヲ行フト共ニ獎勵品種種子ノ増殖ヲ圖ル爲左ノ棉花原々種圃及原種圃ノ經營ヲナスモノトス  
原々種圃面積 (北京、濟南、石家莊、青島計八〇〇畝)  
原種圃面積 (唐山、南苑、保定、石家莊、邯鄲、彰德、德縣、泰安、城陽、張店、臨清等計六、八〇〇畝)

(ロ) 華北棉産改進會實施事業

華北棉産改進會ノ省分會及指導區辦事處ノ組織ヲ通シ採種圃ノ經營、優良種子ノ配給、棉田水利ノ普及棉作金融ノ斡旋等ヲ行ヒ北支那棉花改良増産計畫ニ準基シ其ノ所期ノ増産ヲ期ス本年度ノ主ナル事業次ノ如シ

採種圃ノ經營、自營採種圃	五、五〇七畝
委託採種圃	四八七、〇〇〇畝
優良種子ノ配布指導、配布種子	八七四、〇〇〇擔
害蟲驅除	二〇〇、〇〇〇畝
種子消毒施行面積	二〇〇、〇〇〇畝
水利施設ノ新設實施面積	三〇〇、〇〇〇畝
其他合作社ノ指導、共同繰棉施設ノ設置、技術員ノ養成等	

三 土地改良

小麥、雜穀、米、棉花等各種農産物ノ改良増産計畫ノ確實ナル實現

ヲ圖ル爲ニハ之カ基礎施設トナル水利施設ヲ實施スルコト緊急ナルヲ以テ次ノ如ク實施セントス

(1) 鑿井

差當リ井數一六、五二〇眼之カ灌溉面積四一三、〇〇〇畝ヲ目標トシ鑿井施設ヲ普及ス、灌漑豫定地域次ノ如シ

河北省	八、〇〇〇眼	二〇〇、〇〇〇畝
山東省	七、〇〇〇	一七五、〇〇〇
山西省	一、〇〇〇	一二五、〇〇〇
河南省	五二〇	一二、〇〇〇
計	一六、五二〇	四一三、〇〇〇

之カ實施機關ハ地方官公署、華北交通會社、華北農事試驗場、華北棉產改進會等トス

(2) 土地開發

荒蕪地開發ヲ目途トシテ左ノ水系ニ付治水事業ニ協調ノ上農業用排水幹線工事ヲ建設總署ヲシテ實施セシム、而シテ右ニ依リ本年度左ノ農地開發面積ヲ豫定スルモノニシテ右農地開發ニ付テハ建設總署ノ國營工事ニ適應シテ急速ニ實施シ得ルカ如キ適當ナル會社ノ設置ニ付考慮スルモノトス

灤河地區	田	一〇〇〇町步
薊運河地區	畑 田	二五〇〇
馬廠河地區	畑 田	五〇〇〇

四病蟲害防除

北支ノ急速ナル農業増産ヲ圖ル爲ニハ病蟲害ノ驅除豫防ヲ爲スコト重要ナルヲ以テ粟白髮病及黑穗病、粟夜盜蟲、高粱黑穗病其他ノ病

蟲害防除ヲ實施センカ爲次ノ農藥劑ヲ配布セントス、而シテ之カ擔當機關ハ地方官公署、華北交通會社等ヲ豫定ス

病、蟲、害名	品名	數量	施行面積
粟白髮病、黑穗病	錯酸銅	六千封度	百萬畝
粟夜盜蟲	砒酸石灰 カセイン石灰	一〇萬封度 二萬五千封度	十萬畝
高粱黑穗病	王銅	六千封度	五〇萬畝

五食糧農産物ノ輸入並ニ確保  
左ノ食糧農産物ノ輸入ヲ確實ナラシムル爲當該輸入配給組合ノ機能ノ充實ヲ圖ルノ外特殊機擘ノ整備ヲ爲サントス

(1) 小麥粉

新事態ニ對應シ可及的多量ノ小麥粉ノ輸入確保ヲ圖リ以テ昭和十六年度ニ於ケル小麥粉需給ノ萬全ヲ期スルノ要アルヲ以テ従前計輸入計畫ニ再檢討ヲ加ヘ左ニ依リ之カ緊急輸入ヲ爲サントス

新局面ニ對應セル小麥粉輸入計畫表

別月	内地粉	濠洲クレデ	濠洲クレ	物資	蒙疆藥	外貨	租界現銀	援助資金	計
10	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
11	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
12	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
1	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
2	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
3	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
4	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
5	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
6	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
7	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
8	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
9	3000	3000	3000	3000	1000	1000	3000	3000	10000
計	30000	30000	30000	30000	10000	10000	30000	30000	100000



参考

北支一ヶ年間小麦粉地場生産量 一八、六〇〇千袋  
北支主要都市一ヶ年間需要量 三六、〇〇〇

要輸移入量(年間)

一七、四〇〇

(註)

1. 表ニ於ケル一ヶ年間輸移入總計一九、〇一八千袋カ要

輸入量一七、四〇〇ヲ超過セルハ將來移入困難化ヲ

豫想シ現在ニ於テ最大可能量ノ輸移入ヲ圖ラントスル

ニヨル

2. 表ハ小麦粉數量ヲ示スモ小麦粉ニ換算シ之ヲ包含セル

モノナリ

3. ◎印アルハ買付済ナルモ未入荷ナル外國小麦粉及小麦

ヲ示ス

(2) 雜穀

粟、高粱、玉蜀黍ノ輸移入ヲ確保シ以テ都市及特殊地帯ニ於ケル

民心ノ安定並ニ産業開發ノ促進ヲ圖ル爲滿洲、蒙疆ト協議ノ上左

ニヨリ之カ輸入ノ確保ヲ爲サントス

(A) 滿洲雜穀輸入月別豫定表

品目	單位	一〇月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	計
粟	千屯	一〇	一五	一五	九	六	六	六	五	五	五	五	八三
高粱	千屯	一〇	一五	二五	二〇	五	五	五	五	五	五	五	一〇〇
包米	千屯	一〇	一〇	一五	一四	三	三	三	三	三	三	三	六八
計	千屯	三〇	四〇	五五	四三	一五	一四	一四	一四	一三	一三	一三	二五〇

(B) 蒙疆雜穀輸入豫定

十六萬屯

(3) 米穀

華人所要米穀五十萬石ヲ目標トシテパーター制ニ依リ中支米ノ移入ヲ爲スト共ニ佛印又ハ蘭印ヨリノ輸入ヲ圖ルノ外現地邦人所要米穀トシテ日本ヨリ四十六萬石餘ノ輸入並ニ確保ヲ圖ラントス



六 現地食糧農産物ノ出廻促進並ニ確保

食糧農産物ノ出廻ノ促進ト之カ確保ヲ圖ル爲左ニ付考慮セントス

- (1) 華北小麥協會ノ機能ヲ強化シ以テ小麥ノ出廻促進、地域別配分調整並ニ製粉能率ノ向上ヲ期セントス
- (2) 現地生産米ノ收買ノ統制並精玄、精白ノ合理化ヲ圖ラントス
- (3) 雜穀生産地帯ノ收買ヲ強化シ更ニ一段ト地域別過不足ノ調整ヲ圖ラントス

(4) 各種食糧農産物價格ノ適正ヲ期セントス

七 食糧農産物貯藏保管施設ノ整備

可及的多量ノ食糧農産物ノ確保貯藏ヲ圖リ以テ緊急事態ニ對處シテ之カ需給ノ調節ト價格ノ抑制ヲ爲スコト緊要ナルヲ以テ左ニヨリ之カ施設ノ整備ヲ爲サントス

(1) 現特殊機構ヲ整備シ緊急事態ニ對處シテ食糧農産物ノ常平倉的機能ノ發揮ニ努メシムルト共ニ現在ノ活動ノ敏捷性ヲモ保持セシムルカ如キ恒久的施設ニ付考慮セントス

(2) 右施設ニ付食糧農産物ノ長期保管ニ堪エシムルカ如キ倉庫ヲ適當ノ地ニ建設セシメントス

(3) 右倉庫ノ建設、食糧農産物ノ價格ノ調整等ノ爲現輸入配給給組合ノ調整料ヲ充當シ得ルカ如ク考慮セントス

第三 所要經費

華北産業科學研究所	一、三九九、一七九圓
華北農事試驗場	一〇、〇一四、五六〇
華北棉産改進會	七、六一六、九七九
建設總署	一、九五〇、〇〇〇
鑿井獎勵	二、七〇〇、〇〇〇
水稻種子配布	一、七六〇、五二九
計	二五、四九一、七四七

第四 主要所要資材			
品名	数量	摘要	摘要
噴霧器	一〇、七五臺	農事試験場使用	一〇、〇〇〇
デリス石鹼	四、一〇〇個	農産改進會使用	一〇、〇〇〇
錯酸銅	一、〇〇〇封度		
砒酸石灰	一、〇〇〇	病蝕害防除ニ使用	
カイゼン石灰	一、〇〇〇		
王銅	一、〇〇〇		

昭和十六年度北支畜産計畫

第一方 針

家畜ノ維持増殖ヲ圖リ農業經營上必須ノ勞力、肥料ノ供給ヲ圓滑ナラシムルト共ニ食肉資源ノ培養、畜産物ノ増産ニ資セントス

第二 要 領

家畜ノ維持増産並畜産資源ノ確保ハ國防重點主義ニ依リ家畜ニ於テハ牛、馬、綿羊、畜産物ニアリテハ皮革、皮毛、羊毛ヲ主トシ、豚、鶏等ハ國內需要ノ點ニ於テ又加工品、豚毛、獸腸、特殊毛皮類等ハ外國貿易ノ點ニ於テ、之ヲ考慮ス、(但シ馬ニハ騾ヲ含ム)

一、家畜並畜産物ノ出廻促進及確保

食用家畜(主トシテ牛、豚)及畜産物(皮革、羊毛)ノ軍需、民間ニ於ケル數的調整、價格ノ適正化、購買方法等ヲ綜合的ニ再検討シ總体的調整ヲ圖ルコトニ依リ家畜並畜産物ノ出廻リヲ促進シ之ヲ確保ス

(イ) 性畜 (食肉資源)

性畜關係組合又ハ公會、機構ヲ確立シ性畜ノ配分ヲ統制シ地域別ノ調整ヲナスコトニ依リ價格ノ不均衡ニ基ク性畜ノ移動、逃避ヲ防止シ出廻ヲ圓滑ナラシム、之カ爲メ現地供給及需要取引機構ノ綜合的統制ヲ圖ル

(ロ) 皮革、羊毛

皮革ニ於テハ局部的ニ行ハレツツアル統制ヲ更ニ全体的トナシ價格ヲ考慮スルコトニ依リ原料皮革ノ逃避ヲ防止シ不正商人ヲ排シテ特ニ代貨(小麥、雜實等)供給ノ方法ニ依リ出廻ノ促進ヲ圖ル、特ニ屠場生産ノモノニアリテハ軍民需問ノ配分ヲ定メ一定數量ノ確保ヲ圖ル

(ハ) 畜産物ノ輸出貿易振興

輸出貿易商ノ専門的知識ノ活用ト現地機關ノ統制アル指導ト連絡

ニ依リ過去在來ノ資本系統ヲ侵蝕シ輸出畜産物ノ出廻リヲ誘導シ  
ツツ之ヲ確保ス

ニ家畜ノ生産増殖

家畜ノ計畫的増殖ハ農家ノ經營狀態、飼料、用途、消費ノ部内、氣  
候、風土等各家畜各々ニ於ケル基礎的條件ノ考究ニ依リ始メテ之ヲ  
行ヒ得ルモノニシテ其ノ可能ノ地域ニ於ケル生産ノ狀況モ自ラ限定  
セラレ可ク濫ニ之カ生産獎勵ハ慎重ニ考慮スヘキモ今日ノ狀態ハ家  
畜ノ不足ニ基ク農家ノ勞力及肥料ノ不足等農産物ノ増産ニ直接影響  
シ尙安ヲ許ササルニ依リ役用家畜ノ他地方ヨリノ移入ニ勉ムル外現  
地増殖ヲ圖ラントス

(イ) 綿羊ノ改良増殖 (羊毛ノ生産力擴充) 羊毛ノ生産力擴充ハ國防資  
源培養ノ意圖ヲ以テ昭和十五年度ヨリ日華協力ニ依ル華北綿羊改  
進會 (在北京) ヲシテ在來綿羊ノ改良ヲ爲サシムルト共ニ農家ニ

綿羊ヲ貸付預託スルゴトニ依リ農民ノ福祉ヲ増進セントス、之カ  
爲メ同會ト現地指導機關並各團體間ニ於ケル運繋ヲ密ニシ效果ノ  
萬全ヲ期セントス

本年度貸付又ハ預託豫定綿羊頭數左ノ如シ

コリテール種	寒羊	種羊	在來種	合計
牝羊	牝羊	牝羊	牝羊	
三二八六頭	五二〇頭	一三六〇頭	一七〇頭	八三三六頭

(ロ) 支那馬ノ増産

華北馬資源ノ枯過セル爲メ變ニ軍ニ於テ種牡馬ノ貸與ニ依ル生産  
力増加ヲ圖リツツアリタルモ更ニ華北政務委員會ヲシテ之ヲ實施  
セシムル爲メ本年度種馬所一ヶ所ヲ設置シ二〇〇頭ノ種牡馬ヲ以  
テ種付ヲ行シ爾后繼續的ニ増殖ノ獎勵ヲ行フ

(ニ) 一般家畜ノ増産

家畜ノ維持増殖ハ前述ノ各種原因ニ基キ行フノ外更ニ家畜ノ飼料  
タルヘキ濃厚飼料ハ人ノ食料ト、粗飼料タル可キ農産副生品ハ

燃料トノ相剋アリ一般農産物ノ増産ニ附隨シ行ハルヘキモ、更ニ未耕地利用、牧草ノ栽培（ルーサン種子一配給）未利用農産生産品ノ利用等各現地懇關ニ於ケル指導獎勵ニ依リ可及的維持増殖ヲ圖ラントス

時ニ種畜、種維ハ元ヨリ各幼畜ノ配布、預託、貸付等計畫的ニ之ヲ行フタメ種畜、種卵等内地朝鮮滿洲ヨリノ供給ニ付キ考慮ス  
 三家畜ノ改良

家畜ノ改良ハ特ニ馬又ハ綿羊ノ如キ國防重點主義的計畫事業トシテ行ハルモノ等特殊ノモノヲ除キ試験的ニ行フニ止メ前途ノ如ク飼料氣候、風土、適應性傳染病ノ蔓延ノ狀況等ニ依リ日本内地等ノ優良種必シモ、華北ノ優良適應種トハ斷定シ難キヲ以テ現下家畜ノ維持増殖ヲ主眼トシ在來現地適應優良種ノ選擇ニ依リ増殖ヲ圖ラントス

四 家畜ノ傳染病豫防

北支ニ於ケル家畜ノ傳染病ハ特ニ維持増殖ノ最大障害トナルヘク牛疫、牛肺疫、炭疽、野獸疫、鼻疽、豚コレラ、家禽コレラ、家禽ペスト、狂犬病、羊痘等ハ特ニ防遏ヲ緊要トス、之カ爲メ華北農事試験場ニ於ケル血清豫防液類ノ製造設備ヲ充實シ本年度左表ノ通り血清類ノ製造ヲ爲サシムルト共ニ北支在來傳染病ノ蔓延並被害ノ状態ニ附キ調査ヲ繼續シ又現地防疫機關ノ充實ニ努メ農民ノ家畜防疫ノ重要性ニ對スル知識ノ向上ヲ圖リ以テ傳染病防遏ヲ期セントス

左記

昭和十六年度家畜ニ應用スル血清豫防液類ノ製造豫定量

品名	數量	摘要
牛疫豫防液	500,000cc	100,000頭分
血清	1,000,000	1,500,000

炭疽血清	500000	500000
豫防疫液	100000	500000
豚コレラ血清	750000	100000
豫防疫液	500000	500000
狂犬病豫防疫液	250000	500000
家禽コレラ血清	500000	500000
豫防疫液	600000	200000

備考 其他ノモノニアリテハ購入又ハ臨時製造ス

五畜産ニ關スル試験研究

現地在來優良適應品種ノ選定ヲ圖ルト共ニ在來品種ノ改良ニ關シ其ノ可能ノ範圍ヲ多角的ニ檢討シ將來北支ニ於テ實施セララルヘキ改良ノ目標ノ決定其ノ他ノ試験ニ努力ス

昭和十六年度ニ於テハ左記事項ニ關シ華北農事試験場ハ調査試験セントス

尙現地ニ於ケル各畜産關係試験場ハ各地ニ適應セル品種優良種ノ選定ニ各々調査試験研究シ適應種ノ選擇ヲ圖ルト共ニ亂ニ改良ノミヲ目途シ實際ノ農家ニ於ケル飼養ノ狀況ヲ忘却セサル様注意ス

左記

- 一 山東牛ニ關スル基礎的事項ノ研究並調査
- 一 山東牛ノ肥育試験
- 一 養鶏委託試験

六獸醫畜産技術員ノ養成

現地各關係機關ニ於テ直接農民ノ指導者タルヘキ農業技術員特ニ畜産技術員ノ養成ニ就テハ既ニ北京大學農學院畜牧學系及華北農事試験場農業技術員養成場ニ於テ専門技術等ノ特殊教育ヲ計畫的ニ行ヒツツアルモ初級専門技術員ハ現地ニ於テ臨時速成的ニ補足スルヲ要

スル場合多キヲ考慮シ營分ノ間必要ノ限度ニ於テ現地教育ニ依リ之  
カ養成ヲ圖ルモノトス

第三 所要經費

華北産科學研究所

農産指導計畫中ニ含メル

華北農事試験場

華北綿羊改進會

一、〇九一、九三二元

實業總省關係

四八七一五九元

計

一、五七九、〇九一元

第四 資材

瀋牡綿羊トシテ輸入スルコリデル種綿羊ノ外計畫的所要資材ハ無シ

昭和十六年度北支物動計畫

第一方 針

昭和十六年度北支物動計畫設定ニ當リテハ昭和十五年度ニ引續キ北支ノ政治的並ニ經濟的安定ト日本ノ戰時經濟ニ直接且有效ニ寄與スルノ施策遂行ニ遺憾ナキヲ期スルモ時ニ日獨伊三國同盟締結後ノ國際新情勢就中對英・米トノ國交ノ危機ニ鑑ミ隨時日本ノ總力戰移行ニ對慮セシトス

第二要 領

北支ノ經濟施策ハ徹底的重點主義ニヨリ極力物資ノ節約ヲ圖ルモ之カ遂行ニ必要ナル物資ハ成シ得ル限り現地主産ト現地輸入力ニヨル輸入物資ヲ以テ充足ヲ圖ルト共ニ北支開發ノ重要性ト現下物資供給ノ緊迫セル狀況ニ鑑ミ對日期待物資ノ確保ニヨリ其政策遂行ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

之カ爲處置スヘキ事項左ノ如シ

- (一) 對日期待物資ニ關シテハ北支ノ政治經濟ノ特殊性ト其開發ニ於ケル日滿支三國ノ經濟諸條件ノ綜合遠觀ヲ日本ニ求メ其所要數量ノ確保ヲ期ス
- (二) 北支現有施設ヲ極力活用シ生産力擴充ヲ圖ル
- (三) 所要主要物資ニシテ其原料ヲ北支内ニ於テ容易ニ得ラル、モノニ關シテハ其生産ヲ促進シ、之カ計畫的配當ヲ圖ル
- (四) 第三國期待物資ニ關シテハ輸入力ニ照應シ計畫的ニ其確保ヲ期ス尙國際情勢ノ悪化ニ因ル輸入困難ノ惧アルモノニ關シテハ事情ノ許ス範圍ニ於テ極力資金ヲ動員シ繰上輸入ヲ策ス
- (五) 對滿對蒙疆並ニ對中支トノ物資ノ交流ヲ一層圓滑且計畫化シ以テ北支不足物資ノ流入充足ヲ圖ル
- (六) 物資配給ニ當リテハ一般方針ニ基キ徹底的重點主義ヲ執ル
- (七) 物資供給力ノ異常ナル緊迫セル實狀ニ鑑ミ爲シ得ル限り物資消費規正ヲ實施ス



資金關係

第一方針

- 一、資金ノ供給ハ超重點主義ヲ採用シ且目的效果ノ達成ヲ急務ニ期シ得ル事業ニ對シ優先的考慮ヲ加フ
- 二、資金ノ調達ハ極力日本資金ノ導入確保ヲ圖ルノ外現地金融ノ計畫的統制ヲ強化スルトトモニ地場資金ノ動員ヲ策ス

第二要領

一、資金ノ供給

- 1. 左記事業ニ對シ優先的ニ資金調達ヲ圖リ其ノ他ノ事業ニ對シテハ極力壓縮ス

記

- (1) 軍需資材ノ生産並修理、作戰用消耗品ノ製造及作戰輸送力保持ヲ重點トスル事業

- (2) 食料物資ノ増産並保管ニ要スル事業
- (3) 對日供給物資ノ生産並輸送ノ確保ニ要スル事業
- (4) 緊急開發資材ノ生産並修理ニ要スル事業
- (5) 輸出品ノ生産ニ要スル事業
- (6) 其ノ他民政確保並治安工作等緊急已ムヲ得サル施設  
 2. 鐵道、水運、自動車及港灣ニ關スル施設ニ付テハ特ニ物動物資ノ削減減少及資金一層ノ制約ヲ顧慮シ作戰、治安工作及對日供給物資ノ確保ヲ主眼トシ其ノ他ハ必要最少限度ニ止ム
- 3. 前二項ニ關スル場合ト雖目的效果ノ達成ヲ急務ニ期待シ得ル施設ニ對シ資金ノ供給ヲ認メ效果ノ實現ニ長日月ヲ要スル施設ハ極力壓縮ス
- 4. 時局便乘施設ハ絕對ニ否認ス
- 5. 資材ノ調達又ハ配當見込確實ナラサル施設ハ抑壓ス

6. 資材ノ購入貯蔵ハ時局ニ順ミ眞ニ緊要已ムヲ得サルモノニ止ム  
 7. 資金使用ニ關シテハ徹底セル緊縮主義ヲ採用シ、最少經費ヲ以テ  
 最大ノ效果ヲ收メシムルコトトシ日滿遊休設備ノ移轉ヲ圖リ或ハ  
 事業主體相互間ノ專業競合ヲ避クル等資金ノ集中的合理的利用ヲ  
 圖ル

ニ資金ノ調達

1. 北支開發ノ重要性ト現下ノ資金需給ノ緊迫セル狀況ニ鑑ミ對日期  
 待資金ノ確保ヲ圖ルト共ニ速ニ地場資金ノ動員ヲ策シ以テ諸政策  
 遂行ニ遺憾ナキヲ期ス  
 2. 特ニ開發會社關係並國策的重要會社關係ノ事業資金ニ在リテハ對  
 日期待資金ヲ根幹ト爲ササルヲ以テ之カ日圓資金調達ノ確保ヲ期  
 ス

3. 一般産業資金ニ在リテハ金融ノ計畫的統制ヲ強化ス

4. 餘剩資金ノ效果的利用ヲ圖ル爲常ニ現地ニ於ケル事業會社等ノ手  
 許資金狀況ヲ調査シ其ノ餘剩資金ノ動員ヲ策ス  
 之カ爲メ

(1) 專業會社ノ利潤統制、經理統制ノ實施方策ヲ講スルト共ニ内地  
 向送金許可制等ノ實施ヲ考究ス

(2) 開發會社並其ノ子會社及國策的重要會社ニ在リテハ精細ナル資  
 金計畫ヲ樹立セシムルト共ニ經理監督ヲ嚴重ニ實施ス

5. 中國側金融機關ニ對シテハ既定方針ニ基キ聯銀ノ金融統制力ノ強  
 化ヲ圖ル

(1) 聯銀傘下ニ服スル銀行ヲ通シ中國側資金ノ吸收ニ努ム  
 (2) 聯銀ノ中國側金融機關ニ對スル調査ヲ強化ス

6. 中國側土着資本ノ吸引方法ヲ策シ現地資金調達ノ補充ヲ圖ル

7. 既定方針通り低物價政策ヲ遂行スルハ勿論ナルモ消費規制ヲ實施  
 スルト共ニ貯蓄奨励ヲ圖リ資金財源ノ培養保全ニ努ム

1. 穀物及穀粉

日	本	第三國及中南支
小麥粉	二九五六七千圓	七〇〇〇四〇千圓
粉	二一五五〇千圓	二四〇〇〇千圓
計	二九六六三〇千圓	九四〇〇〇千圓
計	二九六六三〇千圓	九四〇〇〇千圓

外ニ小麥粉三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百〇一、一百〇二、一百〇三、一百〇四、一百〇五、一百〇六、一百〇七、一百〇八、一百〇九、一百一〇、一百一〇一、一百一〇二、一百一〇三、一百一〇四、一百一〇五、一百一〇六、一百一〇七、一百一〇八、一百一〇九、一百一十、一百一〇一、一百一〇二、一百一〇三、一百一〇四、一百一〇五、一百一〇六、一百一〇七、一百一〇八、一百一〇九、一百一十、

昭和十六年度北支貿易指導計畫 第一方 針

時局ノ急激ナル變遷ニ鑑ミ北支ノ對第三國貿易ハ今後著シキ困難ニ陷ルモノアルヘキヲ豫想セラシテ此ノ際北支トシテハ急速ニ輸出ノ先ノ轉換並ニ對第三國貿易全般ノ派與ヲ圖ルト共ニ極力自域内ニ於ケル生産力擴充ニ努ムル等自營的對策ヲ講シ更ニ圓系地域ト密接ナル運繫ノ下ニ適地適應主義ニ依ル生産物資ノ交流ヲ圓滑ニシ圓系地域共榮經濟策ノ完遂ヲ期シ以テ非常時局ニ對峙スルノ要切ナリト認メラルル處昭和十六年度ニ於テハ更ニ之ヲ徹底セシムルノ要アリト認メラルルヲ以テ左ノ如キ計畫ヲ實施セムトス

二、輸入計畫

(一) 日本、第三國及中南支ヨリノ主要輸入穀額ヲ左ノ如ク豫定ス

35

2. 開發發材

(金額内ハ日本貿易委員會  
括弧内ハ十四年度實績)

日本		第三國及中南支	
鐵	一三四六九一噸	金屬及鑄	(三三三〇〇千圓)
銅及銅製品	四八二五千圓	機械及工具	(一三〇〇〇千圓)
器具	三四〇千圓	車輛及部分品	(七六〇五〇千圓)
鐵製品	三七八八千圓	雜金屬製品	(一六三〇〇千圓)
自動車及同部分品	一七七〇〇千圓	計	(六九一五〇千圓)
鐵道車輛及部分品	三三三八〇千圓		(三〇千圓)
機械及部分品	六二〇六〇千圓		

36

計

(六六九二五千圓)

(四九七四一十千圓)

「説明」

北支ノ産業開發ニ必要ナル資材ハ主トシテ日本ヨリ其ノ供給ヲ仰クコトナルヲ以テ十五年度計畫ニ基ク日本ヨリ北支ヘノ輸出ハ右ノ如ク一億六千五百九十二萬五千圓トナリ居ルヲ以テ現地資金ニ依ル輸移入額ハ一應過去一ケ年ノ輸移入額ヲ配當シ緊急對策トシテ繰上輸入スル分ハ別途計畫ス

3. 油類

日本		第三國及中南支	
	(一四〇八七千圓)	揮發油	(一四七五〇千圓)
		燈油	(一三〇〇〇千圓)
			(三〇〇〇千圓)

染料

油類ニ付テハ揮發油、石油等ニ關スル應急對策ニ基キ右數額ヲ輸入スルモノトス

日本	等三國及中南支
(九、四、九、八千圓)	(八、五、〇、〇千圓)
	(四、五、〇、〇千圓)

電油	二、三、〇、〇千圓
機油	六、七、〇、〇千圓
グリース	二、〇、〇、〇千圓
容器	一、三、〇、〇千圓

5. 化學藥品

日本	第三國及中南支
(一、六、二、九、一、千圓)	(二、八、〇、〇、〇千圓)
	(四、八、〇、〇、〇千圓)

6. 綿製品

日本	第三國及中南支
(一、〇、二、五、三、千圓)	(九、二、〇、〇、〇千圓)
	(一、〇、〇、〇、〇千圓)

「説明」

綿製品ノ第三國及中南支ヨリノ過去一ケ年ノ輸入實績ハ九千二百七十四萬圓餘ニシテ、同期間ニ於ケル北支ノ對中南支移出ハ四千五百五十七萬圓アリ、業者ノ推定ニヨレハ北支ノ綿製品需給ハ日本ヨリノ輸入、現地生産ヲ以テ充シ得スシテ中支ヨリノ移入ニ俟タサルヘカラサルモノハ二千萬圓見當ナリト

本年ハ日本ヨリノ輸入計畫モ昨年ヨリ著シク増加シ二倍餘トナリ居ル計畫ナレハ本計畫ニ於テハ二千萬圓ヲ計上ス

車輛及部分品  
雜金屬製品

四〇〇〇千圓  
六〇〇〇千圓

2. 油類

揮發油	七〇千	第三國及中南支	三四〇〇千圓 二〇四〇千米弗
揮發油	二〇千噸		一九八三三三圓
電油	六千		五〇〇〇千圓
機械油	一〇〇〇千圓		四〇〇〇千圓
容器	一〇〇〇千圓		五〇〇〇千圓
タンク資材			一三三三三三圓
揮發油(二萬分)			三三四千圓
重油(三千噸分)			六五〇〇〇千圓 三九〇〇千米弗
計			

金屬及鑽  
機械及工具

第三國及中南支  
三一〇〇〇千圓  
一八六〇千米弗  
三三〇〇〇千圓  
一八六〇千米弗  
六〇〇〇千圓

1. 開發資材

(一) 第三國及中南支ヨリノ線上轉移入數額ヲ左ノ如ク豫定ス

日本	三九一、四三二、千圓中ニハ油類及化學藥品ヲ含ム	第三國及中南支	二〇〇七〇千米弗
計	(三、五五五、四八七、千圓)		(三、三三四、七五〇、千圓)
計	(二、七九一、八〇五、千圓)		(二、四四三、一三三、千圓)
計	(三、五五五、四八七、千圓)		(三、三三四、七五〇、千圓)

7. 其他

品別	豫想額 (千米弗)	同上ヲ六弗ニテ換算額 (千圓)	十五年一月乃至六月實績 (千米弗)
豚毛	三三三六	五五六〇〇	二二二四
毛皮 (未仕上)	一九八八	四九八〇〇	一九九二
落花生	二五四〇	四二二三三	一六九三
加工卵	二一四五	三三七五〇	一四三〇
落花生油	一七九〇	二九八三三	一八九三
毛皮 (仕上)	一四五八	二四三〇〇	九七三
カーベット	一七七一	一九五三三	七八一
胡桃	七九四	一三三三三	五二九
豆素麵及マカロニ	五七〇	九五〇〇	三八〇
其他	四〇五四	六七五六六	二七〇五
合計	二〇八四七千米弗	三四七四五〇千圓	一三八九八千米弗

右ハ本年一月ヨリ六月末迄ノ中聯輸移出爲替買入高ニ基キ右實績ヲ基礎トシテ其ノ五割増ヲ一年間ノ輸出額ト見タルモノナリ。

二 輸移出計畫

(一) 第三國中南支向主要輸移出數額ヲ左ノ如ク豫定ス

1. 輸移入機構ノ整備
2. 輸入國ノ轉換 (例、石油ニ付英米ニ代ヘ蘭印、墨西哥ヲ豫定ス)
3. 輸入品ノ轉換 (例、濠洲麥粉ニ代ヘ泰米ヲ豫定ス)
4. 對國域期待量ノ増加
5. 華商又ハ外商ノ利用
6. 外國租界ノ利用

(二) 輸移入難ノ對策

トシテハ左記諸項ヲ充分檢討シ時局ノ推移ヲ注視シツツ善處セムトス

(一) 同域向石炭及鹽ノ數量ヲ左ノ如ク豫定ス

品別	日本	滿洲	中南支	計(單位千噸)
石炭	5800	5000	11000	8300
鹽	775	0	70	845

(二) 輸移出ノ振興策

1. 輸移出機構ノ整備
  2. 土産品出願ノ促進
  3. 對獨伊輸出ノ促進
  4. 輸出先ノ轉換
  5. 日本商社ノ督勵
  6. 華商及外商ノ利用
- 今後英米ノ對日關係惡化ノ度ヲ増スコトアリトスルモ北支土産品ハ概ネ英米ノ必需物資トモ見ラルルモノナルヲ以テ兩國ハ極力其

ノ獲得ヲ持續スヘキヤニ認メラル然レトモ兩國向輸出難モ豫想セラルルヲ以テ之カ對策竝ニ輸移出ノ全面的振興策トシテ前記ノ1.乃至6.ヲ充分檢討實施セムトス





昭和十七年十一月

緊急食糧増産方策實施概況第二報

在北京大日本帝國大使館

目次

- 一、全般の進捗状況
- 二、中央ニ於ケル事務的處置
  - (1) 報告協議會ノ開催
  - (2) 鑿井事例調査
  - (3) 施肥改善事業ニ關スル件
  - (4) 種子消毒事業ニ關スル件
  - (5) 施肥改善及種子消毒講習會ノ開催
- 三、鑿井事業進捗状況
  - (1) 進捗状況
    - イ 各特務機關別鑿井割當ニ對スル完成眼數
    - ロ 北京特務機關各縣別割當ニ對スル完成眼數
    - ハ 天津特務機關
    - ニ 河北省特務機關

- 水石門特務機關
- へ邯鄲特務機關
- ト德縣特務機關
- 子順德特務機關
- リ山東省特務機關
- 又河南省特務機關
- ル山西省特務機關
- (2) 揚水機幹旋狀況
  - イ河北省合作社聯合會揚水機幹旋台數
- (3) 鑿井用石炭配給狀況
  - イ各地區石炭配給一覽表
- 四 施肥改善事業進捗狀況
  - (1) 肥料ノ配給方法
  - (2) 各特務機關別春期小麥追肥用硫酸配給數量

- (3) 施肥改善指導
- (4) 施肥改善ニ依ル效果
- (5) 施肥改善優良事例
  - イ石門特務機關報告ニ依ルモノ
  - ロ天津特務機關
  - ハ河南省開封縣合作社聯合會
  - ニ山東省特務機關
  - ホ河北省特務機關
  - ヘ邯鄲特務機關
- (6) 各特務機關別秋期小麥作基肥用硫酸配給狀況
- 五 種子消毒事業進捗狀況
  - (1) 粟種子消毒用藥劑ノ配給
  - (2) 小麥種子消毒用藥劑配布狀況
    - イ各地區別小麥種子消毒用藥劑配布表

六 小地區土地改良事業進捗状況

(1) 進捗状況

イ 地區別計畫、實施、收穫面積比較表

ロ 三二地區土地改良事業一覽表

添附

一 施肥改善及種子消毒實施講習會開催要項

二 緊急食糧増産対策協議會名簿

一、全般的狀況

春期農作物作付時期ハ各地共略々順調ニ進行シタルモ爾後稀有ノ旱魃ニ災ヒセラレ發芽狀況思ハシカラス收穫ノ前途ハ多少悲觀的的狀況ニアリタリ

即チ粟種子消毒、小麥追肥硫安ノ配給等モ各現地機關ノ絶大ナル努力ニモ不拘部分的ニ早害ヲ蒙リタルハ遺憾ナリキ、如斯狀況下ニアリタルヲ以テ鑿井ノ重要性ハ益々高度ニ要求セラレ現地官民一體トナリタカ進捗ニ邁進シツツアルハ轉禍爲福トモ云フヘク將來ノ増産期シテ待ツヘキモノアリ

二、中央ニ於ケル事務的處置

(1) 報告、協議會ノ開催

増産對策ノ進捗ト共ニ現地狀況ニツキ詳細ナル報告ヲ求ムヘク七月二日興亞院ニ於テ第二回協議會ヲ開催シ主トシテ華北合作事業總會ノ各省合作社聯合會常務理事ヲシテ増産對策實施狀況ヲ報告セシメ

タリ

次テ八月五日第三回協議會ヲ開催シタリ

本會ニ於テハ主トシテ現地特務機關ヨリ増産對策實施狀況ノ報告ヲ豫定シタリシカ都合ニヨリ不能トナリ一般の狀況ニツキ懇談ヲ爲シ且ツ「小麥基肥硫安配給」「小麥種子消毒藥劑配給」ニツキ協議ヲ遂ケタリ

次テ十一月十三、十四、十五日ノ三日間軍及ヒ大使館主催ノ下ニ前同不能トナリタル現地特務機關ヨリ該對策係主任者ノ參集ヲ求メ報告ヲ聴取セリ本報告ハ當日提出セラレタハ各地區實施狀況ヲ基礎トシテ取纏メタルモノナリ。

(2) 鑿井事例調査

鑿井ノ進捗ニ伴ヒ之カ徹底的促進ト將來對策樹立ノ爲各種ノ狀況下ニアル地域ニツキ事例調査ヲ爲スヘク左ノ區分ニヨリ各地區共一縣宛ヲ選ビ滿鐵北支經濟調査所、華北交通株式會社、華北合作事業總

會及華北產業科學研究所ニ調査ヲ委囑セリ

調査區分

- 石門地區 (進捗度優秀ニシテ他地區ノ模範タルヘキ地區)
- 順德地區 (進捗度稍々劣ルモノニシテ之カ原因調査ヲ要スル地區)
- 開封地區 (進捗度稍々劣ルモノニシテ之カ原因調査ヲ要スル地區)
- 濟南地區 (進捗度稍々劣ルモノニシテ之カ原因調査ヲ要スル地區)
- 德縣地區 (鑿井促進ニツキ技術的ニ研究ヲ要スル地區)
- 天津地區 (鑿井促進ニツキ技術的ニ研究ヲ要スル地區)

調査割當

地區名	縣名	擔當者	備考
石門	正定	滿鐵	産研ハ各班ニ参加ノコトトス
順德	南和	華交	
開封	陳留	華交	

濟南	濟陽	合作社	
德縣	吳橋	華交	
天津	青	合作社	

(3) 施肥改善事業ニ關スル件

春期小麥追肥硫酸ノ配給ニ引續キ秋期小麥基肥硫酸配給ヲ計畫シ華北交通及合作事業總會ヲ實行團體トシ配給方法ニツキ協議ヲ遂ケ遺憾ナキヲ期シタリ

(4) 種子消毒事業ニ關スル件

本春ノ粟種子消毒ニ引續キ秋期小麥種子消毒ヲ實施ノコトトシ華北交通、合作事業總會及小麥協會ヲ實行團體トシ消毒藥劑配給實施ニツキ遺憾ナキヲ期シタリ

(5) 施肥改善及種子消毒講習會ノ開催

現地指導者ニ技術的知識ヲ徹底セシムル爲華北產業科學研究所ニ委囑

シ現地各特務機關主催ノ下ニ八月上、中旬ニ返リ講習會ヲ開催セシメタリ

別添開催要項参照一

尙本講習會中種子消毒ニ關スル部分ヲ抄録シ茲北合作事業總會ヲシテハンプレツトヲ作成セシメ各管行團體指導者用トシテ配布セシメタリ

### 三、鑿井學業進捗狀況

#### (1) 進捗狀況

既ニ決定セル割當並ニ完成期日繰上ニ基キ各地區共、地區、縣管行委員會主動ノ下ニ活潑ニ進捗シツツアリ、之カ狀況左表ノ如シ

各特務機關別鑿井割當ニ對スル完成眼數

省別	特務機關別	既設眼數	割當眼數	完成眼數	完成率	備考
河北	北京	九二四〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇	十月末
	天津	七八五五	一八〇〇〇	一六〇〇〇	八八九	
山東	石門	九五〇九六	一九二〇〇	一五二四三	九七八	九月末
	德縣	二五八一六	四五〇〇〇	二五〇四三	五五〇	
山西	順德	三九一七六	一六七五〇	一五一六〇	九〇五	九月末
	小計		一二九一〇〇	一〇三四九六	八九二	
山東	青島特別市		三五〇〇〇	三一三一三	八九四	九月末
小計			三五九〇〇	三二〇二一	八九二	

省別	特務機關別	既設眼數	割當眼數	完成眼數	完成率	備考
山西	山西省		一五〇〇〇	一三六〇〇	九〇七	十月末
河南	新鄉省鄉	三六二二六	一五〇〇〇	一二八一	八二二	九月末
蘇北			五〇〇〇			
總計			二〇〇〇〇〇	一六一二九七	八〇六	

縣別	割當眼數	完成眼數	完成率	縣別	割當眼數	完成眼數	完成率
寶坻	1	1		合計	1,800	1,600	88.9%
玉田	1	1		青	50	50	100%
興隆	1	1		新鎮	1	1	
贊皇	1	1		大城	1	1	
遷化	1	1		文安	1	1	
遷安	1	1		霸州	500	300	60%
灤州	100	100	100%	青海	1	1	
樂亭	100	100	100%	永清	1	1	
慮龍	1	1		安次	1	1	
昌黎	600	600	100%	天津	50	50	100%
撫寧	200	200	100%	武清	100	100	100%
臨榆	100	100	100%	寧河	1	1	

天津特務機關各縣別割當ニ對スル完成眼數

縣別	割當眼數	完成眼數	完成率	縣別	割當眼數	完成眼數	完成率
順義	100	100	100%	合計	2,000	2,000	100%
平谷	30	30	100%	北郊	50	50	100%
副河	80	80	100%	南郊	90	90	100%
香河	100	100	100%	西郊	50	50	100%
三河	150	150	100%	東郊	60	60	100%
通河	240	240	100%	昌平	100	100	100%
大興	200	200	100%	固安	100	100	100%
房山	150	150	100%	密雲	30	30	100%
涿州	200	200	100%	懷柔	70	70	100%
良鄉	150	150	100%				
宛平	50	50	100%				

北京特務機關各縣別割當ニ對スル完成眼數



河北省特務機關各縣別割當ニ對スル完成眼數

縣別	割當眼數	完成眼數	完成率	縣別	割當眼數	完成眼數	完成率	
蔚	三四〇	三一三	九二〇	合	計	一九二〇〇	一五二四三	九七八
容	一、四六〇	七九五	五四四	行	唐	六〇〇	五八二	九七〇
肅	一、〇六〇	一、一〇八	一〇四五	新	樂	六四〇	六一八	九六五
高	六〇〇	四三七	七二八	博	野	五四〇	二五九	四七九
安	五三〇	五二四	九八八	安	國	二四〇	一九四	八〇八
完	三〇〇	三〇八	一〇二六	定		一、七三〇	一、四一七	八一、九
蠡	九六〇	六三一	六五七	徐	水	二、二〇〇	一、九〇六	八六六
唐	四六〇	四七七	一〇四六	定	吳	一、七〇〇	九八八	五八一
望	五〇〇	五〇二	一〇〇四	深	水	五四〇	四二四	七八五
曲	四四〇	四一八	九五〇	易		五四〇	六一五	一一三、八
清	一、三四〇	一、三二五	九八八	新	城	二三八〇	一、四〇二	五八九

石門特務機關各縣別割當ニ對スル完成眼數

縣別	割當眼數	完成眼數	完成率	縣別	割當眼數	完成眼數	完成率	
高	三〇〇〇	三〇〇〇	"	合	計	三、一八〇	三、一八〇	"
正	五〇〇	五〇〇	"	石	門	一、〇〇〇	一、〇〇〇	"
元	四〇〇	四〇〇	"	贊	皇	二、〇〇	二、〇〇	一〇〇%
趙	五〇〇	五〇〇	"					
平	一〇〇		"					
獲	五〇〇	五〇〇	"					
深	三〇〇	三〇〇	"					
蠡	四〇〇	四〇〇	"					
正	四〇〇	四〇〇	"					
藥	五〇〇	五〇〇	"					
無	二〇〇	二〇〇	一〇〇%					

縣別	割當眼數	完成眼數	完成率	縣別	割當眼數	完成眼數	完成率
故城	1	1	100%	武邑	1	1	100%
德津	200	200	100%	衡水	200	200	100%
吳橋	600	600	100%	交河	1	1	100%
景強	100	100	100%	武強	100	100	100%
發強	1	1	100%	東鹿	400	400	100%
冀強	1	1	100%	晉	500	500	100%
新河	1	1	100%	獻	1	1	100%
寧晉	2000	2000	100%	饒陽	1	1	100%
南皮	1	1	100%	安平	1	1	100%
東光	1	1	100%	深澤	1	1	100%
阜城	1	1	100%	深澤	1	1	100%
合計	12650	12650	100%	合計	12650	12650	100%

德縣特務機關各縣別割當ニ對スル完成眼數

縣別	割當眼數	完成眼數	完成率	縣別	割當眼數	完成眼數	完成率
南樂	450	250	55.0%	涉	1350	247	17.0%
清豐	450	307	68.0%	武安	1350	557	30.0%
大名	3600	1392	38.0%	內黃	1800	1500	83.0%
廣平	900	507	56.0%	臨漳	3600	1500	41.0%
肥鄉	400	402	100.5%	彰德	6300	4200	68.0%
成安	3600	1467	40.0%	合計	45000	25043	55.0%
滋陽	3600	2720	75.0%	林	1	1	100%
邯鄲	5400	4150	76.0%	計	45000	25043	55.0%
永年	4400	2150	39.0%	涉	1350	247	17.0%
曲周	1350	420	23.0%	武安	1350	557	30.0%
雞澤	1800	149	63.0%	內黃	1800	1500	83.0%
縣別	割當眼數	完成眼數	完成率	臨漳	3600	1500	41.0%
				彰德	6300	4200	68.0%

邯鄲特務機關各縣別割當ニ對スル完成眼數

縣別	任	内	刑	沙	南	平	廣	威	南	巨	壽
割當眼數	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇								
完成眼數	三〇〇〇	三〇〇〇	一四一〇								
完成率	一〇〇%	"	四七								
縣別	臨	柏	隆	清	合						
割當眼數					計						
完成眼數					一六七五〇						
完成眼					一五二六〇						
					九一%						

ノ順德特務機關各縣別割當ニ對スル完成眼數

合	都	寧	安	滕	鄒	魯	德	高	清	齊	東	城	計
三、五〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、五〇〇〇
三、一三三	九一七	八八四	一八五	二〇八	四五〇	二〇〇	一、六七二	八九四	九二〇	八八四	九二〇	九一七	三、一三三
八九五	九一七	八八四	九二〇	六六〇	九〇〇	一〇〇〇	九二〇	八九四	九二〇	八八四	九二〇	九一七	八九五

縣	別	割管眼數	完成眼數	完成率	縣	別	割管眼數	完成眼數	完成率
鄒	平	一、〇〇〇	九四〇	九四〇%	昌	邑	一、〇〇〇	九四七	九四七%
高	密	二、四〇〇	二、二一三	九二二%	臨	清	一、〇〇〇	八五〇	八五〇%
武	城	一、〇〇〇	八九三	八九三%	濰	縣	一、〇〇〇	九四〇	九四〇%
夏	津	五〇〇	四五〇	九〇〇%	壽	光	一、〇〇〇	九五〇	九五〇%
恩	平	一、〇〇〇	九四〇	九四〇%	淄	川	一、〇〇〇	一、一四二	一一四二%
鄒	平	二、〇〇〇	一九三	九六五%	桓	台	五〇〇	五〇〇	一〇〇〇%
丙	城	五〇〇	四五一	九〇二%	濟	陽	五〇〇	三八四	七六八%
臨	樂	五〇〇	四七五	九五〇%	齊	河	一、〇〇〇	八五〇	八五〇%
平	原	五〇〇	四二二	八四四%	臨	淄	一、〇〇〇	九二〇	九二〇%
寧	陽	一、〇〇〇	六五〇	六五〇%	長	山	一、二〇〇	八九三	八九三%
嘉	祥	一、〇〇〇	八四五	八四五%	嶧		一、〇〇〇	九〇七	九〇七%

山東省特務機關各縣別割管ニ對スル完成眼數

河南省特務機關各縣別創營ニ對スル完成眼數

縣別	創營眼數	完成眼數	完成率
夏邑	一五〇	一五〇	一〇〇%
寧陵	六〇〇	六〇〇	一〇〇%
開封	七〇〇	五五〇	七九〇%
商邱	一一〇〇	六九一	六九〇%
長垣	二五〇	一五〇	六〇%
壽邱	三九〇	三一〇	八〇%
甲午	一〇〇	一〇〇	一〇〇%
杞	六〇〇	二〇〇	三三〇%
臨	三〇〇	二〇〇	六七〇%
陽	三〇〇	三〇〇	一〇〇%
睢	三〇〇	二〇〇	六七〇%
虞城	一〇〇	一〇〇	一〇〇%
縣別	創營眼數	完成眼數	完成率
陽武	二九〇	二九〇	一〇〇%
延津	四四〇	四四〇	一〇〇%
獲嘉	九五二	九〇〇	九五〇%
輝	九〇〇	九〇〇	一〇〇%
新鄉	一四八〇	九〇〇	六一〇%
汲	一三九〇	一三〇〇	九三〇%
淇	二〇八〇	八〇〇	三八〇%
滑	二〇〇	二〇〇	一〇〇%
陽陰	一三三〇	一三〇〇	九〇%
睢	七〇〇	七〇〇	一〇〇%

修武	修武	修武	修武
二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
二〇〇	一五〇	一五〇	七五〇
五〇〇	三〇〇	六〇〇	一〇〇%
五〇〇	五〇〇	一〇〇%	一〇〇%
計	一二八一	八二〇	

省	縣	特務機關別	既設眼數	割當眼數	完成眼數	完成率	備考
山西	陽泉	陽泉					
"	"	昔陽					
"	"	平定					
"	"	小計					
"	"	壽陽					
"	"	徐溝					
"	"	清源					
"	"	榆次					
"	"	大谷					
"	"	晉泉					
山西	陽曲	陽曲					
合計	合計	合計					

省	縣	特務機關別	既設眼數	割當眼數	完成眼數	完成率	備考
山西	陽泉	陽泉					
"	"	昔陽					
"	"	平定					
"	"	小計					
"	"	壽陽					
"	"	徐溝					
"	"	清源					
"	"	榆次					
"	"	大谷					
"	"	晉泉					
山西	陽曲	陽曲					
合計	合計	合計					

山西各特務機關別鑿井割當ニ對スル完成眼數

河	褭	沁	新	曲	臨	小	莠	平	綽	榮	臨	猗	永
津	山	水	絳	沃	汾	計	城	陸	縣	河	晉	氏	濟
				六〇〇		三〇〇〇						六〇〇	
				六〇〇		三〇〇〇						六〇〇	
				一〇〇		一〇〇						一〇〇	

虞	解	聞	夏	遷	小	變	沁	武	陽	晉	高	屯	長
鄉	縣	喜	縣	城	計	垣	縣	鄉	城	城	平	留	子
六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	三〇〇〇	三〇〇	三〇〇			四〇〇	三〇〇	五〇〇	四〇〇
六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	三〇〇〇	三〇〇	三〇〇			三〇〇	三〇〇	五〇〇	四〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	九一七	八五二	八五七	八三〇				七三三	九一四	一〇〇	一〇〇



右ノ如ク十月末現在ニ於ケル完成眼數ハ一六一、二九七眼（完成率  
 八〇六名）ニシテ北京、石門、德縣三地區ニ於テハ既ニ割當眼數  
 ヲ完成シ、他地區ニ於テモ完成目標準上ヲ行ヒタルニモ拘ラス困  
 難ナル諸條件ヲ克服シ良好ナル成績ヲ示シテアリ年内ニハ全地區ノ  
 完成ヲ豫想セララル

山西省	汾陽	中陽	離石	交城	文水	小計	合計
	400			100	200	500	500
				80	200	462	500
				800	100	900	924
							924

臨汾	襄陵	汾城	臨汾	洪洞	趙城	安澤	靈石	介休	霍縣	汾西	浮山	祁縣	平遙	合計
	300	300	600	500	400		800	569						500
		300	600	500	350									500
		300	600	100	895		711							100
		300	600	100	895		711							100



(2) 揚水機幹旋狀況

鑿井ノ成果ヲ實現スヘキ揚水機設置ニツキテハ各地區實行委員會及實行團體ニ於テ對策考究中ナルカ、一部河北省合作社聯合會ニ於テハ左表ノ如ク、五九〇台ノ揚水機(單價五〇〇圓)ノ購入ヲ幹旋シ又河南省合作社聯合會ニ於テハ鞏疆ノ幹旋ニツキ考究中ナリ

河北省合作社聯合會揚水機幹旋臺數

縣名	臺數	縣名	臺數	備考
清苑	一二〇	易	五二	
望都	一五〇	涿水	五〇	天津裕興公司製
唐	三六	定興	一五〇	
蠡	七	徐水	二五〇	
完	八〇	定	一五〇	

(3) 鑿井用石炭配給狀況

鑿井煉瓦用石炭四〇萬噸ノ配給ハ、山西省分割當三〇〇〇噸、蘇淮地區分割當一〇〇〇〇噸ニ對シテハ現金ヲ以テ交附シ三三〇八〇〇噸ヲ華北石炭、二七四〇〇噸ヲ山東煤礦產銷公司ヲシテ地區別ニ配給セシメ地區内ニ於ケル之カ配給ハ各特務機關ニ於テ行ヘリ  
右石炭ノ九月末ニ於ケル配給成績ハ左表ノ通りニシテ十月末ニハ完了ノ豫定ナリ

縣名	臺數	縣名	臺數	備考
安新	三〇	安國	二〇	
行唐	五五	博野	三〇	
清城	一五〇	新樂	九〇	
容城	四〇			
雄	三〇			
新城	一〇〇	計	一五九〇	

イ各地區石炭配給狀況一覽表

地區別	割當量(噸)	配給量(噸)	配給率	備考
北京	40000	40000	100%	
天津	60000	53960	89.8%	開張鎮務局撥炭
保定	38200	36510	95.6%	
石門	120000	118632	98.9%	石門特撥
新鄉	25200	16698	66.3%	新鄉特撥
新鄉	120000	19503	16.3%	向 上
山東	130000	9117	7.0%	配給超過一八九噸
濟南	27400	29703	108.4%	配給超過三三〇三噸 山東銷公司撥炭

徐州	現金交附
120000	
太原	現金交附
30000	
計	現金交附
398200	321445

四施肥改善事業進捗状況

(1) 肥料ノ配給方法

春期小麦作追肥用硫酸及秋期小麦基肥用硫酸ノ配給ハ一般配給ノ場  
 合ト同様重要肥料配給統制要項ニ基キ財団法人華北食糧平衡倉庫ヨ  
 リ各實行團體ニ配給セシメ更ニ各實行團體ヲシテ各軍特務機關指導  
 監督ノ下ニ農民ニ配給セシメタリ。

(2) 各特務機關區別春期小麦追肥用硫酸配給數量(一噸)

特務機關區別	華北交通	合作社	小麦協會	計	全上ニ依ル施肥面積(畝)
天津	一五〇	二〇〇		三五〇	七〇,〇〇〇
北京	五〇	二〇〇		二五〇	五〇,〇〇〇
保定	一〇〇	三五〇		四五〇	九〇,〇〇〇
石門	一〇〇	一五〇		二五〇	五〇,〇〇〇
計				一,〇〇〇	二,〇〇,〇〇〇

特務機關區別	華北交通	合作社	小麦協會	計	全上ニ依ル施肥面積(畝)
邯鄲	五〇	一五〇		二〇〇	四〇,〇〇〇
山東	五二〇	四三〇	二〇〇	一,一五〇	二,三〇,〇〇〇
芝罘		二五〇〇		二,五〇〇	五〇〇,〇〇〇
河南	三〇	一〇	一〇	五〇	一〇〇,〇〇〇
山西		一〇〇		一〇〇	二〇〇,〇〇〇
計	一,〇〇〇	四,〇九〇	二一〇	五,三〇〇	一,〇六〇,〇〇〇

(3) 施肥改善指導

化學肥料ヲ基幹トスル施肥改善ノ強行ハ鑿井灌漑ノ進展ニ伴ヒ食糧  
 増産達成上最モ喫緊ナルニ鑑ミ春期追肥硫酸ノ配給ニ際シテハ技術  
 者動員ニ依ル講習、講話、實地指導等ニ依リ又指導用印刷物ノ配布  
 等ニ依リ化學肥料ニ對スル認識啓蒙ニ努メ極力遺憾無キヲ期シタリ

富館ニ於テ作製配布セル指導用印刷物ハ左ノ如シ  
A 小麥作施肥法指針（指導者ニ配布） 三〇〇〇部  
B 關於栽種小麥時使用硫安肥料之注意事項（農民ニ配布）

二〇〇〇〇枚

(4) 施肥改善ニ依ル効果

春期小麥作追肥用硫安ノ配給ニ依リ小麥増産ニ及シタル効果ニ關シテハ輸送關係等ヨリ現地ヘノ配給一部遅延ニ依リ施肥適期ヲ失シ若干棉花等ノ換金作物ニ轉用セラレタルモノアリタルモ小麥ニ施用セラレタルモノノ効果ニ付各特務機關ヨリノ報告ヲ綜合スレハ硫安ヲ施用セルモノハ施用セサルモノニ比シ收量ニ於テ平均二五乃至三〇%ノ増收ヲ示シ成績顯著ナル地區ニ於テハ五〇%以上ノ増收ヲ舉ゲ居レリ。即チ計畫初年度ノ成績トシテハ大體ニ於テ所期ノ目的ヲ達成シ得タルモノト云フヘク之カ爲農民ノ化學肥料ニ對スル認識漸次高揚セラレ逐次本格的普及ノ域ニ進展シツ、アリ

今施肥改善優良事例ニ付具體的ニ調査セルモノヲ記載スレハ次ノ如シ

(5) 施肥改善優良事例

化學肥料ヲ基幹トスル施肥改善ニ依ル食糧農作物ノ増産優良事例トシテハ先ツ水稻、棉花ヲ舉ケサルヘカラサルモ該作物ニ對スル極メテ顯著ナル増收ノ事實ニ付テハ從來幾多ノ事例ニ依リ既ニ周知セラレ居ルヲ以テ茲ニ省略スルコトトシ昭和十七年度初頭食糧緊急増産對策トシテ小麥増産追肥用ニ配給セル硫安ニ依ル施肥改善優良事例ノ二、三ヲ例示スルニ止ム

(1) 石門特務機關報告ニ依ルモノ (畝當)

縣	村	追肥 硫安	土糞單用	硫安施用圃	土糞單用圃	硫安施用圃ノ增收	增收率	硫安施用圃ニ於ケル畝當收入
石門	柳辛莊	三二四	二四〇〇	一九八	一五九	三九	二五	五五三
正定	三角村	四一〇	五〇〇〇	一四四	九六	四八	五〇	七一八
元氏	東韓村	三二九	二〇〇〇	一一二	八四	二八	三二	二七〇
趙	劉家莊	四一〇	三〇〇〇	一五〇	一〇〇	五〇	五〇	九七五
欒城	北關村	三三〇	一三〇〇	九八	七〇	二八	四〇	三七〇
藁城	壽靈村	三二四	三〇〇〇	一一二	八四	二八	三三	一三〇
平均		六六	二八〇〇	一三六	九九	三七	三八	四八六

(備考)

(1) 本調査ハ石門特務機關ニ於テ調査員ヲ現地ニ派遣シ綿密ニ施行セラ

レタル調査ニ依ル

(2) 硫安施用圃ニ於ケル畝當收入増ニ於テハ原麥一〇〇市斤ノ價格ヲ二

七圓五〇錢、粳民ハノ硫安配給價格ヲ一圓當八〇〇圓ト見做シ畝當

增收分ヨリ硫安代金ヲ控除セルモノナリ

ハ天津特務機關報告ニ依ルモノ

指導團體	指導地區	畝當硫安 硫安施用面	全上平年下ノ收量比較	差引増収量	備考
合作社	冀東道	五	一八五〇〇	六八〇〇〇	四六
	津海道	五	一五五〇〇	五七〇〇〇	四二
	小計		三四〇〇〇	一二五〇〇〇	四四
鐵路局	天津愛路	五	二一三〇〇	七八四二〇〇	三九
合計			五五三一〇	二〇三四六〇〇	四一

(備考) 本表ハ各縣ニ於ケル調査報告ノ集計ニ依ル

河南省開封縣合作社聯合會報告ニ依ルモノ  
開封縣第一區邊村附近ニ於テ調査セル成績次ノ如シ

施肥月日 (追肥)	畝當施肥量 (硫酸)	收穫期	畝當收量		硫酸施用ニ 依ル増收率
			子實	稗	
三月二十日	(無施用)	五月三十日	一〇六市斤	二二市斤	一〇〇
"	五〇	"	一三五	二五〇	一二七
"	一〇〇	"	二五三	二五五	一四四
"	一五〇	"	一五二	二三八	一四四

(備考) 本調査ハ河南省特務機關指導ノ下ニ開封縣合作社聯合會ニ於テ施行シタルモノナリ  
山東省特務機關報告ニ依ルモノ  
山東省滕縣ニ於テハ小麥ニ對スル追肥硫酸ノ肥効極メテ顯著ナリ

リシ爲一般農民ニ及ホシタル刺戟甚大ナルモノアリ即チ施肥改善ニ依ル増收効果ヲ認識シ今秋基肥用硫酸ノ配給ニ當リテハ割當配給ヲ以テハ満足セス申込殺到シ遂ニ滕縣ノミニ於テ三〇〇噸ヲ突破スルニ至レリ、而シテ斯カル狀況ハ燕瀋、登州道管内ニ於テモ現出ヲ見タリ

河北省特務機關報告ニ依ルモノ  
合作社ヲシテ清苑縣ニ於テ調査セシメタルモノニ依レハ施肥改善ニ依ル増收ハ極メテ顯著ニシテ即チ品種河北一號ニ於テ硫酸施用時期(追肥)三月上旬畝當施用量五斤ノモノ子實ニ於テ五八%ノ増收ヲ示シ且硫酸ノ追肥時期早期ナルモノ程増收率良好ナル成績ヲ示セリ  
邯鄲特務機關報告ニ依ルモノ  
磁縣、邯鄲、雞澤方面ニ付調査セルモノニ依レハ三月中下旬小

麥作追肥ニ畝當五瓦程度ヲ施用セルモノハ施用セサルモノニ比シ平均三〇乃至四〇斤ノ增收ヲ示セリ

(6) 各特務機關別秋期小麥作基肥用硫酸配給狀況

春期増産方策ニ引續キ本秋華北食糧平衡倉庫ヨリ需要地最寄驛貨車乗渡シ一應當リヒ三〇圓ヲ以テ左券ノ如ク基肥用硫酸ヲ配給シ不足分ニ付テハ別途明春追肥用硫酸ノ配給ニ依リ充足スルコトトセリ

特務機關區別	合作社	華北交通	計	施肥面積(畝)
北京	二〇一	一五	二一六	二一六〇〇
天津	五二三	二〇〇	七二三	七二三〇〇
保定	三九三五		三九二五	三九二五〇
德縣		一〇〇	一〇〇	一〇〇〇〇

	石門	順德	邯鄲	河南省	山東省	山西省	蘇淮地區	計
	五〇〇		三七五	一三八五	一〇〇〇	四八	三〇	三二〇八
			五〇					四〇五
			三七五	一八八五	一〇〇〇	四八	三〇	三六一三
	五〇〇〇	四〇〇〇	三七五〇〇	一八八五〇	一〇〇〇〇〇	四八〇〇	三〇〇〇	三六一一三〇

(備考)

秋期基肥用硫酸ノ配給ニ際シテハ豫メ地方指導者ニ對スル適確ナル指導技術ヲ修得セシメ合理的施用ノ普及完竣ヲ期スルタメ八月

上旬各特務機關主催ノ下ニ一齊ニ施肥改善守地講習會ヲ開催シ多大ノ効果ヲ收メタリ  
 尙最近ニ於ケル各特務機關ヨリノ情報ニ依レハ各地共施肥障害等殆ント無ク之カ効果順調ニ推移シツ、アリ。

五種子消毒事業進捗状況

(1) 粟種子消毒用薬剤ノ配給

第一報ニテ報告ノ如ク五百萬畝ノ消毒計畫ニ基キ三次ニ亘リ一萬一千餘封度ノ薬剤ヲ配給シ顯著ナル効果ヲ收メタリ尙之カ施行ニ當リ指導獎勵費トシテ實業總署ヨリ官行團體ニ對シ左ノ補助金ヲ交付セリ

官行團體	旅行面積	指導獎勵費
合作社	二七七〇千畝	一三八五〇圓
華北交通	二二三〇	一一、一五〇
計	五〇〇〇	二五〇〇〇

(2) 小麥種子消毒用薬剤配布状況

粟種子消毒ノ効果ニヨリ各地ヨリ小麥種子消毒薬剤配給ノ希望アリタルニヨリ華北交通及合作社ヲ官行團體トシ春同様右券ノ如ク無償配布シ以テ増産確保ニ努メタリ。



1) 各地區別小麥種子消毒用藥劑配布表(キリシタ丸) (一)

消毒機關別	合作社	華交	小麥協會	計
深定	一〇八五	九〇五	一六〇	二一五〇
北京	九〇	四七〇		五六〇
天津	二二二五	二二〇		二四四五
唐山	一三五	一三五		二七〇
德縣	二二六〇	一二一五		三四七五
石門	九六〇	九三〇	一六〇	二〇五〇
順德	一四四〇	一五二〇		二九六〇
邯鄲	三二八〇	三三六〇	二四〇	六八八〇
開封	九六〇	八八〇	一六〇	二〇〇〇
新鄉	七一八五	三〇〇〇	二四〇	一〇四二五
歸德	六一六〇	三〇四〇		九二〇〇

省	計	施行豫定面積	指導獎勵費
濟南	一八八八〇	二〇一二〇	三二〇
青島	二一五	一	二一五
芝罘	一六〇〇	一	一六〇〇
山西省	八四〇〇	八〇四〇	一六四四〇
徐州	一、一六〇〇	五八〇〇	一七八〇〇
海州	四八八〇	四〇八〇	八九六〇
計	七、一三五五	五三七一五	一二六七五〇

本消毒藥劑配布ニヨル消毒施行豫定面積ハ五百萬畝ニ上ルモノトス  
 尙本種子消毒指導獎勵費トシテ左ノ通り實業總署ヨリ助成ヲ爲シタリ

實行團體 施行豫定面積 指導獎勵費

合作社 二、七〇五千畝 一、三五二五圓

華北交通 三、二三二 一、一六〇

小麥協會 六三 三一五

計 五、〇〇〇 二、五〇〇〇

六小地區土地改良事業進捗状況

(1) 進捗状況

華北政務委員會補償ノ下ニ華北墾業股份有限公司ヲ通シ中聯聯合準備銀行ヨリ融資セラレタル四二〇〇〇〇圓ノ事業資金貸付三二地區五三二町歩ノ土地改良事業ハ同公司外各地區機關ノ指導ノ下ニ事實ハ更ニ二五六町歩ヲ増加シ計畫面積五七八町歩ノ開田ヲ目標ニ着々進捗シ華北ニ於ケル水稻作付面積擴大ノ第一歩ヲ踏出セリ。計畫面積ニ對スル實施面積ハソノ七六%ニシテ四三七四町歩ヲ見ルニ至レリ

然ルニ其後ニ於ケル天候ノ推移ハ稀有ノ旱害ヲ惹起シ白河系統及滸河系統ノ水田ハ殆ント塩害ヲ蒙リ又山西地區ニ於テハ洪水ニ見舞ハレタルヲ以テ豫期ノ收穫ヲ擧ゲ得サリキ。各地區ニ於ケル小地區土地改良状況左ノ如シ

(1) 地區別計畫、實施、收穫面積比較表

地區別	計畫面積(イ)			實施面積(ロ)			收穫面積(ハ)		
	開墾地	變地	復舊	開墾地	變地	復舊	收穫面積	收穫高	比率
河北省	二八二四	四二〇〇	一	二二〇〇	一	一	一三三〇	二五〇〇	八六% 四一%
山東省	—	四七〇	—	二九〇	—	—	一七五	二三八六	六二% 三七%
山西省	二三四	六六〇	三六〇	三七三	二七〇	—	二六五	二一一五	五九% 三一%
河南省	三〇〇	二九〇	二〇	三〇〇	—	—	五五五	四四六九	一〇一% 九一%
合計	三三五八	一八四〇	三八〇	二九〇六	一八八三	二八五	四三七四	二三二五	七六% 四七% 九九%

面積單位 町歩  
收穫高單位 級和石

何三二地區土地改良事業一覽表

代表者	貸付金額	計開田面積	實施面積	開田方式	工事竣 工月日	植付面積	全上收量	備考
涿縣知事	三〇〇〇〇	四〇〇	四〇〇	荒蕪地開墾	七五	二〇	一一〇	
"	五〇〇〇〇	六〇	六〇	"	六二〇	三〇	一一〇	
"	四〇〇〇〇	六〇	六〇	"	六三〇	六〇	六〇〇	
金山贊享	五〇〇〇〇〇	三〇〇	三〇〇	"	六二〇	一〇〇	二五〇〇	
金澤大鐵	七五九一〇〇	八九〇	六四〇	"	七一九	五九〇	一四三〇〇	
中野宗一	五〇一〇〇〇	五〇〇	五七五	"	六四〇	三六〇	三六〇〇	
上田茂	五六五〇〇	六〇	六〇	地變二五 荒開三五	七一〇	六〇		塩害枯死
小谷晴亮	二六二〇〇〇	四六	一七	荒蕪地開墾	七一〇	一七		早害枯死
渡邊正美	七五四〇〇	六〇	六〇	地目變換	七二〇	四五	九〇〇	

西 西 乙	三九五〇〇〇	八〇〇	五九六	荒蕪地開墾	五二〇	二五	一一五	
金 麟 嶺	一〇五六〇〇〇	一三〇	一三〇	"	六一〇	一		塩害植付不能
山下良治	一七九〇〇	一七	六	"				塩害枯死
古賀光聖	二七〇〇〇	三〇	二三	"			一〇八	早害大半枯死
河 恒 雄	六四〇〇〇	四〇	一〇	"		一〇	一五〇	早害一部植付
加藤三之助	三八〇〇〇	三〇	三〇	地變荒開半	五一〇	一		塩害苗代枯死植付不能
志谷辰造	四九五〇〇	六〇	四〇	荒蕪地開墾	七一七	二四	一九二	
磁縣知事	六〇〇〇〇	一一〇	一一〇	地目變換	六三〇	一〇〇	二二〇〇	
河北道合計	二七九七九〇〇	三三四四	二七二六			一五〇七	二五〇〇五	
臨朐縣知事	一〇〇〇〇〇	一一〇	二〇	地目變換	六三〇	一七	八六	水量不足
臨淄縣知事	一七五三〇〇	一〇〇	一六〇	"		八五	一七〇〇	

遼陽縣知事	140000	140	110	地目變換	六二五	70	600	
山東省合計	四二五三〇〇	四20	二30			176	11826	
臨汾縣知事	193000	330	150	地目變換	六一五	150	1100	
趙城縣知事	200000	360	270	舊田復舊	五三〇	50	500	
太原鐵路局	183000	二二五	八七	地目變換	七〇%	四五	二二五	
足助憲照	120000	150	10	荒蕪地開墾	六三〇	10	50	
崑崙縣知事	50000	70	30		八〇%	10	150	
長子縣知事	12000	二五	三六	地目變換	六二〇	1	1	旱害植付不能
福家督眞	10000	14	10	荒蕪地開墾	六一五	五	1	水害全滅
森本文正	60009	100	100	地目變換	五三〇	100	1	
山西省合計	六七八〇〇〇	1194	六九三			320	1115	

輝縣知事	35000	50	100	地目變換	六	100	100	
淇縣知事	12200	10	15	既成水田改	六	15	165	
濟源縣知事	100000	100	400	地目變換	七二	150	655	
沁化鎮	150000	300	500	荒蕪地開墾	七二	300	1700	
水利合作社	150000	300	500			300	1700	
河南省合計	二九八八〇〇	六10	六15			555	4469	

(附)

一、施肥改善及種子消毒實施講習會開催要領

二、目的

施肥改善及種子消毒施設ニ依ル食糧増産ノ達成上地方生産指導者ニ對シ適確ナル指導技術ヲ修得セシメ以テ農村ニ普及徹底ヲ圖ルハ最モ緊急ナルヲ以テ左記要領ニ依リ之カ實施講習會ヲ開催スルモノトス

三、要領

- (1) 主催 各軍特務機關ヲシテ主催セシムルモノトス
- (2) 開催地 北京、天津、濟南、徐州、保定、石門、太原、邯鄲、開封

(備考)

開催會場ハ各軍特務機關ニ於テ選定スルモノトス

(3) 會期及日程

- 二日間
- 第一日 施肥改善 (自九時三十分講義 自十四時實地指導) 至十二時三十分
- 第二日 種子消毒 (右) 同

(4) 講習科目

(1) 施肥改善ニ關スル事項

- (1) 土壤ト肥料トノ關係
- (2) 肥料ノ性質及肥效
- (3) 小麥作ニ對スル施肥方法 (硫酸)
- (4) 實地指導 (圃場)

(2) 種子消毒ニ關スル事項

- (1) 藥劑ノ種類及性質
- (2) 種子消毒ノ效果
- (3) 實地指導 (圃場)

(5) 講師

項目	講師	所属	氏名
施肥改善	同	華北産業科學研究所	三好政壽
	同	同	米田茂男
種子消毒	同	華北産業科學研究所	關川清男
	同	同	瀨戶房太郎
種子消毒	同	同	圓城寺定男
	同	同	出水忠夫

(6) 受講者ノ範圍

(1) 縣職員 (日系職員一名以上必ず出席セシムルモノトス、尙票スレバ、華系職員ヲモ参加セシムルコト)  
 (2) 合作社、華北交通、新民會、小麥協會、棉產改進會、各所屬職員  
 (3) 其他軍特務機關ニ於テ必要ト認メタル者  
 (備考) 受講者ノ旅費ハ各所屬機關ノ看拂トス  
 (7) 開催地別開催期日及講師分擔

開催地	開催期日		講師分擔
	第一日(施肥改善)	第二日(種子消毒)	
北京	八月六日	八月七日	三好研究員
天津	八月七日	八月八日	出水研究員
濟南	八月九日	八月十日	出水研究員
徐州	八月十一日	八月十二日	出水研究員
保定	八月八日	八月九日	關城寺研究員
太原	八月十一日	八月十二日	關城寺研究員

開催地	開催期日	講師分擔
石門	八月六日	米田研究員
鄆城	八月八日	米田研究員
鄆城	八月九日	米田研究員
鄆城	八月十日	米田研究員
鄆城	八月十一日	米田研究員
鄆城	八月十二日	米田研究員

(8) 本講習會經費ニ關スル助成

一ヶ所二日間分會場借用費、出席者中食支給費、其ノ他雜費トシテ  
 開催地特務機關ニ對シ各々五〇〇圓ノ助成金ヲ交付スルモノトス  
 (備考)

右助成金ハ華北合作專業總會ヨリ支辨セシムルモノトス

二緊急會組増強警策協議會名簿

協議會名	電話番號	責任者名	氏名		氏名	連絡者	
			氏名	所屬		氏名	所屬
華北農工試驗場	二一六三	秋元貞次郎	稻塚權次郎	排稻科	稻塚權次郎	排稻科	西城砲家街
北京大鹽埭農校	四二四二一三四	麻 敏	敬 敏	敬 敏	純		東海運倉一三號
北京大鹽埭農校研究所	四二四二一三四	南 敏	敏 敏	錦織英夫			東海運倉一三號
北支那開發株式會社	四三三二一三九	小林茂三郎	長谷川 實作	物産部	湯淺隆宗	雜品課	東交民巷中間
華北交通株式會社	四三三二一三九	加藤新吉	入江久夫	營業局	江上利雄	營業局	東長安街一七號
滿鐵北支經濟調查所	四三三三七	田中九一	石井俊之		奧村	營業務班	燈市口同福茨道七號
華北鑛業股份有限公司	四三三一	加藤内藏助	永井一郎	建設局	友添	武企課	內一區東昌胡同五號
中華民國新民會	二四〇一六	王 揖	唐 志	古組	飯島易邦	組織部	西長安街
華北合作鑛業協會	二四〇四一七	王 陰	蔡波多	武指導科	塚居	順指導科	西單舊刑部街二六號
華北棉花改進會	四〇三四一三九	中富貞夫	二宮榮一	水利科	平澤榮一	理化室	內一區老鐵局棉選會胡同二九號
華北小麥協會	四一六八	德永英介	中井正一	企管課	中井正一	企管課	內一區珠承胡同
華北食糧平糶會	四八三二一五九	蔡原 政	森田 丑太郎		阪東重夫		內一區乾面胡同八口
華北石炭販賣會社	二一五九一	山本信夫	塚本 勇	地質課	古賀隆	地質課	內二區大倉胡同一三號

農野「資野」

昭和十七年十二月一日

昭和十七年度

陸井專例調査報告書

在北京大日本帝國大使館

研-0651



序	1
第一 推進機構	1
一、縣實行委員會ノ組織	1
二、縣實行委員會ノ活動狀況	1
ノ縣知事ノ鑿井狀況視察督勵	1
2 村長會議ノ開催數	1
3 常勤日華農業技術員數現地指導日數	1
及主要指導事項	1
4 鑿井督勵班ノ有無及活動狀況	1
三、實行團體活動狀況	1
四、上級實行委員會ノ指導狀況	1
五、現地部隊ノ援助條件	1
第二 村別鑿井割當	1
一、鑿井割當ノ根據	1
二、割當ノ狀況	1
三、事例調査村ノ概況	1
第三 鑿井費	1
一、一眼當鑿井費明細	1
ノ鑿井工法並ニ構造	1
2 鑿井材料費	1
3 鑿井勞力費	1
4 鑿井費明細	1
5 現金支出實額	1
二、費用軽減ニ對スル工夫	1
三、不足經費調達方法並ニ倍受條件	1
四、鑿井費ト灌溉栽培ニヨル收支ニ就テ	1
五、地價並ニ小作料ノ變化	1
第四 井戸利用	1
一、新井ノ利用	1

二、井戸ノ歸屬……………三二

三、耕地所有ヨリ見タル新鑿井農家……………三三

四、共同使用方法……………三三

五、揚水機設置狀況……………三四

第五、灌溉狀況

一、灌溉方法……………三六

二、井一眼ノ支配面積及一日ノ灌水能力……………三六

三、灌溉時期……………三七

目終リ

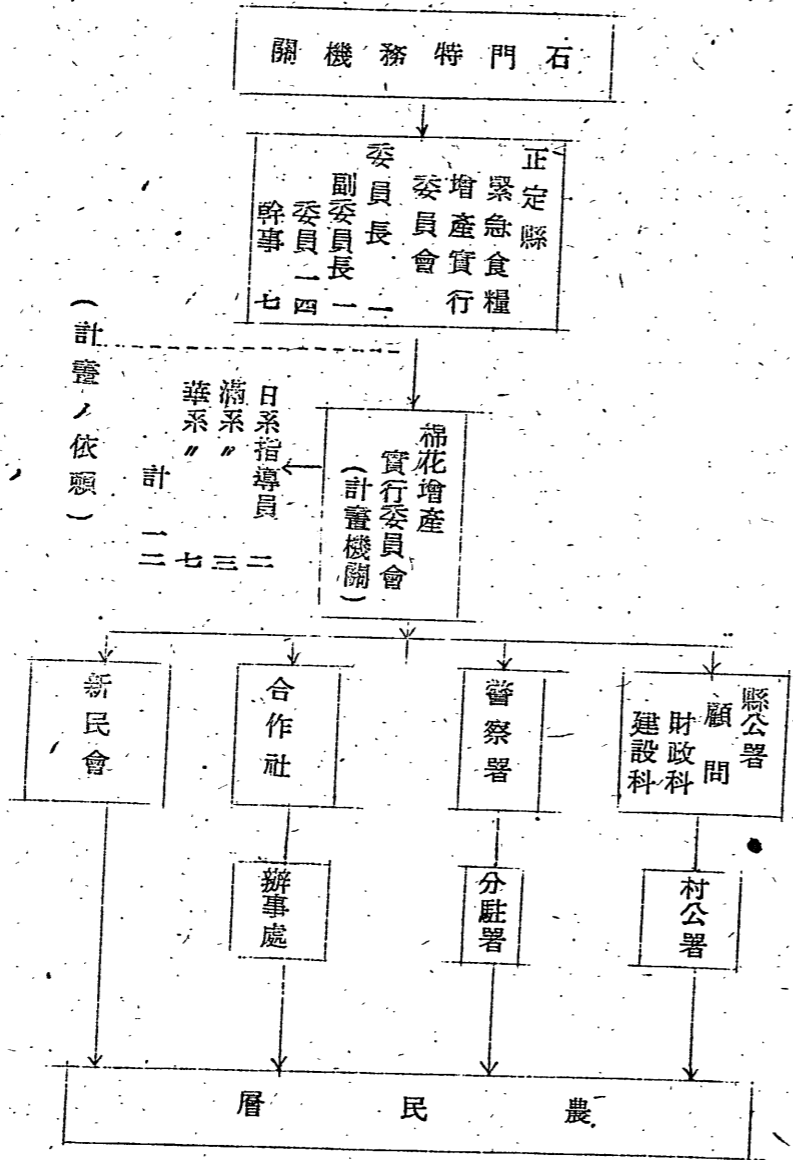
序

昭和十七年度ニ於テ華北緊急食糧増産ノ一対策トシテ二十萬眼ノ鑿井カ計  
 暨實施サレタ而モ實施カ當初ノ豫想ヲ突破シテ甚タ順調ニ進捗シタコトハ  
 華北ノ農産物増産ニ重大ナル寄與ヲ爲スモノイシテ誠ニ頼母シイ限リテア  
 ル

昭和十八年度ニ於テ更ニ三十萬眼ノ鑿井カ計上サレテ居ル時ニ當リ本年ノ  
 經過ヲ検討シ長ヲ採リ短ヲ補ヒ以テ明年ノ三十萬眼達成ニ萬全ヲ期スヘク  
 華北全域ヨリ見レハ甚タ規模ノ小サイモノテハアルカ左ノ事例調査ヲ綜合  
 シテ確固タル進路規定ノ一資料ト致度本稿ヲ編スル次第デアル

調査事例及擔當者

- 1. 河北省正定縣 滿鐵北支經濟調査所 大島清
- 2. 河北省吳橋縣 華北交通資案局 服部清
- 3. 河南省陳留縣 清水汀



第一、推進機構

一、縣實行委員會ノ組織  
 鑒井ハ緊急食糧増産對策ノ主タル題目トシテ取上ケラレ之カ推進ハ各級(省、地區、縣)緊急食糧増産實行委員會ノ指導ニヨツテ居ルモノテアル

縣實行委員會ノ組織ハ地方ニヨリ多少ノ差異ハアルカ概ネ左ノ形態トナツテ居ル

- 委員長 一名
- 副委員長(又ハ顧問)一名
- 委員 十名内外
- 幹事 數名

委員ハ縣公署各科長、日系輔佐官、實行或ハ協力團體ノ代表者及區、村長等ニ依ツテ編成サレテ居リ幹事ハ縣公署ハ顧問トシテ居ル

縣實行委員會ノ活動系統ハ別圖ノ如ク可成リ組織化サレテ居ルカ中ニハ形式的ニ流レ實力行使ノ行ハレテ居ナイ地方モアルコトハ否メナイ事實テアル又正定縣ニ於テハ棉花増産實行委員會ニ鑿井計畫ヲ依頼シテ居ルカ之ハトノ縣ニモ當ハマルコトハナイ新様ナ機關ノナイ所テハ當然一縣實行委員會カ直接計畫ニ當ルコトニナリ又斯ウシタ形カ最モ多イノテアル

### 二 縣實行委員會ノ活動狀況

ノ縣知事ノ鑿井狀況視察督勵

調査事例ニヨレバ正定、陳留ノ二縣ニ於テハ縣長自身カ直接障頭ニ立チ督勵ニ努力シテ居ルカ吳橋縣テハ治安關係並ニ縣行政ソノモノノ浸透程度カ比較的微力ナル爲鑿井ノ爲特ニ縣長カ一線ニ立チ指導督勵ヲ實施シタコトハナカツタ之ヲ數字的ニ示スト

正定	自三月至六月	三十五回	八十ヶ村
陳留		八回	一 四十ヶ村

吳橋 無シ

吳橋縣ノ場合ハ繩エサル共匪討伐、遮斷壕構築、公路新設等々ノ爲ニ次ニ述フル督勵班ノ活動共々ニ實施ノ暇カ無カツタト見ルノカ安當テアラウ

### 2 村長會議ノ開催數

縣實行委員會ノ活動狀況ニ不拘村長會議ハ現實ノ必要性カラ各地方共ニ連續的ニ行ハレテセル月一回乃至二回ノ開催カ普遍テアル村長會議ニ於テ最初ハ割當ノ問題ニ費サレテ居ルカ爾後ハ鑿井進捗ニツイテ報告、連絡、並ニ總括的ナ督勵カ爲サレテ居ル

然シ此ノ會議ハ縣實行委員會ノ積極的ナ活動カアツテ始メテ意義ヲ生スルモノテアル

### 3 當勤日華農業技術員數、現地指導日數及主要指導事項

正定縣ニ於テハ日人十人滿華人十五人トナツテ居ルカ縣公署自體カ有スル技術員ノミテハナク實行團體其ノ他ヨリ提供サレタ者ヲモ含

ンテ居ル  
而シテ是等技術員ノ現地指導日數ハ延約九十日ニ上ツテ居ルカ現地  
ニ於テハ指導事項ト云フヨリモ寧ロ督勵・事務連絡等カ主ニ爲サレ  
テキル例ヘハ鑿井ニ對スル農民ノ啓蒙運動、石炭煉瓦ノ配給ニ關ス  
ル監督等テアル

其ノ他ノ縣ニ於テハ技術員ノ常置ナク殆ト行政力一點張り或ハ放置  
ト云フ状態テアル此處ニ事ノ重大サト現實トノ喰違ヒカ生シテキル  
コトハ注目スヘキコトテアル

鑿井督勵班ノ有無及活動狀況

正定、陳留二縣ハ夫々督勵班ヲ組織シ推進シテホタカ他ニハ之カ見  
ラレナイ結局縣實行委員會ノ實ト能力ニヨツテコウシタモノノ存在  
ナリ活動ナリカ規制セラレル譯テアル

イ、編 成

正定縣ニ於テハ縣知事總指揮ノ下ニ縣ノ各科長ヲ班長トシテ五班 6

編成シ棉花増産實行委員會指導員、警察署員、合作社新民會等各機  
關ヨリ要員ヲ提供シ一班ハ概ネ四、五名テアル

陳留ニ於テハ縣公署幹部、建設科員及警備員ヲ以テ四班ヲ組織シ  
以テ指導督勵ニ當ツテ居ルカ正定縣程ノ組織化ハ認めラレテホナ

イ

更ニ吳橋縣ノ場合ハ何等督勵ニ對スル考慮カ拂ラハレテホナイコ  
トハ先ニ縣實行委員會ノ活動狀況テ述ハタ一般狀勢カ影響シテ居  
ルモノテアル

ロ、巡回指導督勵狀況

最モ優良事例タル正定縣ノ狀況ヲ見ルト次ノ如クテアル

班 數 五ヶ班

巡回日數 六十日(延日數三百日)

一回ノ巡回日數 四日―七日

右ニ依ル村落數 五ヶ村―十ヶ村

一ヶ村當指導時間 五、六時間

正定縣ニ於テ如斯積極的ナ活動カ景ラレタコトハ  
ノ實行委員會ノ組織ノ充實

2. 縣知事ノ專断ノ認許ト實踐力

ト云フニツノ基礎事實ニ加ヘテ更ニ見逃シ得ナイ左ノ事實カアル  
督勵班ニ擔當區域ヲ分擔セシメ鑿井完遂ノ責任ヲ負荷セルコト  
斯ク督勵班カ活動シ得ル環境ヲ作り且ツ班ヲシテ積極的ニ活動セ  
ネハナラヌ様ニ切↓トスルコトカ必要テアル

陳留ニ於テハ督勵班ノ活動ハ餘リ計畫性カナカツタ様テアル  
ハ、鑿井確認方法

鑿井ニ對スル諸種ノ助成、貸付或ハ指導等モ結局本項ヲ疎略ニシ  
テハ何等意味ヲ爲サヌクテ各地共此點ハ特ニ嚴重ニ行ハレテホル  
即チ警察分駐所員又ハ合作社辦事處員カ制當區域ノ進捗狀況ヲ毎  
週縣顧問ニ報告。正定。スルカ又ハ月例村長會議ノ席上報告 8

。：：陳留。：：シタルモノニ對シ更ニ督勵班カ巡廻確認スルト云ツ  
タ様ナ手段ヲ採ラレテ居ル  
9

5. 縣實行委員會ノ收支豫算並ニ財源

調査事例ニハ委員會直接ノ財源ナク且ツ收支豫算モ立テラレテナ  
イ唯正定縣ノ調査ニヨレハ鑿井ノ爲ノ費用ヲ縣公署カ左ノ通り支出  
シテ居ル

選炭費	一、一〇六〇〇〇圓
鑿井督勵費	一、二三〇〇〇圓
賞金	一、五〇〇圓
計	一、二三〇五〇〇圓

註 賞金六、五〇〇圓ハ模範村指導獎勵金ヨリ支辨セルモノニシテ成  
績優秀ナ村ノ村長、警察分駐署員（督勵班員）及ヒ鑿井者等ニ  
對シ一人當約五圓ヲ賞與シテ居ルカ之ハ完遂促進ニ重大ナ役割  
ヲ果シタモノト景ラレテキル

三、實行（協力）團體活動狀況

正定並ニ康留ニ於テハ實行委員會組織力強力ニ動イテ居タ爲ニ實行（協力）團體ハ此ノ組織内ニ於テ活動シテ居テ獨自ノ行動ハ見ラレナイ  
吳橋ニ於テハ合作社ハ單ニ資金ノ取扱ノミニ當ツテ居リ推進ノ一線ニハ何等關與シテ居ナカッタカ之ハ縣全體ノ消極性カ反映シテ居タモノト見ルヘキテアラウ

四、上級實行委員會ノ指導狀況

正定縣ニ於テハ石門地區棉花増産實行委員會ヨリ來縣五回ニ及ヒ進行狀況調査、指導奮勵ノ外必要資材ノ斡旋ヲ行ツテ居ル  
康留縣テハ省實行委員會ヨリ來縣四回ニ及ヒ正定ト略々同様ノ狀況カ見ラレタ

吳橋縣ノ場合ハ邊境ノ地ニアツタゴト及ヒ五月ニ震盪特別地區設定ニ依ル上級機關ノ移動等ノ爲未タ一同ノ來縣モ無カツタ次第テアル  
吳橋縣カ斯ク孤兒ノ如キ狀態ニ置カレタゴトハ誠ニ遺憾ナコトテ縣ノ10

活動鈍キ場合特ニ上級機關ノ働キカケノ必要性カ痛感サレル次第テアル  
11

五、現地部隊ノ援助狀況

調査報告中ニハ正定縣ニ於テノミ現地部隊ノ援助カ見ラレタ即チ「鑿井」増産：五分ノ治強」ト云フ認識ノ下ニ積極的ニ援助奮勵サレテ居タ即チ治安ニ支障ナキ限リ鑿井進行ニ影響ヲ與フル如キ勞力徵用ノコトナク且ツ煉瓦不足ノ場合等ハ應急工作ヲ與ハル等鑿井關係者ノ等シク感謝シテ居ルトコロテアル

第二、村別鑿井割當

一、鑿井割當ノ根據

正定縣ニ於テハ縣内ノ舊井カ三十五畝ニ對シ一眼ノ割合ニアルカ其ノ分布カ甚敷不均等ナルカ爲ニ之ヲ是正シ且ツ一眼當リ二十五畝ヲ目標トシテ割當ヲ行ツタ  
他縣ニ於テハ莫然ト耕地ノ大小或ハ水質ノ良否等ニヨツテ割當力決定セラレテ居ル

二、割當ノ狀況

縣	村	一〇〇畝以上	一〇〇畝未滿	五〇畝未滿	三〇畝未滿	割當無シ	縣鑿井眼數合計
正定	六村	二一村	二二村	六七村	七一村	四〇〇〇	
陳留	一	一	一	二一九	不詳	三〇〇	
吳橋	一	一	一	一七九	四七	六〇〇	

註陳留縣ノ割當ハ全部一村當三眼以下ニシテ吳橋縣ハ九眼(一ヶ村)ヲ最高トシ一眼割當ハ三十ヶ村ニ及フ  
右ノ如ク正定ニ於テハ縣内ノ狀況ヨリシテ計畫的ニ割當テラレタル

三、事例調査村ノ概況

モ陳留吳橋ノ如キハ唯散發的ニ平均的ニ割當テラレタルモノナリ

縣	村	舊井	新井	全村耕地(畝)	長戸數	新舊井戸一眼當耕地	主要作物
正定縣	三角村	九四	三三	三、一四四	二一九	二五畝	棉花一四〇〇畝、粟八〇〇畝、小麥四〇〇畝
陳留縣	大寺村	一三	三	六〇〇	三〇	三八畝	縣城邊邊ニシテ澗水ハ主トシテ蔬菜類ニノミ利用セラレタリ
吳橋縣	西疇莊	四	三	九五〇	五九	一三六畝	小麥雜穀九〇〇畝

備考

正定縣三角村ニ於ル井戸普及事情

三角村ニ於ケル灌溉井カ既存ノモノ九四眼、新井三三眼ニシテ現在ノ一眼當耕地面積二五畝ト云フ理想的形態ニ至レル事情ハ  
ノ民國九年ノ旱魃ニ遭遇シ灌溉ノ必要ヲ痛感シ部落民ノ自發的意識ト華洋義賑會ノ促進奨励ニヨリ舊來ノ鑿井カ行ハレタ  
2 自然的條件 1 1 水脈、水質、地下水位、水量等スヘテ好條件ニ



アリ且ツ土質ノ關係上非常ニ鑿井容易ナルコト  
3. 井戸灌溉ニヨリ農家經濟カ他地方ニ比シ一應安定シ農家各層ニ對  
シテ中農層ノ比重高マリ鑿井ノ經濟的可能性ヲ作り出シタ  
4. 井戸ノ共同使用カ村落共同體の相互扶助慣行ノ殘存ニヨリ非常ニ  
圓滑ニ行ハレテ居ル  
等ヲ舉ケルコトカ出來ル

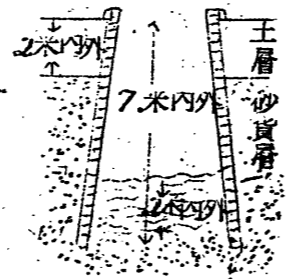
第三、鑿井

一、一眼鑿井の明細

ノ鑿井工法並ニ構造

構造ハ垂直圓筒型ト下彫型ト略々ニ係アリ且ツ鑿井ト土井ニ區別サ  
 レル今鑿井ノ工法ヲ略述スレハ  
 一、鑿井地盤ニ直徑一、五米許ノ穴ヲ垂直ニ約二、三米位ニ掘進メタル  
 後其ノ上部ニ一、マグラ一ヲ組ミ滑車ヲ吊シ「ゴツコ」或ハ水斗子  
 等ニ依リ土砂ノ取出ヲ爲ス、斯クテ水管ニ近ツキ木盛ヲ据エ煉瓦  
 ヲ圓筒型ニ積上ケル  
 二、土上ハ圓筒内部ヲ掘下ケルカ同時ニ煉瓦圓筒ハ餘々ニ沈下ス  
 此ノ除下彫型ニスル場合ハ煉瓦積ハ上部直徑ヲ餘々ニ縮小スル  
 ハ、斯クテ略々深定水深ニ達スレハ圓筒上部ノ煉瓦積ヲ完成スル

井戸断面略圖



口徑一、五米  
 底徑一、五米

2、鑿井材料費

勞力費ニ於テモ同様ノコトヲ言ヒ得ルカ土質、地下水位、水層等ニ  
 依リ地方的ニ異リ且ツ希望スル灌漑面積ニヨツテモ材料ノ多少カラ  
 ル譯ナル

事例	煉瓦	井蓋及不材	麻繩安平等	其ノ他	合計
三角 上口 口口 深徑徑 甲	四四〇〇 四〇〇 夜	二〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	一三四〇〇
大寺 上口 口口 深徑徑 村	四四〇〇 四〇〇 夜	二〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	一三四〇〇
代業 上口 口口 深徑徑 村	三三〇〇 三〇〇 夜	二〇〇〇	三三〇〇	一五〇〇	一三四〇〇
沈 上口 口口 深徑徑 村	三三〇〇 三〇〇 夜	二〇〇〇	四〇〇〇	一五〇〇	一〇八〇〇
西 上口 口口 深徑徑 村	二六〇〇 二〇〇 夜	一八〇〇	一〇〇〇	九〇〇	一八一〇〇

17

事例	煉瓦	井蓋及不材	麻繩安平等	其ノ他	合計
西 上口 口口 深徑徑 村	二六〇〇 二〇〇 夜	一八〇〇	一〇〇〇	九〇〇	一八一〇〇
同 内 構造甲	二六〇〇 二〇〇 夜	二五〇〇	三六〇	二二〇〇	一五八六〇

18

以上ヲ概観スレハ地方ニ依リ蓋井工法ノ相違ニヨリ使用材料カ極々  
 テアリ随ツテ材料費ノ主要部分カ非常ニ異ツテ來ル、三角村ノ乙ハ  
 例外ニシテ材料費カ大井一眼當リ一五〇、一八〇圓程度要スルト言  
 フ通則カ立ツコトニナル、  
 是處テ最モ問題トナルノハ煉瓦テアルカ一眼ニ對スル無償給付ノ煉  
 瓦、正定縣ノ煉瓦業者ニ石炭ヲ給與シ蓋井者ノ需要數ニ對シテハ

3. 釜井努力

一、一錢一厘ニテ買却セシム  
 二、陳留縣ノ煉瓦業者ハ二千枚ノ煉瓦ヲ二噸ノ石炭ト交換シ需要者ニ與フ  
 三、吳橋縣ノ煉瓦業者ハ一六〇〇枚ノ煉瓦ヲ二噸ノ石炭ト交換シ需要者ニ與フ。本縣ノ煉瓦ニ多少大形ハ長二五種巾一三五種厚六種一ナリ

以上三縣ノ石炭及煉瓦ニ對スル取扱方法ヲ比較スルト  
 一、陳留縣ハ所要煉瓦ヲ石炭ニテ完全ニ補ツテ居ル  
 二、正定縣ハ所要煉瓦故ト石炭竝ニ無利息貸付金トヲ考慮シテ略々現金支出ノ必要無キ則ク考慮サレテ居ル  
 三、吳橋縣ハ前表ニ見ル如ク煉瓦所製致ノ略々半數ヲ以テ石炭ニ噸ト交換シテ居ルカ交通。運搬等ノ關係ヨリ煉瓦ノ生産費ニ東海ヲ受ケタト見ルカ安富アアロウ。而モ本縣ノ材料費ノ大部分カ煉瓦代アアルコトハ注目ニ値スルトコロアアル

西橋村	沈儀村	代寨村	大寺村	乙	三角村甲	瓦工	釜井工	運搬工	雜用工	計
一八〇〇 一二人	一八〇〇 三人	一九〇〇 三人	三〇〇〇 五人	請 六人 賃 三人	六〇〇〇 七〇〇〇	七〇〇〇 七〇〇〇	三〇〇〇 三〇〇〇	三〇〇〇 三〇〇〇	一九〇〇 一八〇〇	一八〇〇 一八〇〇
九七〇〇 九七〇〇	無償奉仕			三六人	三〇〇〇 三〇〇〇	三〇〇〇 三〇〇〇	三〇〇〇 三〇〇〇	三〇〇〇 三〇〇〇	一七五〇〇 一七五〇〇	一七五〇〇 一七五〇〇
一八〇〇 一八〇〇	一八〇〇 三人	一九〇〇 三人	三〇〇〇 五人	一七五〇〇 二人	一九〇〇 八〇〇	一九〇〇 八〇〇	一九〇〇 八〇〇	一九〇〇 八〇〇	一七五〇〇 一七五〇〇	一七五〇〇 一七五〇〇

乙	丙
100人 1500	100人 1500
3人(木匠) 360	
88人 8800	請 88人
101人 10660	98人 1500

陳留ニ於ケル勞力奉仕ハ奉仕者ノ手辨當ニシテ鑿井者ハ湯茶、煙草  
 等ノ接待ヲ爲ス程度ニシテ之ハ縣實行委員會ノ指導ニヨルモノデア  
 ル  
 吳橋縣ノ事例内ノ訥帶ハ日本ノ「田植親類」ト稱スル如キモノニシ  
 テ當地方ノ「街坊」又ハ「隣居」等ノ言葉ヲ表ハサレテ居ル勞力無  
 償交換ノ慣行ヨリ出テタルノアアル  
 勞力費ニ伴フ雜費トシテ技術者ヘノ謝禮或ハ西港莊ニ於ケル給食費  
 用、三角村ニ於ケル完成祝儀費用等カ上ケラレル  
 外鑿井費明細ハ場水機費ヲ含マス

平均	丙	乙	西港莊甲	沈儀村	代寨村	大寺村	乙	三角村甲	材料費	勞力費	技術者費	給食費	雜費	合計
13875	15860	18100	18140	10800	11100	17800	6800	12400	19000	17500	2400	3975	700	27738
8388	15000	10660	11740	18000	19000	3000	17500	19000	17500	2400	10300	9800		29160
800	2000	2000	2400											
			11700					(祝)1700						
					(接待)2000			(祝)1900						
			43980	12600	15000	20800	26200	33100						

新築ニ速ク少數ノ事例カラ平均数字ヲ出スコトハ危険ナルカ一應ノ算出カ許サレラハ

イ、總平均 二七七三八

ロ、吳橋縣ヲ除イタ平均 二一五四〇

ハ、吳橋縣平均 三八〇六七

ト言フコトニナリ、イ、ロ、ニ對スルハノ過剩額一〇〇、一六〇圓ト言フモ、ハ略々煉瓦ニ對スル支出ト見ルコトカ出來ル

次ニ吳橋縣中、乙ノ事例ニ於ケル給食費ヲ令メタ勞力費カ他ニ比シテ可成リ高額ヲ示シテ居ルト言フコトモ考慮ノ余地カテ、ロウ勞力費ノ遲延形態ハ陳舊縣ニ於ケル如キヲ望ム次第テアル

更ニ鑿井費内ニ於ケル各費用ノ比率ヲ見レハ次ノ如クナル

材料費 勞力費 給食費 謝禮 雜費 計

五〇〇 四四六 四九 二五 一〇〇〇

鑿井費ヲ如何ニシテ減少スヘキカヲ考察スル場合ハ

イ、材料ヲ如何ニ安價ニ供給スヘキカ

ロ、勞力費支出ヲ如何ニ合理化スヘキカノ二點ニ集中サレホハナラヌコトニナル

カ、現金支出寬額

	鑿井費	現金支出額	備考
三角村甲	三三、一〇〇	二八、一〇〇	無利息鑿井資金五〇圓ヲ控除ス
乙	二六、二〇〇	二一、二〇〇	以下全部同様
大寺村	二〇、八〇〇	一五、八〇〇	
代寨村	一五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
沈樓村	一二、六〇〇	七、六〇〇	
西潘壯甲	四三、九八〇	三〇、五八〇	前記ノ外給食費現物支出八四圓ヲ控除
乙	四一、〇六〇	二八、二六〇	同 七八圓
丙	二九、一六〇	八、五六〇	同 手持煉瓦見積額七八圓控除 七八圓
平均	二七、七三八	一八、七六三	鑿井費ニ對スル現金支出額ノ比六七・六%

是處ニ興味アル問題ハ陳留縣ニ於テハ勞力費ノ無償提供ヲ爲サシメ  
 タル外鑿井費其ノモト運モ村内ノ共同負擔トシテ處理シタコトテア  
 ル即チ陳留縣内左ノ諸款カ農民ニ一率ニ割當テラレテ居ル。此ノ事  
 ハ井戸ノ利用カラ云ヘハ井戸ノ利益カ個人又ハ數人ノ者ニ歸スルカ  
 所有ハ龍運村共有ト云フコトヲ強調スルモノニ他ナラヌノテアル

大	寺	村	五〇錢
陳	留	縣	一〇錢
陳	留	縣	一〇錢

二、實用經濟ニ對スル工夫  
 一、正定縣ニ於ケル事例  
 本縣ニ於テハ煉瓦ノ普通價格ハ一夜四、五錢テアルカラ四千夜ヲ要  
 スル井戸ヲハ煉瓦ガ一六〇、二〇〇圓ニ達スルカ縣實行委員會ノ力  
 ハ煉瓦製造業者ニ二噸ノ石炭ヲ與ヘ所要煉瓦ハ格々特別鑿井資金ヲ  
 以テ贈与得ル如ク工作セリ、煉瓦一夜一錢一厘テ配給シタト云フコ  
 トハ二噸ノ石炭ノ價值ヲ一〇〇、一五〇圓ニ昂上ケタコトニナリ農

民ハ之カ爲ニ材料費ヲ大イニ輕減シ得タコトニナル  
 吳橋縣ニ於テハ地方自治ノ情モアリ之ト同様ニ八行カナクトモ大イニ  
 考證セラルヘキテアル

三、不足經費調達方法並借受條件  
 一、正定縣三角村ニテハ前述ノ如ク中農層以上ノ農家カ壓倒的比重ヲ  
 占メテ居ル關係上經營ハ概ネ自己資金ヲ專足リタ又多少ノ不足カア  
 ツテモ親族、知友等ヨリ短期信用借ヲ受ケルニ何等ノ手數ヲ要セヌ

鑿井勞力費ヨリ村内ノ共同奉仕ニマツテ補ハシメタニ前述ノ如ク鑿井  
 費其ノモノカ諸款ニヨツテ處理サレタカ、實行委員會ノ指導力ハ他  
 縣ニ於テモ地方事情ヲ考慮ノ上大イニ收入レテ良イ工作テアル

吳橋縣ニ於ケル事例  
 一、吳橋縣ニ於ケル事例  
 吳橋縣ニ於ケル事例  
 吳橋縣ニ於ケル事例

狀況ニアツテ他地方ニ聞クカ如キ花店ヨリ高利ノ融通ヲ受ケルトカ  
 又ハ青田賣却ニヨリ充足スルト云フカ如キコトハ見受ケラレナカツ  
 タ  
 ロ、陳留縣ニ於テハ一切カ難款ニヨリ處理セラレタ爲ニ當然本問題ハ  
 生セヌコトニナル  
 ハ、吳橋縣ニ於テハ鑿井割當ニ際シ既ニ之ヲ忌避セルニヨリ知レル如ク  
 且ツ鑿井費用ノ莫大ナル爲事例甲、乙共ニ借金ノ已ムナキニ至ツタ  
 事例甲

借用額 二一〇圓 八〇圓 親戚四人ヨリ  
 一三〇圓 知人七人ヨリ  
 事例乙  
 借用額 一一五圓 一〇〇圓 親戚四人ヨリ  
 一五圓 知人二人ヨリ  
 兩者共無利子、短期、信用借入ニシテ期限ハ別段ノ取極ナキモ夏作  
 收穫後返却ノ際定ナリト

右ニ見ル如ク些少ナル金額ヲ故人ヨリ分割借入セルハ本莊ノ經濟狀  
 況ヲ明テカニ物語ルモノナアル  
 事例丙ハ勞力費ノ節約、屎瓦ノ手持等ニヨリ經費不足ニ至ラナカツ  
 タ

四鑿井費ト灌溉栽培ニヨル收支ニ就テ  
 三角 村  
 灌溉ニヨル增收

	畝當收穫量	灌溉	灌溉ニヨル增收	同上價格	民國三〇年單價
棉花	六〇斤	一〇〇斤	四〇斤	六七	二二八〇
小麥	三斗	六斗	三斗	一〇〇	一五〇〇
粟	六斗	一〇斗	四斗	六七	一八〇〇
					五七〇〇
					五〇〇
					四五〇

2. 畝當灌溉費  
 鑿井割却費 一三二  
 水車子割却費 二〇〇



先ツ盛井期却費ハ一畝ノ盛井費三三〇圓トシニ五畝灌溉十ヶ年銷却トス

水車子ハ一盞五〇〇圓トシ前者同様ノ算出ニヨルモノトス  
 役番費ハ買備トシ一頭一日三圓トス  
 勞力費ハ一人役二圓五〇錢トス

灌溉費目	棉	花	小	麥	米
盛井期却費	一三三二	一三三二			一三三二
水車子銷却費	一〇〇〇	一〇〇〇			一〇〇〇
役番費	〇八	二四〇	一四	四二〇	一〇
勞力費	一八	四五〇	二七	六七五	二一
計	一〇三三	一四二七	一四二七	一四二七	一四五七

3. 灌溉費ト收入増トノ比較

	畝當灌溉費	畝當増収益	差引利益
棉	一〇三三	二二八〇	一二五八
小	一四二七	一五〇〇	七三
麥	一、五七	一八〇〇	六四三

註 灌溉栽培ニ於ケル灌溉費ヲ除イタ生産費ハ無灌溉ノ場合ト同様ノモノトシテ相殺セリ

右ノ如ク三作物共ニ増収益ヲ得テ居ルカ此ノ算出カ農家ノ自費盛井、水車子自費購入トシ之等ノ銷却ハ無利子トシテアルコト  
 更ニ役番勞力ノ買備等々ノ假定ノ下ニ算出セラレタモノテ現實ノ農家  
 經濟ニ於テ井戸灌溉ノ導入ニヨリ生起スル影響ハ更ニ更ニ復雑化スモ  
 ノアアルカ今回ノ調査ニ於テハ其處マア究明サレテ居ナイカ一應ノ收  
 支ヲ擧ケタ次第ナル  
 五 地價竝ニ小作料ノ變化

本調査ニ於テハ具体的ナ数字ハ得ラレナカツタカ、小作地テアル場合  
小作科率ノ確實ハ當然ニシテ石門附近ノ例ヲトレハ作物科率ノ半量ヲ地  
代附加物トシテ地主ニ納入スルヲ常トシテ居ル  
又地價ノ高騰モ亦生産ノ安定化ヨリシテ必然的ノ現象ナリ

第四、井戸利用

一新井ノ利用

新井ノ利用ハ調査當時各地共抄々シカラサル狀況ニアリ特ニ陳留ノ如キハ完成ガ七月ニ人ツタコト及夏作ガ蝗害ヲ蒙ツタ爲ニ僅カニ甘薯ニ利用サレタ程度デアツタ

吳橋ニ於イテハ小麦ガ殆ド無收穫ノ狀況ニ陥ツタ頃ニ井戸ノ完成ヲ見タノデ利用ノ途ナク僅カニ棉花ニ一回灌水シタルモ爾后ハ多雨ノ爲井戸ハ其ノ必要ヲ認メナカツタ

二井戸ノ歸屬

正定縣ニ於テハ「新規鑿井方針ハ個人所有ヲ原則トシ共同所有ハ希望ニヨリ情況ヲ參酌ノ上許可ス」コトトシテ居ルガ新井三十三眼ノ歸屬ハ個人所有七眼二一％ニシテ他ハスベテ共同所有デアリ且ツ共同利用デアル

陳留縣ニ於イテハ鑿井費處理ノ結果當然村共有トナル譯デアルガ利用形態ヨリスレバ個人又ハ數人ノ共有デアル

三耕地所有ヨリ見タ

鑿井農家

吳橋縣ノ場合ハ、乙共ニ個人所有ニシテ丙ノミハ二人ノ共有ナリ  
正定縣ノ事例ニ於イテハ中農層ガ新鑿井農家ノ主タル部分ヲ占メテ居ルガ吳橋縣事例ニ於イテハ努力乏シキト鑿井ヲ好マザルトニヨリ耕地所有面積ノ多ホキ者ニ三眼ガ割當テラレタ之等新鑿井農家ハ辛フジテ中農層ト云フベキ地位ニアルモノデアル

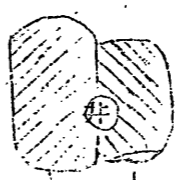
將來ノ鑿井ノ割當ハ増産ト出廻リノ關係並ニ鑿井進捗ヨリシ一層然中農層以上ニ重點ガ指向セラルベキデアル

四共同使用方法

井戸ノ共同使用ハ農村ニ共有ノ相互扶助的ナ慣行カラシテ非常ニ融通ノキク形態ニアル例ヘバ正定ノ「個人所有ヲ原則トスル」ト規定シテラ一方ニ於テハ「附近他人耕地ニ利用セシムルコトヲ條件トシテ」ト明カニ示シテ居ル

實際ニ共同使用ノ場合使用順序等ハ何等紛争スルコトナク作物ノ狀況或ハ共同圈内農家ノ社會的地位等ニヨリ圓滑ニ使用サレテ居ル又個人

所有ノモノデモ所有者ニ差支ヘノ無イ限リ附近ノモノハ利用出來ルノ  
 デアル是ハ陽水機ノ借用等ニモ全様ニ云ヒ得ルコトデ此ノ場合借用料  
 等ノ考慮ハ全然爲サレテキナイ如斯ハ單ニ相互扶助ト云フ様ナ問題ノ  
 ミデナク持テル者ノ「面子」ト解釋シテモヨイ  
 鑿井費及能力ノ分擔ハ吳橋ノ專例丙ニヨレバ二人ノ共有井トシテ蒙利



新鑿井ノ共同使用比率ハ左ノ如シ

正定	七九%
原留	一〇〇%
吳橋	三三%

五揚水機設置状況

正定縣新井四千眼ニ對シ水車子ノ新規購入ハ一七〇台テ甚ダ不満足ナ  
 状況ニアリ

井ノ利用ヨリシテ急速ニ此ヲ點考慮サレズニテハナラズ  
 陳留ノ調査專例ニ於イテハ何等ノ考慮モ拂ハレテ居ナイコトハ農  
 灌概ニ對スル認識ノ欠除モサルコト乍ラ指導者ガ積極的ニ働キカケル  
 必要ヲ痛感スル處デアル

吳橋ノ專例ニ於イテハ夫々輪軸ガ設置サレテ居ル  
 元來本年ノ鑿井ニ於イテ二噸ノ石炭ヲ給與セルハ二五畝灌概ヲ目標ト  
 セル大井ノ掘鑿ニシテ當然水車子ガ設置サレネバナラヌカ現下ノ物價  
 ト資材關係ヨリシテ全面的ニ之ヲ設置スルコトハ可成リ困難性ガ伴フ  
 カ差當リ足ラサル輪軸ヲ以テ補ヒ活用ニ完璧ヲ期サネハナラヌ

第五、灌漑状況

一、灌漑方法

普通大井ノ聯合ハ冢首一、勞力一ヲ以テ水車子ヲ運轉スル揚水ハ盛土  
勾配或ハ自然勾配ニヨル送水路ニヨリ自田ニ耕墾ニ導カレル送水路ハ  
幹線ノ外ニ適當ナル間隔(五―一五米)ニ小溝ヲ設置スル送水路ノ普  
通三〇種、深サ二〇種程度ナリ

二井一眼ノ支配面積及一日ノ灌水能力  
ノ六井

最大限五十畝一日五畝ト云ハレルカ然シ此ノ面積ヲ灌水スル爲ニハ  
家畜二頭、勞力二―三人ヲ晝夜ヲ分タス作業ヲ續ケネハナラヌ普通  
ニハ一眼二十五畝一日三畝程度テアル

2小井  
作力ノ種類、時期、氣象條件等ニヨリ能力ニ差異アルハ勿論テアル

一人一日轆轤ニヨル灌水能力ハ約一畝カ普通テ一人丈ケノ場合ノ一

日ノ作業時間ハ七時間位ノモノナリ

井一眼ノ支配面積ハ十畝―十五畝程度カ普通テアル

三、灌漑時期

正定ノ棉花ニ例ヲトレハ

一水 穀雨前後(四月末―五月)

二水 夏至(六月二十日頃)

三水 小暑(七月初旬)

四水 處暑(八月下旬)

五水 秋分(九月下旬)

六水 霜(十月下旬)

ノ六回トナツテ后ルカ之ハ基本的ナ形テアル

農機ノ例ニヨレハ

棉花 播種前一回

小麥 〃

トナツテ后ル

發芽後一回

〃

〃

〃

生育期二回

〃

〃

〃

計四回

〃

〃

〃

参考表

正定縣三角村ニ於テ新鑿井戸ノ所有利用關係

番號	經營様式並ニ規模		鑿井地點	利用關係	所有關係	水車子 所有關係	事實上ノ鑿井 費用負擔者	鑿井戸 眼數	鑿井戸所在地	備考
1	自作地	小作地 60	小作地	個人	私有	一箇本人所有	地主	1	小作地	
2	" 30	" 10	"	共同	共有	"	"	5	自作地	
3	" 15	" 30	自作地	"	"	"	本人	6	小作地	10 ト同ジ
4	" 2	" 7	"	"	"	"	共同	ナシ	ナシ	
5	" 35	" 15	小作地	"	"	"	地主	2	自作地	
6	貸地 25		"	"	"	"	共同	3	"	
7	自作地 //	小作地 50	"	"	"	"	地主	1	小作地	
8	" 37	" 14	自作地	個人	私有	"	本人	3	自作地 小作地	
9	" 9	" 8	小作地	共同	共有	"	地主	1	自作地	
10	" 15	" 30	"	"	"	"	"	6	小作地	5 ト同ジ
11	" 8		自作地	個人	私有	"	本人	2	自作地	
12	貸地 50	自作地 60	"	"	"	"	"	3 2	自作地 貸地	
13	自作地 25	小作地 5	"	"	"	ナシ	"	2	小作地	
14	" 60	" 10	小作地	共同	共有	一箇本人所有	地主	5	自作地	
15	" 24	" 10	自作地	"	"	"	共同	1	自作地 小作地	
16	貸地 10		小作地	"	"	"	地主	4	小作地	
17	自作地 65	" 8	"	"	"	"	"	1	"	
18	" 80		自作地	"	"	"	共同	2	自作地	
19	" 75		"	"	"	"	"	2	"	

20	"	40	小作地 100	小作地	"	"	"	地主	5	自作地 小作地	
21	"	17	"	13	"	"	"	共同	1	自作地	
22	"		"	37	"	"	"	地主	1	共同 <small>知ノ中間 一所在ス</small>	29 ト同ジ
23	"	21	"	5	自作地	個人	私有	本人	1	小作地	
24	"	5	"	5	"	共同	共有	共同	1	"	
25	貸地	5	"	"	"	"	"	ナシ	ナシ	ナシ	
26	自作地	23	"	15	"	"	"	一箇本人所有	1	自作地 小作地	
27	"	10	"	3	"	"	"	ナシ	ナシ	ナシ	
28	貸地	6	"	"	"	"	"	ナシ	3	自作地	
29			小作地 37	小作地	"	"	"	一箇本人所有	1	共同 <small>知ノ中間 一所在ス</small>	22 ト同ジ
30	自作地	17	"	15	自作地	個人	私有	本人	2	小作地	
31	貸地	6	自作地 6	"	共同	共有	"	共同	ナシ	ナシ	
32	自作地	10	小作地 30	小作地	"	"	"	"	1	自作地	
33	"	12	"	10	自作地	"	"	"	1	自作地 小作地	